

321  
42

# 各府縣輸出重要品調査報告

(徳島、香川、愛媛、高知)

附 産業概況

農商務省商工局

# 各府縣輸出重要品調查報告

## 目次

一、德島縣	一頁
一、香川縣	七十九頁
一、愛媛縣	百四十一頁
一、高知縣	二百二十一頁



# 各府縣輸出重要品調査報告

## 德島縣

### 産業概説

本縣ハ四國ノ極東南ニ位シ東海峽ヲ隔テ、紀伊、攝津、淡路ト相對シ南、太平洋ニ面シ西北ハ他ノ三國ト連接シテ彼我海陸ノ交通ヲ保チ其地理的關係ニ於テ本邦商工業ノ中心タル大阪市ニ接近セルヲ以テ一縣産業上ノ趨勢ハ形影相趁フカ如キ状態ニアリ即チ本縣生産ノ啓發ハ大阪市場ノ消長ト相須ツテ彼我關連セルモノ鮮ラス然レトモ其直接ノ關係ヲ有スルハ主ニ商工業ニシテ一縣産業上ノ全体ヨリ觀察スレハ農業ト工業トハ其生産力ニ於テ略ホ相一致シ之ニ亞クモノ水産林産ナリトス元來本縣ニ於ケル商工業ノ地位ハ前述ノ如ク商工業ノ中心タル大阪市ニ接近シ而カモ製鹽、阿波織、綿「子一ル」ノ如キ特有工業ヲ有スルニモ拘ハラヌ其生産ニ於テ農業ノ下位ニアル所以ノモノハ要スルニ海陸交通ノ設備完カラサルト一般營業者カ商工業上ノ知見博カラサルモノアルニ職因ス

惟フニ本縣商工業ノ發展ハ先ツ以テ海陸交通機關ノ完成ヲ圖リ一面ニ於テ特殊工業ノ振作啓發ヲ期スルニアリ而シテ將來本縣ノ縣是トシテ農業ノ利益ヲ助長スルハ素ヨリ言フナ須タサル所ナルモ更ニ商工業ニ於テハ其有利ノ地位ヲ利用シテ以テ之カ發展ヲ計ルハ最モ焦眉ノ急務ナルヘキヲ信ス

是ト同時ニ本縣トシテ更ニ先天的有利ノ事業ハ水産業ニシテ縣ノ疆域ハ三面海ヲ以テ環ラシ海岸線實ニ六十里ヲ占メ其沿海ノ島嶼ハ魚族介藻ノ棲息繁殖セルモノ頗ル饒多ニシテ刺蝦、海參、鱧鮓等ノ海外輸出品ノ生産モ亦鮮ラスト言フ斯

クノ如ク内ニ好適ノ漁場ヲ有シ其製品亦有望ノモノナルニモ拘ラス一ケ年ノ生産額僅々二百萬圓ノ下ニアルハ甚遺憾ナリト言フヘシ然レトモ縣ニ於テモ亦見ル所アリ目下種々ノ獎勵法ヲ設ケ其發達進歩ヲ期圖シツ、アルヲ以テ漸次利益ヲ増進シ得ヘキヲ信ス

林業ニ於テハ本縣ノ森林ハ實ニ總面積ノ七十「パーセント」ヲ占ムルニ拘ラス荒廢年ヲ追フテ甚タシキカ爲メ縣ニ於テハ特ニ森林整理事業ヲ起シ或ハ模範林ヲ設定シ以テ營林ノ方法ヲ一般ニ周知セシメ將來ニ於テハ縣ノ基本財産ヲ造成スルノ方針ナルカ故ニ現時生産收入ハ未タ三百萬圓ニ上ラサルモ逐年其増進ヲ見ルノ機到來スヘキヲ信ス

今本縣生産力ノ統計(明治三十八年)ヲ示シ更ニ各産業ノ大勢ヲ叙述セントス

總額	二千七百九十二萬五千二百八十七圓
內	
農産	千四百八十三萬千八百四十一圓
工業	千二十萬三千三百三圓
林産	二百三十八萬千二百九圓
鑛産	十五萬六千五百四十七圓
水産	百九十二萬五千九百七十一圓
畜産	三十五萬二千七百六十七圓

備考 各一萬圓以上ノ生産力ヲ有スルモノニ對シ調査セルモノニ係レリ

### 農 業

本縣農業ハ各生産業ノ主位ニアリ現今耕地ノ作付段別ハ明治三十八年現在ニ於テ田二萬四千八百二十八町畑三萬九千五百拾町ニシテ之ニ從事セル戸數八萬七千五百十六戸人口三十八萬一千九百九十四人現住人口每百ニ付五十四人二六ニ當リ今本業ニ對シ重要生産品ノ現況ヲ詳悉セントスルニ際リ豫メ其梗概ヲ記述セントス

由來本縣農作物ハ之ヲ普通農業ト特殊農業トノ二者ニ區分セサルヘカラス前者ハ即チ米、麥、雜穀、豆菽、蔬菜等ニ屬スルモノニシテ後者ハ藍、煙草、甘蔗、薄荷、桑等ノ各種ナリ故ニ普通農業ノ狀態ヨリ言ヘハ近時ニ於テハ著シキ發達ヲナシ各種收穫物ノ如キハ累年其產出額ヲ増進セルモノ、如シ之等ノ原因ハ耕作方法ノ周密施肥ノ改良撰種等重ナルモノニシテ其成績顯著ナルモノアリ特用作物ニ於テハ藍ハ外藍輸入ノ爲メ著シキ打擊ヲ受ケ又甘蔗ニ於テモ同様ノ悲境ヲ見ツ、アルモ之カ爲ニ桑畑及薄荷、陸稻等ノ増加ヲ見ツ、アレハ農民ノ經濟ニ於テハ唯一時據作ノ煩ヲ見シニ過キサルモノ、如シ更ニ之ヲ各種ノ方面ヨリ觀察スレハ輸入肥料ハ歲々二百萬圓ヲ稱シタルモ現在ニ於テハ百萬圓ヲ超エス農家ニ於テ補給肥料ノ策ヲ講シ以テ其收利ヲ擧ケツ、アリ煙草作ニ於テハ耕作段別ニ限定アルアレハ俄カニ發展ノ見込ナシト雖モ既往ノ實蹟ニ依レハ漸次收穫高ヲ増加シツ、アルニ止ラス製品トシテ其嗜好ニ適スヘキ方法ヲ採リ乾燥法等ニ充分留意スル所アリタレハ其聲價追日ニ高キ狀態アリ又本縣農業ニ於テ特記スヘキハ農業ト工業トノ密接ナル關係ヲ有スル一事是レナリ即チ藍作ニアリテハ耕作者ハ殆ント製藍業者ニシテ甘蔗耕作者ハ即チ製糖業者タルナリ故ニ農業ハ原始產物ヲ以テ直ニ市場ニ販出スルニアラスシテ或ハ加工シ或ハ精製ニシテ以テ直ニ需要者ニ供給シツ、アリ恣ル狀況ナルヲ以テ農業ト言ハンヨリハ寧ろ商工業ニ近ク殊ニ藍ノ如キハ全國各地ニ販路ヲ有シ半農半商トシテ盛ニ賣買シツ、アリタレハ今日ニ於テハ商機ヲ直ニ作物ニ應用シ却テ成效ヲ見サルモノナキニ非ルカ如シ尙果樹及蔬菜ハ其產出品中縣外ニ

輸出セルモノ頗ル多ク殊ニ果樹ハ前途頗ル有望ノモノアリ要スルニ其進歩發達ニ至リテハ當路ノ留意ト農者ノ努力ニ依リ漸次其産額ノ増殖ヲ見ントシツ、アルハ疑フ可カラサル事實ニ屬セリ

(一) 現況

本縣各種産業上其産額ニ對シ農業ノ地位ヲ求ムレハ殆ント其總額ノ半ニ達セリ今重要農産物ニ付キ其生産額ヲ示セハ左ノ如シ

(一) 重要生産物生産額	
種類	数量
米	四七三、一六八 <sub>石</sub>
麥	四三一、四二六
葉藍	三、八四四、八〇八 <sub>貫</sub>
甘藷	一六、七三二 <sub>石</sub>
甘藷	一六、二三三、三六二
煙草	八〇〇、四五二
大豆	三三、一三九
芋	六、二五八、二〇五 <sub>貫</sub>
蔗	三、六五一、〇七五
穀	四〇三、一六四
種類	價額
米	五、九一四、六〇〇 <sub>円</sub>
麥	三、六六七、一二二
葉藍	一、五三七、九二三
甘藷	七四七、七五七
甘藷	六四九、三三四
煙草	四九二、六三二
大豆	三三一、三九〇
芋	三二二、九一〇
蔗	一四六、〇四三
穀	四〇三、一六四

其他	
種類	價額
蔬菜	四五二、九一〇
果樹	一七七、〇五五
合計	一四、八三一、八四一

備考

本表ハ主トシテ三十八年前三ケ年ノ平均ニ係レルモ爾ハ連年進歩著大ナルヲ以テ特ニ三十八年ニ依リ其他三種モ三十八年ノ事實ニ據リタリ

以上掲ケシ所ニ依リ農産總金額ニ對スル各種類ノ地位ヲ見ルニ左ノ如シ  
(二) 農産總額ニ對スル各種類ノ割合

種類	農産總額ニ對スル割合	種類	農産總額ニ對スル割合
米	四〇、九	葉煙草	三、四
麥	二五、五	大豆	二、三
葉藍	一〇、六	穀	二、八
蘭蔬	五、二	菜	三、一
甘藷	四、五	果樹	一、七

本表ハ總金額ヲ百トシ算定セルモノナリ

(三) 農産輸出品

種類	数量	價額
米	一五二、三二〇	一、七九八、一四五 <sub>円</sub>
合計		五

麥	四七、一五〇	三八一、七二三
繭	四、六五九	二五四、七九八
柑	三〇、〇〇〇	一八、〇〇〇
蔬		一〇、〇〇〇
合		二、四六二、六六六

(四) 輸出先及需用供給ノ狀況

農産物中主要ナル輸出品トシテハ米、麥、繭、柑橘等ナリ故ニ縣外輸出品トシテハ却テ爾餘ノ物産ニ比シテ少額ナリ

一 米

米ハ統計上拾五萬石ヲ示セリ然レトモ三十七年ノ如キ豊作ニ在リテハ殆ント貳拾七萬石ノ輸出ヲ見タリ今本品ノ輸先ヲ調査スレハ其過半ハ大阪及兵庫市場トシ之ニ亞キテ和歌山、中國各港等ニ及ヘリ本縣産米中其市場ニ歡迎サル、ハ早稻及中稻ノ特ニ市場ニ現ハル、ノ早キニ在リ素ヨリ是等ハ其額甚タ少ナリト雖モ唯早出ヲ以テ名アルモノニシテ大部分ニ至リテハ中晚稻及晚稻ノ種類ニ屬セリ

二 麥

麥ノ輸出ハ大阪、兵庫、廣島等ノ諸縣ニシテ其輸出港ハ徳島及撫養ノ二港トス由來縣農民ノ多クハ殆ント麥食ヲ爲シツ、アリシカ近時外國米ノ輸入逐日増加セルニ伴ヒ麥ノ輸出漸次増大シツ、アリ是レ農家ノ麥食ヲ米食ニ變スルニ至レルニ因セルモノ多シ小、大麥等ニ至リテハ多ク縣内ニ於テ製粉シ之ヲ縣外ニ輸出スルノ狀況ニ至ラス故ニ輸出ハ悉ク裸麥ノミトス

三 繭

繭ハ三十八年ニ於テ四千六百五拾九石ノ輸出ヲ爲セリ是等ノ仕向地ハ三重、奈良、金澤、静岡、京都、愛知等ノ諸縣ニ互リ尙本場地トセル信州ニ向ケ輸出セシモノ多カリシハ本縣産繭ノ種類統一シ其解舒良好ニシテ糸質優等ナルニ依レルモノナリ

四 柑橘

柑橘ハ輸出品トシテハ殆ント温州蜜柑トス輸出額ノ過半ハ大阪ニシテ其他ハ福井、金澤等ナルカ近時此額ノ漸次増加スルニ伴ヒ敦賀等ヨリ露領浦鹽斯德或ハ大阪ヲ經テ韓國等ニ輸出スルモノアルモ其額ニ至リテハ未詳ニ屬セリ

(二) 農業ノ沿革

農業ニ於ケル普通農作物トシテハ殆ント記スニ足ルモノナシト雖モ特有作物ニ於テハ數々變遷消長ノ沿革ヲ有セリ今其重ナルモノニ付キ左ニ掲記セントス

一 藍

本縣農産物中特筆スヘキハ藍作ナリ是レ雷ニ本縣ニ於ケル産出物トシテ記載スルノミナラス本邦ニ於ケル染料トシテ今尙海外輸入品ト相拮抗シ植物性染料トシテ其眞價ヲ保持シツ、アルハ人ノ知ル處ナリ故ニ其沿革及事業ノ盛否ニ就キ特ニ詳悉スル所アル可シ

阿波藍ノ沿革

本縣ニ栽植スル藍ハ其始メ印度ノ原産ニシテ本邦ニ於テ此種子ヲ栽培セシハ播州ナリト云ヘリ然ルニ舊徳島藩主蜂須賀氏ノ祖播州龍野ニ居城シ封テ阿波ニ移サレテ以來盛ニ農利ヲ説キ殖産ニ努メ大ニ開發スル所アリ現今裁

培セル藍ノ始メハ此時播州ヨリ輸入セラレシモノナリト雖モ其年代ニ至リテハ寶永ト云ヒ或ハ元和年間ト稱セリ當時此栽培ヲ爲セシハ吉野川沿岸膏腹ノ地ニシテ名東、名西、板野、麻植ノ四郡ナリキ故ニ現今尙藍ノ本場ト稱スルハ板野、麻植、名西等各郡吉野川沿岸ノ地ヲ指稱セリ爾來逐年盛況ヲ極メ寶曆四年ニハ玉師株ヲ指定セラレ更ニ大阪賣藍問屋株ヲ定メ明和三年ニ及ヒテハ郡代奉行ヨリ藍方奉行ヲ分割獨立セシメ藍作及製藍ニ關スル事業ヲ主宰シ明和四年ニ至リ之ヲ藍方代官所ト改稱シ藍大市ヲ行ヒ專ラ其保護政策ヲ執レリ此時既ニ弘ク全國ニ販路ヲ有シタリ是レヨリ以降明治初年ニ至ル迄其產出額益々増殖シ外國製藍ノ輸入巨額ヲ呈スル迄最盛期ニ於テハ其金額實ニ五百萬圓ヲ超ユルノ状態ナリシナリ

維新以降ハ廢藩置縣トナリ種子輸出ノ禁ヲ解カシテヨリ各府縣ニ於テハ大ニ是レヲ栽培ニ努メシ結果漸次地藍(他府縣藍)ヲ増加セシト雖モ耕作製造方法熟練ナル本場產品ニ匹敵スルモノナク殆ント獨占ノ姿ヲ呈シツ、アリタリ而カモ耕作法ノ改良ト共ニ作付反別減少ニ拘ハラヌ左表ノ如ク收穫高ヲ増加シタリ

年次	作付反別	收穫高	一反步收穫高
明治十年	一七、二〇〇	五、八二〇、八〇〇	三四、〇
同二十年	一五、七〇〇、〇	六、〇四四、五〇〇	三八、五
同三十年	一二、六二〇、二	四、八八五、一七〇	三八、七
同三十八年	六、〇七三、八	三、六四九、四九三	四〇、五

斯ノ如ク藍作ハ維新以降連年其產出額ヲ減少シ殊ニ作付反別ニ在リテハ其最盛期ニ比シ殆ント三分ノ一ニ減少セリ今減作ノ原因ヲ討究スレハ各種ノ事情ヲ存セルモノアルモ其主要ナル打撃ハ外國製藍ノ輸入ニ因セルモノナリ(其詳細ハ工業ノ部製藍ノ項ニ詳悉ス可シ)ト雖モ亦肥料及勞働賃銀ノ昂騰等亦多少之レニ影響ヲ與ヘタルモノナリ

ルベン

二 煙草

本業ノ起因ハ頗ル古ク加フルニ異説多キヲ以テ容易ニ其沿革ヲ知ル能ハサルモ永祿年間當時ノ領主三好氏ニ依リテ美馬郡東端山村ノ農家ニ種子ヲ授ケラレ之ヲ切替畑ニ播種セシメタリトノ説稍信スルニ足ルモノアリ大日本產業事蹟煙草沿革ノ條ニ「阿波野田院、唐里(郡里村ヲ謂フ)等皆名産トス」云々ト然ラハ同年代ニハ既ニ郡里重清ノ地ニ栽培セラレシモノナラン更ニ文化文政年間美馬郡東祖谷山大技名字京上ニ於テ夏ト云ヘル女子煙草ヲ栽培シお夏煙草ノ名ヲ博セシコトアリ又同年代ニ於テ三好郡山城谷村粟山名ニ莊藏ナル者紀州ヨリ種子ヲ携ヘ歸リ同名四拾五戸ニ配付栽培セシニ葉色佳良香味亦好和ナルヲ以テ大ニ繁殖シ宮前煙草ノ名アリ更ニ明治維新前美馬郡一字村大字奥山與大野名ニ長順ナル山伏アリテ毎年良葉ヲ産シ遂ニ長順煙草ノ名ヲ得シ等特記ス可キモノニシテ爾來維新後ニ於テモ盛ニ栽培セラレ全國有數ノ産地トナレリ然ルニ近時ハ耕作區域ヲ限定セラレシ爲メ此作付反別ノ増加ヲ見ルコトナシト雖モ其改良ニ至リテハ各人等シク注意シ大ニ面目ヲ更メツ、アリ

三 繭

本縣物産中其發達ノ急速ニシテ而カモ其產出物ノ優良ナルモノハ繭ヲ以テ其最トス可シ然レトモ一時不振ノ後ヲ受ケ再ヒ其發展ヲ見ツ、アルモ古ク之ヲ遡レハ本邦ニ於ケル最古ノ養蠶國トシテ數ヘラレ中古ニ於テモ絹綿ヲ以テ貨幣ニ代用セシ時代ニ在リテハ頗ル隆盛ヲ極メ産額品位共伊勢、三河ニ相對峙シ我國三大上絲國ノ一ニ在リシハ史乘ノ載スル處ナリ然ルニ中葉以降擾亂相踵テ起リ政權武門ニ歸シテ以來著シク衰退シ徳川時代ニ至リテハ全ク廢絶ヲ見ルニ至リシモ維新前ニ於テ藩主ハ大ニ其挽回策ヲ講シ養蠶ヲ教ヘ栽桑ヲ振作勸奨セント雖モ民心其業ニ赴カス更ニ維新トナリ愈々之カ斷絶ヲ見ントセリ然ルニ明治拾五六年頃ニ至リ當局ノ獎勵ト民人ノ興奮ニ依リ

漸次發達ノ狀況ニ向ヘリ同拾九年ニ至リテハ蠶業獎勵ノ聲漸ク高ク其結果縣立養蠶傳習所、摸範製絲場ノ設置ヲ見ルニ至リ其獎勵機關ハ正ニ備ハラントスルニ際シ民間ノ技術未タ幼稚ニシテ其之ニ從事セシモノハ多クハ失敗ヲ生シ茲ニ其發展ノ萌芽モ再ヒ不振ヲ以テ終ラントハシタリ本業ノ沿革ハ斯クノ如ク數次蹉躓ヲ重ネタリト雖モ絶對的廢絶ヲ見シニ非スシテ個々ノ飼養ハ自家用トシテ之ヲ爲シツ、アリ故ニ此間ニ於テ多少技術ノ修練ト世運ノ推移トニ依リ且又失敗ノ原因カ自己ノ習熟少ナカリシニ依レルヲ曉リ同二拾五年ヨリ參拾年ノ間ニハ勃然トシテ其發展ヲ見ルニ至リ養蠶栽桑等秩序アル進步ヲ爲シツ、アリ殊ニ最近參拾年ヨリ參拾九年ニ至ル迄僅少ナル年限ニ於テ既ニ收購金額百萬圓ヲ超過スルノ機運ニ達シタルハ獎勵機關ノ注意勸奨ト民人ノ興奮ニ依レルモノアリト雖モ前倣ノ阿波藍作ノ受ケシ痛撃ノ爲メ農民カ其舊慣ヲ捨テ藍作畑ヲ桑畑ト變シ以テ世運ノ推移ニ伴フノ止ムヲ得サルニ出テシモノ其原因タリシナリ而シテ一而養蠶ノ收益多大ナリシハ相共ニ此產出ヲ増大セシメシモノト謂ハサル可カラス

#### 四 甘蔗

甘蔗ハ其起源遠ク安永年間ニ在リ當時板野郡引野村ニ丸山德彌ナルモノ此栽培ヲ志シ日向國延岡島島ニ至リテ之カ種子ヲ需メタルモ同國ニ於テモ阿波藩ニ於ケル藍種子ヲ國外ニ出スヲ禁セシト同種苗木ヲ國外ニ出スヲ嚴禁シタルヲ以テ容易ニ之ヲ得ル能ハス僅カニ現場ニ於テ食料トス可キ由ヲ告ケ三節ノ甘蔗ヲ得寄カニ齎シ歸リテ之レヲ試作シ良好ナル成績ヲ得將來大ニ繁殖ノ望アルニ至リタレハ進シテ此ノ栽培ヲ勸メントセシモ原料ヨリ砂糖ヲ製スルノ方法ヲ知悉セサレハ更ニ之ヲ究メントシ再ヒ日向ニ渡航セシモ固ヨリ他國人ニ傳習ス可カラサルヲ以テ之ヲ究知スルコトヲ得ス辛シテ諸人ニ交誼ヲ求メ其器械ヲ目睹シ製糖ノ概畧ヲ知り歸來之ヲ研究シテ甘蔗栽培ト共ニ獎勵セシ結果大ニ擴張セラレタリ斯クテ其栽培ハ一年盛大ヲ極メ弘化、嘉永以降舊藩主モ亦之ヲ保護シタリ然ルニ明治二拾年頃ヨリ外糖ノ輸入漸次盛大トナルニ連レ阿波藍ト等シク悲境ニ陥ルノ機運ニ際會セリ

#### 五 柑橘

柑橘ハ勝浦郡棚野村大字坂本村宮田辰次ナルモノ寛政年間柑子苗木ヲ購入シ同村ニ試植セシニ成績佳良ナルヨリ漸次山林ヲ開墾シ之ニ倣フテ温州密柑柑子等栽植スルモノ輩出シ村内ニ普及スルニ至リシカ此際ニ於テ曾ニ同村ノミナラス其地質ノ好適セルモノアルニ依リ縣下到ル所此栽培ヲ爲サントスルニ至レリ

### (三) 農業ニ對スル施設

農事ニ於ケル各種改良發達ニ關スル施設ハ夙ニ之ヲ攻究シ極メテ機宜ニ適センコトニ努力セラル、ヲ見ル今是等ノ各項ヲ記述スルニ當リ特筆スヘキハ戰時ニ於テ施設セシ事項ニシテ今尙之カ獎勵ニ努メシツ、アリ其概要ヲ舉クレハ左ノ如シ

#### 一 農事實行ノ督勵

明治參拾七年日露戰役ノ緒ヲ啓クヤ産業上ニ於ケル打撃ノ頗ル著大ナルヘキヲ考察シ當面時局ニ對スル各種ノ施設ハ事業ノ緩急及其實態ニ鑑ミ極力之ヲ盡セリ即チ農業上ニ於テハ縣郡市町村ヲ通シ農業實行督勵規程ナルモノヲ設ケ官民一致シテ其勵行ニ努メ實力増殖ヲ企圖セリ殊ニ軍事ノ爲ニ壯丁ノ召募馬匹ノ徵發等其數頗ル多カリシヲ以テ農事ノ勢力ニ影響スルノ虞アリシニ依リ其補助補充等ヲ講究シ更ニ稻麥ノ選種及種子交換、配付、堆肥ノ改良及短冊形苗代ノ設置各種肥料ノ補給、害虫ノ防除、養蠶製絲其事業ノ遂行ヲ督勵シ研期ノ目的ヲ達センコトニ努メタリキ

#### 二 獎勵指道ニ關スル機關ノ設備

縣ニ於ケル當局官吏ハ數次各部ニ出張シ實地指導講話及講習ヲ爲シツ、アリト雖モ更ニ農事試驗場ヲ置キ作物ノ



試驗及指導ヲ兼ネシメ尙農業教育普及トシテ中等程度ノ縣立農學校及三好農學校等ノ設立アリ蠶業ニ於テハ郡立蠶業傳習所巡回教師等ヲ置キ具サニ其誘掖ヲ爲シ是又得ル處鮮カナラス其他農產品評會ノ開設等ニ依リ蠶業發達上良好ノ効果ヲ見タルモノ頗ル多シ

工業

本縣ノ工業ハ軌近長足ノ發達ヲ爲シ之ヲ商業及農業ニ比スレハ人口移動ノ狀態如何ナル趨勢ヲ呈示セルカヲ觀察スルニ總人口ニ對スル農事人口ハ漸次減少ヲ現ハシ商業ニ在リテハ殆ト異變ヲ見ルコトナキモ唯工業ニ於テハ之ト相反シ稍増加セントスルノ傾向アリ而シテ農家子弟ノ多クカ工業ニ趨クノ狀況ニアルハ管ニ本縣ニ於ケル事實ノミニアラスト雖トモ而カア是アル所以ノモノハ其勞働賃銀ニ於テ比較的得ル所多大ナルト一面勞働ニ就ニモ農業ニ比シ大ニ前途ノ嚮望ヲ異スルモノアルヲ以テナリ之レヲ農業方面ヨリ遠觀スレハ悞ルヘキ一現象ナリト雖モ工業ニアリテハ寧ロ發達ノ階梯ト謂ハサルヘカラス今其統計ヲ左ニ掲ケントス

(一) 重要生産品及其數量價格

種類	數量	價格
刻煙草	四三六、四六六	二、五〇四、七三八
酒	三五、一八六	一、五四八、一八四
製藍	一、八四九、九〇三	一、四五二、六六五
織物	一、二九一、七九四	一、三九二、九七八
紡績	四〇、五四尺	六〇、七二〇
	三七本	四三一
	二四七、三九六	五九五、九四三

種類	數量	價格
生絲	七、八五二	三五二、二〇七
砂糖	二、八四五、七四〇	三三九、六三六
刺繡	二一〇、一四六	二六八、三二六
足袋	二、五五〇、八一五	二六六、五七六
醬油	九、八七一	二二七、一六二
和紙	三八一、一九〇	一三七、二二三
人造肥料	三、〇九九、九五四	一一〇、三三六
蓮豆	一九、六七二	一五六、一一九
水腐類	一、五四八	八六、〇〇三
油類	八六、二六〇	六六、一三七
茶及煉瓦	五、一九九、八四五	五八、七八九
瓦及煉瓦	四五三、〇〇〇	五六、五二五
麥粉	一、二四七、五八九	五、七五〇
竹製品	二、二四五、五八〇	七四、九八〇
素麵	二、二四五、五八〇	四一、七二八
戶及障子	一三七、八〇一	五八、三五二
度量衡器	四五、四四〇	六二、二四四
燐寸	一三四、〇七二	三〇、〇〇三
	二、一八四、〇〇〇	三九、一二〇

陶磁器  
漆器  
經木  
麥稈  
製稈  
薄草  
舍荷  
以鹽  
類

二、八九二、〇八〇  
五二二、九九〇  
三、三五五  
三、五八三  
五、八三三  
一九、二一三

九一、二四三  
一三、〇三一  
一一、六八五  
一三、〇七九  
二、一七六  
七、二七九  
二四、五〇〇  
一七、七四五  
一〇、二〇三、一〇三

十四

本表ニ掲記セル各種工業ノ状態ハ別ニ細説スルヲ以テ之ヲ略シ唯茲ニハ本縣各工場ノ事業狀況ニ付其概要ヲ述ヘントス

(二) 工場ノ種類及資本

現在ニ於ケル縣下工場總數ハ八拾四ヶ所ニシテ纖維工業ヲ第一位トシ飲食物製造ニ係ルモノ第二位ヲ占ム更ニ之ヲ手工業ト機械工業ニ區別スレハ殆ント手工ノ範圍ニ屬スルモノナリ而シテ工場資本金ハ個人ノ設立ニ關スルモノニ就テハ詳細ナル調査ヲ經ル能ハサルモ會社若クハ團體ニ於テ設立セラレタルモノニ就テハ如何ナル状態ニアルカラ記述スルモ亦其大勢ヲ知ルニ必須ナルモノアリ今之ヲ掲記スレバ左ノ如シ

種別	資本金總額	拂込資本金
紡績	四〇一、〇〇〇	二四〇、〇〇〇
製絲	一二〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇

織維工業	織物整理	刺繡	染色	灰	化學工業	製藥	肥料	機械工業	製電	精米	飲食工業	醸造	印刷	雜工業	業袋	特別工業	合計
二九、八〇〇	一〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	五、〇〇〇	一、二五〇	五、五〇〇	二〇、六〇〇	一〇、〇〇〇	二二、二五〇	八〇、〇〇〇	三二、〇〇〇	五、五〇〇	一〇、〇〇〇	二七、五〇〇	五、五〇〇	三二、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一、〇九六、九〇〇
一五、五〇〇	一〇、〇〇〇	一三、七七〇	—	—	二、七〇〇	一〇、〇〇〇	—	七四、〇〇〇	一一、〇〇〇	—	二、七〇〇	—	二七、五〇〇	—	三二、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	七四二、五七〇

十五

工場工業ノ資本ハ右ニ掲ケシ如クナルカ更ニ之ヲ大別スレハ纖維工業五割ニ、化學工業四分器械工業一割飲食物工業四分雜工業七分特別工業二割三分ニ當レリ

本縣ニ於ケル資金ノ集散ハ其關係ノ最大ナルモノヲ大阪市トシ之ニ亞クモノヲ兵庫神戸及京都、名古屋、東京ニシテ就中大阪市ハ直接本縣ヨリ資金ヲ送レルモノ多キト俱ニ更ニ大阪市當業者ニシテ本縣工業上ノ資金ヲ供給セルモノ頗ル多シ斯ノ如キヲ以テ大阪市ニ於ケル市況ノ變動ハ直チニ本縣經濟界ノ變動ヲ惹起スルカ如キ狀況ナリトス

水産業

本縣ハ三面環海ニシテ沿海線六十里ニ達シ而モ附近海中幾多ノ島嶼ヲ有セリ是等近海ニ棲息蕃殖セル魚類介藻ハ其種類枚舉ニ遑アラヌ加之淡水漁業ニ在リテ吉野、那賀、勝浦、海部ノ諸川アルアリ此兩者ニ於ケル歳々ノ漁獲ハ晩近八拾萬圓ト稱シ更ニ製魚事業ノ如キハ殆ト百萬圓ニ達シ其他製造物ニ在リテハ鱈節類、干鰯干鰯等其額少シトセス故ニ縣立水産試験場ヲ設置シ漁撈、養殖、製造等ノ方法ヲ講究スルノ外又兼テ遠洋漁業ヲ奨励シ每歲韓海ヲ出漁シテ得ル所ノ額五萬圓ヲ下ラズ然リト雖モ尙漁具、漁法、ヲ改良シ彼ノ遠洋出漁ヲ盛ナラシムニ於テハ更ニ其收利ヲ増大シ得ヘキヲ信シ今ヤ専ラ各種ノ勸奨ヲ怠ラス當業者モ亦大ニ興奮シテ其事業ニ勵精シツ、アリ現今之ニ從事セル戸數五千六百十六戸ニシテ人口八千七百六十三人ニ過キヌ之ヲ縣下總人口ニ對比スレハ每百僅カニ一人五ヲ超ヘスト雖モ其得ル所ノ金額ニ至リテハ決シテ僅少ニアラス今本業ニ對スル現況ヲ記述スントス

(一) 現況

本縣各種產出物ノ總生額ハ殆ト三千萬圓ニ垂ントセリ而シテ本業ハ此總額ニ對比シ農産及工産ニ及ハスト雖モ殆ント林

產物ト相伯仲シ畜産及鐵産ニ比スレハ優ニ其上ニ位セリ而シテ遠海出漁ノ愈々盛ナルト同時ニ將來漁法ノ發達ヲ見ルニ至テハ商工業ニ亞クノ重要ナル地位ヲ占ムルモノアルヘキヲ信ス今其生産額ヲ舉クレハ左ノ如シ

種類	數量	價額
魚類		七二〇、九四三
介藻類		三〇、一八五
節類		一二九、三九二
食鹽		八〇九、八九二
其他製造物		二三五、五五九
計		一、九二五、九七一

水産ノ現狀トシテハ概ネ前項ニ略説セル所ノ如シト雖モ更ニ之ヲ左ノ各項ニ頒テ詳述スル所アルヘシ

輸出品	額
生魚	三一四、〇八七
干鰯	二七、四六七
鹽魚	六、五三九
干鰯	五一、九四八
和布類	二二、二〇〇
節類	三、八二九
計	二二五、〇〇一
	三五、四四八
	五、八九七
	三七、二五九
	二四、三六〇
	一三、四六一

鹽

二三八、八〇〇<sub>円</sub>

三八四、四三〇<sub>円</sub>

輸出品トシテハ統計的調査ノ完全ナラサル爲メ其正額ヲ得サルモノナシトセサルモ大要本表ニ記セル所ノ如シ内將來有望ナル可キハ海外輸出品トシテ干鰯ナルヘク尙鹽ノ如キモ年々産出ヲ増加シツ、アレハ逐年其盛況ヲ見ルヘキヲ信ス

亦タ生魚ノ輸出ハ大阪市及、兵庫神戸ニ限り製造物ニ在リテハ其他ノ府縣ニ到レルモノ尠ナカラス殊ニ食鹽ハ右ノ外遠ク東京、伊勢、遠江等ノ各地ニ販出セリ而シテ海外輸出品トシテノ干鰯ハ重ニ香港ニシテ其他ハ少數ナリトス

(二) 事業ノ沿革

本縣ニ於ケル水産業ハ年ノ豊凶ニ依レルモノ、外概シテ發達ノ狀況ニ在リ殊ニ此間ニ於テ記述ヲ要ス可キハ韓海出漁ノ狀況ナリ同地ニ於テ目下成効ヲ告ケツ、アルハ潜水器漁業ニシテ海部郡阿部村出漁者ハ潜水器八臺使用船八艘母船二艘漁夫八十八名ニテ之ニ從事シ三十八年ヨリ三十九年ニ至ル漁獲ハ約三萬圓ニ達シ漁期間一日收得五十圓ノ割合ナリトス又那賀郡伊島漁業者モ同地ニ赴キ潜水器十九臺ヲ使用シ一年ノ實收二萬圓ニ達シ居レルカ更ニ本年ハ漁具ヲ増加シ大ニ改良ヲ加ヘ居レルヲ以テ其收額殆ト倍加スルノ状態ナリ其他縣内淡水漁業及養殖等モ累年盛況ニ向ヒツ、アレハ概シテ發展ノ狀ニアルモノト言フヘシ

(三) 事業ニ對スル施設

水産ノ増殖及發達ニ關スル縣ノ施設トシテハ其數少ナカラス

水産試験場明治三十四年度ノ創設ニ關シ事業ヲ漁撈養殖製造ノ三部ニ頒チ各主任ヲ置キ各種ノ試験ヲ爲シ其結果善良ナルモノハ弘ク縣民ニ周知セシメ指導勸奨ヲナシツ、アリ即チ漁撈ニ於テハ主任技術者ヲシテ遠海出漁船ニ乗組シメ實地指導ヲ爲シ又漁法ノ改良ニ關シ之ヲ講究セシメ養殖ニ在リテハ名東郡津田村及同郡國府村ニ養魚池ヲ設ケ専ラ之カ飼育ヲ司リ又鯉兒等ヲ養成シテ普ク縣民ニ配付シ其飼育方法ヲ指導シツ、アリ製造ニ於テハ過ル三十七年ヨリ軍需品トシテ軍用罐詰ノ製造ヲ爲シ軍隊ニ供給シ職工及人夫等軍人遺家族ヲ使用シテ一面事業ヲ補助セシメ又實地教習ヲ爲シツ、アリ之カ爲メ其所在地タリシ海部郡日和佐村ニ於テハ縣設罐詰製造所ノ事業休止ト共ニ本事業ヲ繼續シ日和佐生産販賣組合ヲ起シ盛ニ事業經營ヲ爲シツ、アリ

遠海漁業獎勵補助 縣ニ於テハ明治三十二年度ヨリ補助規程ヲ設ケ遠海ニ出漁スルモノニ對シテ毎年補助金ヲ交付シ之ヲ獎勵シタリ即チ別項所載ノ潜水器業ノ發展ノ如キハ本補助ノ効果ト見ルヘキモノ、一ナリ而シテ毎年度支出スル金額ハ千八百圓ニシテ船体其他乗組員ノ多寡ニヨリ各分與額ヲ増減シ之ヲ下付シツ、アリ其結果ハ未タ俄カニ知ル能ハサルモ漸次良好ノ成績ヲ見得ヘキヲ信ス

漁業組合本縣漁業組合ノ創設ハ本邦中最モ古キ歴史ヲ有シ屢々法令等ノ改正ニ依リ形式ノ變更ヲ見タルモ其内容ニ異ナル所ナク漁村維持ノ目的ニ適ヒ常ニ漁業者ヲ啓發シ之カ指導ヲ爲ス唯一ノ機關トシテ存在シ今日ニ至ル其數總テ四十組合アリ

水産組合明治二十八年縣下各漁業組合ノ聯合會ヲ設ケタルカ三十五年ニ至リ漁業法ニ基キ其名稱ヲ水産組合ト改メ依然其事業ヲ繼續シテ水産業ノ改良發達ヲ圖ルノ目的ヲ以テ其役員等各地ヲ視察シテ改良法ヲ講究シ漁民ヲ指導スルノ任務ヲ盡セリ今其重ナル事業及成績ヲ左ニ記述セン

水産組合事業大要

本組合ハ明治二十七年縣令第五十五號ニ據リ設立シタル本縣聯合漁業組合ノ事業ヲ繼承シ三十五年十一月十三日漁業法ノ命スルトコロニ遵ヒ縣知事ノ許可ヲ經テ組合名稱及定款ヲ變更シ水産業ノ改良發達及水産動植物ノ蕃殖保護其他組合員共同ノ利益ヲ圖リ來レルモノナルカ就中事業ノ重ナルモノハ朝鮮海漁業ニシテ自明治參拾六年度至明治參拾八年度三年度ハ毎年度出漁者ニ對スル縣費補助金貳千圓並ニ同出漁者監督及調査費トシテ同上補助金參百圓明治參拾九年度同上ニ對スル縣費補助金壹千五百圓監督及調査費前記同額ヲ受ケ或ハ組合員ヲ獎勵シテ出漁セシメ或ハ組合直營事業トシテ漁業試驗ヲ爲シ且ツ組長以下役員渡韓シテ親シク出漁者ヲ監督シ又ハ縣水産試驗場技手ニ囑托シテ漁業上ノ調査ヲ爲サシメタリ即チ三拾六年度ニハ組合員ノ漁船十三艘ヲ三個團體ニ編製シ韓國慶尙、全羅兩道ノ沿岸ニ於テ鰻地曳其他各種網漁延繩及釣漁參拾七年度ニハ同上漁船三十五艘乘組員百二十二人ニテ同國慶尙道及仁川附近ノ朝鮮海及對馬附近ノ日本海ニ於テ同上ノ漁業三十八年度ハ同上漁船參拾五艘乘組員百五十人ニテ同海ニ於テ同漁業三十九年度ニハ同海へ鯉釣四拾組(對馬水産組合ト共同試驗)鳥賊釣七組網拵繩百二十五鉢ヲ出シ既往四個年度繼續シテ漁業ニ從事セシメタル結果本縣漁民中朝鮮海漁業ニ幾多ノ實驗ト知識ヲ有スルモノアリ或ハ一層進シテ同國馬山浦、巨濟島、長承浦、王浦灣、牡母浦、鎮海灣、同灣添川郡、七川島、馬山浦等ニ根據地ヲ占領シ永住シテ漁業ニ從事スルモノアルニ至レリ以上根據地ヲ始メ漁業上ノ視察監督ノ爲メ本組合長谷崎安太郎ハ三十八年九月一日出發渡韓ノ上實地ノ狀況ヲ審ニシ以テ増々斯業獎勵指導ノ資料トセリ又同年五月一日ヨリ七月二日迄ノ間ニ於テ縣水産試驗場技手高橋永二郎ニ滿州水産業視察ヲ囑托シ正確ナル調査書(別冊ノ通り)ヲ作成シテ洽ク縣下ノ當業者ニ頒チ戰後ノ經營トシテ同方面ヘモ漸次出漁ノ計劃ヲ立テタリ明治四十年度ニ於テハ豫算金總額五千六百貳拾八圓五拾錢ノ内事業費ニ貳千八百八拾圓ヲ宛テ一大魚池ヲ構ヘ養殖試驗ヲ爲スノ計劃ヲ爲シツ、アリ

林業

本縣ノ森林面積ハ總面積ノ七割ヲ占メ往年ニ於テハ良好ナル木材ヲ產出スルモノアリシモ連年濫伐ノ結果ハ荒廢年ヲ遂テ甚シク到ル處嶺山相聯リ平時ニ在リテハ水源沾濁シ數次用水ノ不足ヲ訴ヘ之ニ反シテ霖雨ニ際セハ土砂崩壞シ或ハ急激ナル大洪水ヲ見ルカ如キ其被害實ニ尠少ニアラズ故ニ縣ニ於テハ特ニ森林整理事業ヲ起シ或ハ摸範林ヲ設定シ以テ林業經營ノ方法ヲ當業者ニ周知セシメ將來ニ於テハ縣ノ基本財産ヲ造成スルノ方法ヲ探レリ又樹苗圃ヲ設ケ樹苗養成ノ範ヲ示シ之ヲ摸範林ニ植樹シツ、アリ又更ニ林業講習會ヲ開設シ極力造林ノ急務ヲ警告シ更ニ戰役紀念林ノ經營大ニ起リ各地競フテ之カ計劃ヲ見ルニ至レリ而シテ個人造林ニ在リテモ亦大ニ勃興シ來リ殊ニ縣ニ於テハ二十九年以降累年補助金ヲ交附シ之ヲ獎勵シツ、アリ其他林産物製造ノ如キハ巡回教師ヲ置キ實地指導ヲ爲シ其成績頗ル顯著ナルモノアリ

(一) 林産ノ現況

林産物トシテハ伐採樹木中杉ヲ以テ第一位トシ松及梅之ニ亞ケリ今其統計ヲ舉クレハ左ノ如シ

種	類	數	價	額
薪	炭	材	七六〇、二六五	四七七、四七八
用	材	材	三一四、六〇一	三八九、九一〇
丸	及	角	一六三、八六二	三三七、七三二
材	材	材		

總島縣

種 類	數	量	價	額	林產物輸出額	
					計	其 他
挽 材		四四一、六一三 <sup>坪</sup>		三〇八、一七〇 <sup>円</sup>		
木 炭		五、五八四、一〇五 <sup>貫</sup>		三三三、八〇七		
其 他				五三三、九三二		
計				二、八三一、〇二九		
木 材		二二、五八一 <sup>尺</sup>		七六二、〇四八 <sup>円</sup>		
板		四三七、五七二		三三〇、七六九		
樵		一、三九四、〇四九		一六八、二七四		
木		四五八、八七九		二九八、九七二		
其 他				四四、七八三		
計				一、六〇四、八四六		

本縣木材ノ輸出先ハ大阪、東京、兵庫香川等重ナルモノニシテ其他各種類中重ナルモノハ三極楮皮ニシテ高知愛媛及香川ノ諸縣へ輸出セリ

## (二) 林業ニ對スル施設

縣ニ於テ特ニ森林事業ノ獎勵事項ヲ行ヒツ、アルコトヲ掲クレバ左記ノ如シ  
 森林整理事業 本事業ハ明治三十六年度ヨリ向十五年繼續ノ見込ヲ以テ計畫セリ其整理ノ地域ハ山林原野燒畑等ニシ

テ合計拾七萬町歩ニシテ其重ナルモノハ苗圃事業及造林事業ノ實行及指導、植樹、補助、免租造林地調査一般林業講習及指導開墾禁止地域豫備調査營林指定造林命令地豫備調査等ナリ右ノ内重要ナルモノニ對シ施設ノ要項ヲ記述スベシ  
 植樹補助金下付 本件ハ明治二十九年以降連年之ヲ下付シ明治參拾八年ニ至ル迄累計金額壹萬八千九百圓ニ達シ其結果ハ頗ル良好ノ成績ヲ現シツ、アリ  
 摸範林 本縣基本財産ヲ作り豫テ縣民ヲシテ森林經營ニ關スル摸範ヲ周知セシムルニ在リテ今ヤ既定林地ノ買収ヲ終へ事業大ニ進捗シツ、アリ

## 畜 産 業

本縣ニ於ケル畜産ハ逐年其面目ヲ更メ漸次發展ヲ見ントシツ、アリ然ルニ既往ノ狀態ニ顧ミレバ一般當業者ハ牧畜ヲ專ラニスルニ非ズシテ耕作上使用ノ目的ヲ以テセルモノナレバ産牛馬等ノ事ニ至リテハ比較的其發達遅々タルヨノ、如シ然ルニ農耕上ニ利用スルノ點ニ至リテハ殆ント遺憾ナク田ニ在リテハ總反別ノ内牛馬耕ヲ爲セルモノ九割ニ進ミ畑ニ於テハ七割一七ニ達セリ而シテ一般人民ハ殊ニ牛馬ヲ愛育スルノ風習アルヲ以テ産牛馬ノ將來亦困却スヘカラサルモノアリ毎歲ノ産額ハ牛ニ在リテハ殆ント千頭ノ産出ヲ見ツ、アルモ馬ニ至リテハ最モ尠少ニシテ殆ント數フルニ足ラス其多クハ九州中國等ノ諸縣ヨリ之ヲ購ヒ飼育スルモノナルヲ以テ種牡ヲ購求シテ其種付ヲ爲スト同時ニ又農商務省ヨリ外國産牡馬ノ貸與ヲ受ケテ之ニ配シ産馬ノ獎勵ヲ爲シツ、アリ牛ニ於テハ種牡牛ノ購求者ニ補助ヲ與ヘツ、アリ又牛乳ニ於テモ盛ニ事業ヲ興シ養豚養雞ノ如キモ亦大ニ勃興シ殊ニ家畜ノ繁殖獎勵ハ農事實行督勵中ニ加ヘ以テ其増殖ヲ企圖シツ、アリ此間ニ於テ逐年盛況ヲ呈シツ、アルハ家禽ニシテ三十九年六月ニ於テハ成禽八萬五千羽雛八萬貳千羽産卵金額拾七萬五千圓ニ達スルニ至リ前途頗ル好望ナルモノアリ

(一) 現況

畜産ノ現狀ハ概近比類ナキノ勃興ヲ呈シ今ヤ各所ニ種牛馬ヲ置キ又種豚種禽等ヲ蓄ヘ盛ニ其繁殖ヲ講シツ、アリ然ルニ牛馬ハ戰時ニ際シ其徵發購買ヲ受ケ然ラサルモ亦屠殺食用ニ供セラレシ爲メニ著シク其數ヲ減少シ居レリ今三十四年以降五ヶ年間ニ於ケル牛馬及豚ノ現在頭數ヲ表示スレハ左ノ如シ

年次	牛頭數	馬頭數	牝	牡	計
明治三十四年	一〇、七八七	三、三九七	一一、五四二	一〇、二五九	二二、四八四
同 三十五年	一〇、七五八	二、八五八	一二、五四三	一一、六四五	二二、四四一
同 三十六年	一二、四五五	二、七〇二	一四、四八六	一一、四四三	二五、五六七
同 三十七年	一二、五四七	二、六三二	一四、二七三	九、〇二四	二四、九五二
同 三十八年	一一、六九五	二、二六五	一三、二四九	九、一五六	二二、四三〇
同 三十四年					一三、六一一
同 三十五年					一四、四七五
同 三十六年					一四、一一〇
同 三十七年					一一、四五三
同 三十八年					一一、四二一

年次	豚頭數	家	禽	價額
同 三十四年	二〇	一五三	四六四	四〇
同 三十五年	一三一	二五一	一九九	二一四
同 三十六年	二三七	二五二	二二二	三五九
同 三十七年	二五二	一九九	一九九	四五〇
同 三十八年	一五三	一五三	四六四	七六六

明治三十九年 成禽 一八五、〇三五<sub>羽</sub> 雛 八二、九三五<sub>羽</sub> 價額 八四、九三四<sub>円</sub>  
 飼養戸數十羽未満五〇、七五四戸以上三、五〇六戸

次ニ最近ノ調査ニ係ル生産及輸出統計ヲ示セハ左ノ如シ  
 (一) 家禽生産額

種類	量	價額
牛 出 生	二、〇一八 <sub>頭</sub>	九〇、五三〇 <sub>円</sub>
馬 出 生	一三	六五〇
豚 出 生	五一八	二、五九〇
牛 乳	四五七 <sub>石</sub>	一三、七六七
雞 雛 出 生	八二、九三五 <sub>羽</sub>	八、二九三
雞 卵	一三、〇九一、一二二 <sub>個</sub>	一七五、一二九

屠殺(牛馬豚)

計

二、七五二

二十六

以上數字ニ依レハ本縣各種生産業ニシテハ其生産ノ比例僅カニ其一分一厘ヲ占ムルニ過キスト雖モ優ニ一大産業タルヲ見ルノ日アルヘキヲ信ス

(二) 輸出額

種類	數量	價額
屠牛	一、三七六	三〇、九〇九
雞卵	一、八一六、〇〇〇	一三三、三五二
雞	三六、〇〇〇	一四、四〇〇
計		六八、六六一

本縣ニ於テハ畜産ノ輸出ハ殆ント掲クルニ足ルモノナク僅カニ屠牛及雞、雞卵ノ三者ニ過キス故ニ其金額モ亦六萬餘圓ヲ超ヘサル狀況ナリ殊ニ屠牛ノ如キ縣外ノ輸入ヲ受ケ農耕等ニ使用シ或ハ直ニ之ヲ屠殺シ縣外ニ輸出スルノ狀況ニシテ一面畜産ノ發達アルニ非レハ目下ノ狀況ニ於テハ其利益甚タ少額ナルヲ免レズ之ニ反シテ雞卵ハ累年産出ヲ増加シ前途頗ル良好ノミナラス現ニ成雞ノ輸出ノ如キハ終年斷絶ヲ見ルコトナク目下之ニ從事セルモノ多數ナリ輸出先屠牛ニ在リテハ神戸、兵庫、雞及雞卵ハ大阪、神戸、兵庫ノ各地ナリ

(二) 事業ノ沿革

本縣ニ於ケル畜牛ハ其來歴頗ル古ク往時神裡ニ於テ風聲ヲ牽カシメラレタルハ勝浦郡福原村産出入地牛ヲ以テセラレタ

ルノ傳説アリ其他産馬ニ於テモ舊藩主大ニ獎勵シ板野郡鳴門村大毛山ヲ蕃殖牧場ニ充用セシモ廢藩置縣以來絶滅ニ歸シタリ然ルニ近時産牛産馬ニ就テハ別項其施設中ニ詳記セルカ如ク輓近再ヒ之ヲ獎勵シ以テ大ニ發展セシメンノ計畫ナレハ遠カラズシテ盛況ヲ見ルノ日アルヲ期待セリ

(三) 畜産ニ對スル施設

産牛馬ニ就テハ民人一般ノ機運大ニ勃興シ種牛種馬ヲ購入シ之カ蕃殖ヲ圖ル等各種ノ發展ヲ爲シツ、アルカ前途尙大ニ増加スルノ状態アレバ種牡馬及種牝牛取締規則ヲ設ケ毎年検査ヲ勵行シツ、アリ又一面三十八年度ヨリ善良ナル種牛ヲ購入スルニ對シ補助金ヲ交附スルノ規定ヲ設ケ三十八年度ニ壹千圓同三十九年度壹千五百圓同四十年年度ニモ同様補助金ヲ與ルコト、ナレリ又畜産獎勵ノ爲メ技術員二名常設シ検査事務ニ從事セシメ尙購入ノ際ニハ他府縣ニ出テ、良種選擇等購求者ヲシテ其便宜ヲ得セシメ居レリ尙養雞及養豚ニ就テモ農事實行督勵規程中ニ之ヲ置キ其勸獎ヲ爲シ養雞ニ就テハ特ニ勸業資本金トシテ縣費ヲ貸與セリ此他特ニ記述ス可キハ由來縣民ハ畜類ヲ愛育スルノ風習アリテ競馬ノ如キハ年々之ヲ開設シ盛ニ之ヲ舉行セリ之等ノ事項ハ馬匹改良上資益スル所多大ナリ又馬匹去勢ハ縣農會ヲシテ之カ施行ニ當ラシメシカ其結果頗ル良好ニシテ全國中有數ノ成績ヲ得タルカ如キハ亦以テ馬匹改良上ノ施設トシテ特記ニ價スルモノナリ

鑛業

鑛業トシテハ其沿革甚タ淺ク隨テ産出額モ亦拾五萬圓内外ナリト雖モ現ニ採掘中ニ係ル合計坪數ハ五百七十七萬一千四百八拾五坪ニ達シ内重ナルモノ銅ニシテ尙此外試掘中ニアルモノハ九百拾萬三千八百二十九坪ナリト是故ニ是ノ各鑛ヲ



盛ニ採掘セラル、日ニ際セハ其額頗ル巨大ニ達スルノ見込アリ然レモ各鑛未タ採掘ノ日淺ク其成蹟トシテ見ルニ足ルモノ少シト雖モ持部鑛山(銅)ノ如キハ前途頗ル囑望ニ足ルモノアリ今統計ヲ示セハ左ノ如シ

種	類	數	量	價	額
銅			五、二八四、三五三		一五五、八三四
水			五八一		七二三
計	銀				一五六、五四七

(一) 現況

現在本縣ニ於テ採掘中ナル鑛山ハ持部鑛山ヲ最シ久宗、川田山、大内佃友等ノ各鑛アリ今此等ノ重ナルモノニ付其現狀ヲ表示セン (三十八年)

久宗鑛山	三四七、二二九坪
精鑛	三八七、七三九貫 金額 一二、三八八圓
佃友鑛山	二五六、三七二坪
同	二二、八六六坪 同 九、四四六圓
川田山鑛山	一〇四、六六八坪
同	九三、六九七斤 同 三八、三九九圓
持部鑛山	五〇一、七八三坪

同 四、七八〇、〇五〇貫 同 九五、六〇一圓

斯クノ如クシテ此際出願ニ係ルモノハ其數三千萬坪ニ上リ尙續々出願者ヲ出スノ狀態ニアレハ將來ニ於テハ非常ナル巨額ニ達スヘキヲ信セリ

(二) 輸出ノ狀況

本縣ニ於ケル産出品ハ悉ク大阪ニ輸出スルモノニシテ精鑛ニテ輸出セルモノ及之ヲ精製ノ上輸出スルモノ、二者アリト雖モ大部分ハ精鑛ヲ輸出スルモノナリ

重要工産品

酒類

一、産額	年次	數	量	價	額
三十四年			五七、九八八		二、〇四三、五四四
三十五年			三七、九五五		一、四四三、八一〇
三十六年			三九、〇五二		一、五二三、〇二八
三十七年			四四、八四〇		一、七九三、六〇〇
三十八年			三五、一八六		一、五四八、一八四

他ニ味淋焼酎ヲ合シテ

徳島縣

三十一年

一、二一七

五九、九二〇

三十

二、主要産地

酒類ノ主要ナル産地ハ徳島市、板野郡、那賀郡ヲ以テ最トス今五千石以上ノ醸造ヲ爲セル各郡ヲ掲クレハ左ノ如シ

徳島市 五、九五七石

板野郡 九、〇五一

那賀郡 六、〇九五

三好郡 五、八〇七

三、事業ノ沿革

本縣ニ於ケル酒造業ハ沿革トシテ記スヘキ事項少シ故ニ製産上ニ關スル状態ニ就キ之ヲ述フレハ本縣ノ製品ハ他府縣ニ於テハ其種類甚タ少キ濃造ニシテ一般縣内ノ需用者亦此濃造ヲ嗜好シ敢テ他ヲ好マサル風習ナリシカ漸次薄造ノ輸入増加スルニ至リ大ニ之カ獎勵ヲ爲シツ、アリ故ニ續々改良酒ノ醸造ヲ爲スモノアリテ近キ將來ニ於テ其面目ヲ改ムルニ至ルヘキヲ信ス

四、製造戸數及職工數

職工數 二一九人

場數 二一九ヶ所

右製造人員ニ對シ總石數ヲ割當レハ一戸百六十石餘ニ相當セリ

五、製産狀況

一般清酒ノ需用ハ價格ノ著シキ騰貴ト共ニ多少其製造ヲ減少スルノ傾向アリ且ツ輸入薄造清酒ヲ需用スルモノ日々

多キヲ以テ自ラ本縣産出品ノ如キ濃造品ハ其需用ヲ減退スルモノアリ故ニ著シキ打撃ヲ受クルコトナシト雖モ減退ハ免ル、能ハサル大勢タリシカ縣當局及酒造聯合會ニ於テ其改良方法ヲ講究シ模範醸造場ヲ設ケテ廣ク改良法ヲ周知セシメツ、アルノ結果三十九年度ニ於テハ大ニ其造石高ヲ増加シタルノ傾向アルヲ認ム

六、原料需用供給

原料ハ明治三十年前後迄ハ多ク淡路、中國各縣及香川縣等ヨリ其供給ヲ受ケツ、アルタリ然ルニ近時本縣産米ハ著シク改良セラレ其ノ供給ヲ爲スニ至リタレハ原料供給ニハ頗ル便益ヲ見ルニ至レリ

七、製産費及收益ノ比較

製造費	
原料代	十七圓
職工賃	貳圓
雜費	五十錢
造石稅	十七圓
合計	三十六圓五十錢
賣價	
一石	三十八圓五十錢

差引純益金貳圓

八、輸出狀況

本縣ニ於テハ前記ノ如ク從來濃造ノ結果他府縣ニ輸出スルモノ最モ少額ニテ殆ント皆無トモ稱ス可キモノナリシカ

三十五年以降改良ヲ加ヘシ結果ト三十七八年戰役ニ際シ軍需品トシテ需用サレン結果ニ依リ俄カニ其輸出ヲ見ルニ至リタリ此輸出郡ハ板野郡ニシテ撫養港ヲ經由シ大阪及廣島縣等ニ販出セリ此數量三十八年ニ於テ一千石ナリシト

九、荷造法及其費用  
荷造ハ杉四斗樽菰卷トシ此費用凡一圓三四十錢ヲ要ス

十、各種施設

縣ニ於テハ酒造方法ノ改良ヲ急務ナリトシ各種ノ獎勵ヲ爲シ或ハ杜氏ヲシテ改良釀造方法ヲ講習セシメ又縣内酒造組合ニ於テ共進會ヲ開設セシメ之ニ對シ一ヶ所五十圓ノ補助ヲ下附シ年々之カ改良ニ資益セシムルノ方法ヲ採レリ然ルニ尙ホ此際ニ於テ充分改良方法ヲ普及セシメン爲メ三十九年度ニ於テ德島縣酒造聯合會ヲシテ釀造模範場ヲ設置セシメ之ニ對シ金一千圓ノ補助ヲ爲スコト、ナレリ左レハ最近ニ於テ大ニ其面目ヲ改ムルナラント信ス又德島縣酒造組合聯合會ハ阿波國酒造組合ヲ始メトシ那賀海部板野美馬三好ノ各酒造組合ニ依リテ成リ年々品評會ヲ開設シテ大ニ之カ改良ヲ講究シツ、アリト云フ

製 藍

年 次	額	量	價	額
三 十 四 年	三、三六〇、七二四	二、六八八、五八〇		
三 十 五 年	三、五九四、九二四	三、二三五、五〇八		
三 十 六 年	二、九一五、四一三	二、五二七、四六九		

年 次	額	量	價	額
三 十 七 年	一、七二四、五〇二	一、三一六、七四三		
三 十 八 年	一、八四九、九〇三	一、四五二、六六五		

二、主要産地

製藍トシテノ主要産地ハ麻植郡、板野郡、阿波郡、名西郡、名東郡、美馬郡、三好郡ノ六郡ニシテ專業トシテノ製藍業者ハ德島市ニ存在スルノミ其他ハ前既ニ記述セシカ如ク農家即チ製造業者タルノ有様ナレハ自ら各郡ニ散在セルナリ

三、事業ノ沿革

栽培ニ關スル古キ沿革ハ既ニ大要叙述シタルモ舊藩政時代ニ於テ藍製造及藍商ノ爲メ如何ニ當路者ニ於テ保護セシカ頗ル記述ニ價アルモノアレハ以下之ヲ詳述センニ享保九年ニ於テ既ニ江戸藍問屋株ヲ指定シ更ニ寶曆四年玉師株(藍玉製造業)ヲ限定シ同年大阪藍問屋株ヲ指定セリ夫レヨリ明和四年藍方代官所ヲ設置サル、ニ至リ國産中其第一位ヲ占メ一ヶ年産出高十五萬俵ト限定サレ輸出税ヲ課シ當業者ヲ取締ルコト頗ル嚴ナリシト雖モ一面其保護トシテハ若シ縣外人ノ購入代金ヲ遲滞スル者アルトキハ藩主ハ相手方ノ藩主ニ對シ督促スル等ノ事ヲ爲シ更ニ代官所ニ藍大市ヲ開キ製品ノ優良ヲ獎勵シ爾來慣習的ニ藍市ヲ開キ現今ニ至リテモ尙ホ之ヲ續行ス又舊藩時代ニ於テ既ニ販賣組合ノ如キモノヲ成立セシメタルハ關東賣ト稱スルモノニシテ今尙ホ此名稱ヲ有セリ斯クテ益々盛況ヲ加ヘシカ維新後藍方役所ヲ廢シ置縣ノ制度トナルヤ從來受ケ來レル羈束ハ俄カニ解カレ競争濫賣一時ニ起リ亦救済ス可カラサルニ至レリ此時ニ當リ明治八年藍商申合規約ヲ結ビ德島市船場ニ會社ヲ組織シ精藍社ト稱セリ然ルニ其組織不完全ニシテ遂ニ半年ニシテ有名無實トナリタルヲ以テ手塚呈三、元木文平、井形最三郎、川真田市太郎、町口與三郎、佐藤某等ハ縣廳ニ事情ヲ具申シタル結果縣下大區長、藍商總代ノ大集會ヲ爲シ再ヒ精藍社ヲ起スノ決議ヲ爲シ明治

九年九月ヨリ精藍社ヲ再襲シテ其事業ヲ繼續セリ當時頭取ハ森信好ナリ更ニ十年九月藍検査役ヲ藍商自治ノ下ニ置クコト、ナリ其補助ノ爲メ縣廳ヨリ金五百圓ヲ下附シタリ十二年八月設置年限滿期トナリ更ニ之ヲ繼續シタルモ十四年二月ニ至リテ遂ニ組織ヲ更メ藍商取締會所ナルモノヲ起シ縣ノ認可ヲ經タリ當時若林壽一郎ナル者頭取ニ就任セリ明治三十一年ニ至リ重要物産同業組合法ニヨリ其組織ヲ變更シ以テ今日ニ至レリ此間外藍ノ輸入益々増加スルニ伴ヒ本縣ノ産藍モ遂ニ其壓倒スル所トナリ屢々改良ヲ講シツ、アルノ状態ナルモ頽勢俄ニ挽回ス可ラサルモノアルカ如シ

四、製造戸數及職工數

(三十八年調査)

製造戸數	一、八八四
職工數	三、五四四(男) 九二(女)

五、製産狀況

藍製造ニ關スル職工ハ普通ノ事業ト異ナリ水方(水師)及ヒ手傳トモ稱スヘキモノアリテ製造技術ハ唯此水師ナルモノ、施水方法ノ善惡ニ依リテ其結果ニ非常ノ徑庭アリ故ニ其他ノ手傳ノ如キハ職工トシテ數フルニ足ルモノナシ

藍製造業ハ殆ント農業ト相兼スルモノニシテ專業トシテ其數最モ寥々タリ産業組織トシテ農家直チニ製造業者トナリ尙ホ其大ナルモノニアリテハ小作者又ハ農業專業者等ヨリ之ヲ購入製造スルノ順序ニシテ此製造者ハ直チニ自己ノ販賣先(各府縣)ニ輸送スルモノト一ハ德島市ニ於テ賣買スルモノトアリ又製造額ハ作付ノ減少ト共ニ漸次衰退ニ傾キツ、アリ今此原因ニ就テハ特ニ記述ヲ要スヘキモノアリ即チ左ニ掲ク

阿波藍産出減額ニ關スル原因

本邦ニ於テ染料トシテノ藍ハ其需用額約八百萬圓ヨリ一千萬圓ノ間ヲ昇降セリ此三分ノ一ノ供給ハ本縣産藍ヲ以テ之カ供給ヲ爲シ其他三分ノ二ハ他府縣産藍(地藍ト稱ス)及輸入「インヂゴ」及「インヂゴヒューア」等ヲ以テ之カ供給ヲ爲シタリ然レトモ是等ハ明治二十八年ヨリ三十年ニ至ルノ間ナリシナリ論ヘテ三十一年ニ至リテハ地藍ト稱スル他府縣藍ハ外輸藍入ノ増加ニ依リ非常ナル打撃ヲ受ケ作付反別ノ減少製産額ノ減退ハ非常ナル状態ヲ呈シタリ幸ニシテ本縣藍ハ著シキ打撃ヲ受クルコトナク經過セシモ三十六年ニ至リテハ漸次本縣藍ニ於テモ非常ナル打撃ヲ受ケ三十八年ニハ一層其度ヲ高ムルニ至リタルナリ此痛撃ノ一大原因ハ左記ノ如キ外藍輸入ノ結果ニ依レリ

外藍輸入表

二 十 八 年	四四四、一二八	五八一、三七〇
二 十 九 年	九五四、二〇五	一、〇六七、三五一
三 十 年	一一九六、一三四	一、五三八、〇三二
三 十 一 年	一、六〇六、二七六	二、二七〇、八一五
三 十 二 年	一、七六八、七二八	二、九〇三、八二九
三 十 三 年	一、八五一、六七三	三、九〇二、五五九
三 十 四 年	一、二四五、七九〇	二、六六五、〇四三
三 十 五 年	一、四七一、八八六	三、〇九七、九八一
三 十 六 年	一、九八四、三八八	四、三五〇、八一六

右ニ對比シテ本縣藍ノ製産額ヲ示セハ左ノ如シ

德島縣製産額表

三	十	一	年	三、二四〇、〇〇〇	三、五六四、〇〇〇
三	十	二	年	三、一五〇、〇〇〇	三、四六五、〇〇〇
三	十	三	年	四、二〇〇、〇〇〇	四、五七八、〇〇〇
三	十	四	年	三、三六〇、七二四	二、六八八、五八〇
三	十	五	年	三、五九四、九四二	三、二三五、五〇八
三	十	六	年	二、九一五、四二三	二、五二七、四六九
三	十	七	年	一、七二四、五〇二	一、三一六、七四二
三	十	八	年	一、八四九、九〇三	一、四五二、六六五

斯クノ如クニシテ外藍増加ノ翌年ニ於テハ必ス本縣産藍減少シ外藍輸入減少ノ翌年ニアリテハ本縣産藍必ス増加スルノ状態ニアリ左レハ産額ノ消長ハ此ノ原因ニ依レルモノナリ然リト雖モ前途ニ於テ絶對的絶滅ニ歸スルカ如キコトハ決シテ之レアラサルモノナルハ疑フ可ラサルモノニ屬セリ

六、原料需用供給

原料ハ農家ノ手ニ於テ直チニ製造スルモノ、及ヒ製造專業者ハ本縣農家ヨリ購入シ製造スルモノトノ二途アルモ之ヲ他府縣ニ需ムルモノ一モアルナキヲ以テ需用供給ハ過不足ナシ

七、製産費及收益ノ比較

製産費收益ハ一定シ難ク唯所費費用ヲ參考トシテ掲クルニ止ムヘシ

一床 三百貫乃至四百貫此水仕賃七圓乃至十圓仕上リ俵作り一俵ニ付二十錢 (三百貫床ニテ十三俵ヲ得)

八、販出額及仕向地 (三十八年調)

數	量	一五九、二二五俵
價	額	一、三五三、四四六圓

仕向地ハ大阪ヲ最トシテ外全國各府縣到ラサル所ナシ

九、販賃手續及取引習慣

製造業者ノ多クハ販賣業者ヲ兼ヌルヲ以テ製造業者ト專業販賣業者トノ間ニ於ケル習慣ハ問屋(仲買)ノ手ヲ經テ賣買サル此問屋ナルモノハ二歩ノ手数料ヲ受クルヲ例トセリ殊ニ藍會社ニ於ケル賣買ハ例年大市ヲ開キ商品賣買ノ外別ニ商品ヲ審査シ最優等ノモノニハ瑞一トシ第二位ヲ准一ニ第三位ヲ天上ナル名稱ヲ附シ之カ直段ヲ定ムル直建ナルモノヲ爲シ之ヲ標準直段トシテ賣買スルヲ例トセリ此重ナル精良品ハ多クハ關東賣組合員之ヲ購入シ更ニ縣外ニハ各地區ニ賣場先ト稱シ地區ノ制限ニ從ヒ店舗ヲ有シテ之ヲ販賣シ取引ハ少クトモ半年決算長キハ第二回ノ賣込ヲ爲ス迄其貸附ヲ爲スノ習慣ナル故ニ金利等ノ計算自ラ商品ノ高價トナルヲ免レサリシカ今日ニ於テハ此習慣ヲ脱シ其面目ヲ更メントシツ、アリ藍玉八十錢建ヲ以テ賣買シ藻ハ貫ヲ以テスルヲ例トセリ

十、相場

藍玉十錢ニ付 (三十五年以降)

最	高	十五 匁
最	低	百 匁
最	高	五 圓
最	低	五十 錢

十一、荷造法

荷造ハ凡テ蓮卷經二尺長三尺五寸内外立繩四方建ニテ五ヶ所括リトス但シ其内部ハ麥稈俵トスルヲ例トセリ此費用  
蓮七錢繩三錢ヲ要シ更ニ人夫賃ヲ要スル割合ナリ

十二、重ナル營業者

營業者ノ重ナルモノ左記ノ如シ但縣外ニ於ケル取引商店ハ各自販賣先ニ於テ賣店ヲ有スルヲ以テ其數フルニ足ルモ  
ノナシ只大阪ニ於テハ賣買紹介ヲ爲セル大阪阿波製藍株式會社ナルモノアリ

關東賣

- 西野嘉右衛門
- 森六郎
- 手塚六三郎

大阪賣

- 川真田市太郎
- 同 德三郎
- 佐野勇次郎

筑後賣

- 生田彦平
- 同 和平
- 岩城伊平

播丹賣

- 北野虎七
- 佐光利八郎

九州賣

- 手東平三郎
- 簡井善吉
- 戸田禎三郎

十三、組合及團體ノ施設

藍業ニ關スル組合及團體トシテハ阿波藍製造販賣同業組合及株式會社藍會社ノ二ヶ所及其他各賣場先(前ニ掲ク)  
組合アリト雖モ本項ニハ同業組合及藍會社ヲ掲クヘシ

阿波藍製造販賣同業組合 ハ明治三十二年ノ創設ニナリ左記定款ニ依リ藍改良方法ヲ講究スル爲メ長井理學博士  
ヲ聘シ之カ研究ヲ爲シ又需用地ノ狀況視察ヲ爲シテ營業者ヲ獎勵シ斯業ノ發展ヲ計リ組合員ヲシテ其利益ヲ享受セ  
シムルコトヲ圖レリ即チ組合員數其他現況左ノ如シ

- 三十六年度末現在 四、二〇三人
- 三十七年度末現在 三、三六二
- 三十八年度末現在 三、〇一〇

株式會社德島藍會社 ハ明治九年ノ創設ニナリ現ニ營業ヲ繼續シ藍賣買ニ係ル紹介ヲ爲シツ、アリテ斯業ニ於ケ  
ル賣買紹介ノ機關ナリ毎年藍大市ヲ開設シ精良品ヲ審査シ以テ其發達ヲ促シツ、アリ然ルニ近時ハ大ニ取扱高減少  
シタリト雖モ三十七年及三十八年兩年度ニハ取扱高十七萬圓内外ナリシカ三十九年分ニハ上半期即チ九月ヨリ翌年  
二月ニ至ル間ニ於テ既ニ俵數一萬五千二百七十七本金高十九萬九千六百八十三圓ニ上レリ尙ホ三十八年度ヨリハ藍  
ノ外蘭ノ賣買紹介ヲ爲スコト、セルモ未タ記述ニ足ルモノナシ

綿織物

一、産年	額	價額
三十五年		一、三八七、〇一二
三十六年		一、五〇九、七〇七
三十七年		九三三、三〇三
三十八年		一、三〇九、四四一
三十九年		一、五一一、四三二

二、種類別

綿ネール	長	三十四ヤール	巾	尺六寸乃至二尺
目付	七百匁ヨリ一貫七百匁迄			
絨	長	反乃至疋	巾	九寸二分乃至尺六寸
小倉	長	反乃至三丈六尺	巾	九寸二分乃至二尺四寸
縞	長	三丈	巾	九寸二分

長 反及疋 巾 九寸二分  
 長 三丈 巾 九寸二分

其他天竺木綿、白木綿等ナリ

三、主要産地

綿ネール	徳島市 板野郡
絨	徳島市
小倉	徳島市
縞	麻植郡
白木綿	名東郡 徳島市 三好郡

四、事業ノ沿革

織物ニ對スル事業沿革ハ大要左記ノ如クナリ今各品ノ主ナルモノニ對シ其概要ヲ述フヘシ  
 神代織 古老ノ口碑ニ依レハ遠ク神代ノ頃ヨリ織成ストノコトナルモ稍牽強附會ノ説ニ近キヲ以テ茲ニ之ヲ記セス  
 思フニ蜂須賀氏入國以來大ニ斯業ヲ奨勵シ文化年間ノ頃ハ地機ト稱シ不完全ナル機具ナリシカ文政ノ初年麻植郡川  
 島ニ布屋中藏ナルモノアリ京都西陣ヨリ妻ヲ娶ル織方ニ堪能ナルヲ以テ縞織ヲ始メシニ近隣其傳習ヲ求メ漸次此部  
 落ニ發達シ大阪備後廣島等へ販出セシカ途ニハ飯尾嶋島森藤三ツ島等ニ於テモ製織ヲナスニ至リ販路益々擴張シテ  
 九州中國ニ及ヒ弘化嘉永ノ間ハ頗ル繁盛ヲ極メタリト云フ

綿ネール織 初メ和歌山市ニ綿ネール製造ヲ創始スルヤ次第ニ發達シ綿ネール機械ニ志ス者アリ明治二十年ノ頃ヨリ或ハ單獨ニ或ハ合同ニ斯業ニ従事スルニ至リ麻植郡勝浦郡ニモ普及シ遂ニ各府縣へ輸出シテ阿波綿ネールノ名譽ヲ掲ケタリ依リテ同業者相團結シテ阿波綿ネール業組合ヲ設ケ益々之レカ改善ニ努メタリシカ明治三十四年阿波染織同業組合成立シ舊組合ヲ解散スルニ際シ創業開始ニ殊功アル者十二人ヲ賞セリト云フ

絨織 維新ノ始メニ當リ木綿京染ナルモノ行ハル、ト共ニ神代縞ノ販路ハ大ニ縮少セラル、ニ遇ヒ一般製造家ハ非常ノ困難ニ沈淪セシカ徳島市海部ハナ並ニ阿倍重兵衛ナル者維新改革百事新奇ヲ迎フルノ機ニ乘シ苦心經營ノ結果一種ノたゞ元織ヲ發明シ原糸ハ阿波純藍ヲ以テ染上ケタルニ組織ノ巧緻ニシテ染色ハ堅牢ナルノミナラス夏季用トシテ能ク洗濯ニ堪ヘ殊ニ價格モ低廉ナルヲ以テ忽チ世ノ需用ヲ得當時士族ハ廢藩ノ結果職ヲ求ムルニ汲々タリシカハ概チ之ニ従事シ又麻植郡板野勝浦ノ各郡ニモ次第ニ製造サル、ニ至リ遂ニ縣下特有物産トシテ殆ント國ニ普及シ明治十二年ノ頃ニ在テハ一年百二十萬反ヲ産出スルニ至レリ

紺緋織 神代縞ノ柄ヲ改造シ遂ニ緋織ヲ織成セルモノナルモ維新ノ際ハ大形且ツ染方意匠ノ點ニ於テ甚ク幼稚ニシテ市場ニ降價ヲ博スルニ至ラス其産出ハ麻植郡山崎ノ一部分ニ止マリシカ明治二十八年ノ頃緋織緊縮セルヨリ同郡桑村市原與平ナルモノヲ久留米ニ遣ハシ其方法ヲ把捉スルニ努メ較々其方法ヲ會得シ歸リシヨリ機ノ構造ヲ改メ所謂半機トシテ上藍ヲ用ヒシヲ中藍ノ染着力強キニ轉セシメ荒卷ヲ本卷ニ改ムル筋改良ノ緒ニ就クモノ多カリシモ藍出シ括リ十緋等順序上慊焉タラサルモノアリ故ヲ以テ山崎及桑村ノ當業者ハ久留米ヨリ教師ヲ聘シ五ヶ所ノ傳習所ヲ設置シ大ニ改良ノ實蹟ヲ舉ケタリ

五、製造戸數及職工數

明治三十八年縣ニ於テ調査セル機業戸數及職工數ハ左記ノ如クニシテ内原動力ヲ使用スルモノ及工場家内工業ニ就

テ區別スレハ左ノ如シ

工場	三三二ヶ所
家内工業	一九八一戸
織業	二二七戸
賃織業	三七五五戸
職工數	
工場	四七八
家内工業	三三二
織業	一七六
賃織業	一
機數	
工場	六七五
家内工業	三一四七
織業	四、九一八
賃織業	四、三〇五
動力ニ因ル機數	四〇
鐵製大巾機	四〇
同 小巾機	六四
徳島縣	

男	八二七
女	三、五〇六
	四、五八五
	四、三七八



本縣ニ於テ原動力ヲ使用スルモノハ三十八年迄ハ僅々二戸ニ過キサリシカ戰後機業ノ發達ト共ニ三十九年ニ於テ設  
置セルモノ右記ノ如シ

六、製 産 狀 況

製産狀況ヲ概言スレハ戰後需用ノ増加ト共ニ製産ハ著シキ發展ヲ見ルニ至リシカ阿波染織同等組合ニ於テハ時勢ノ  
推運ニ伴隨センカ爲從來ノ染色使用ノ點ヲ改良シ硫化染料ノ使用ヲ許シタルカ當業者ハ化學的知識ニ暗ク其染色法  
頗ル粗惡トナリ一面需用ノ増加ニ伴ヒ粗製品ヲ供給スルモノ輩出セシヨリ昨三十九年ノ上半ニ其於テハ著シク商況  
頓挫ヲ見ルノ止ムヲ得サルニ陥リシカ組合ノ熱心ナル指導ト當業者ノ覺醒トニ依リ年末ニ至リテハ大ニ氣勢ヲ挽回  
シ今ヤ近年比類ナキ好況ヲ以テ歡迎サル、ノ狀トナリ賣行至ツテ良好トナリタレハ製産モ亦大ニ増加セリ産業組織  
ハ織元ヨリ原料ヲ供給シテ家内工業及賃織セシメ仲持之ヲ集メテ手數料ヲ徴シ織元ハ之ヲ販賣業者ニ賣渡シ又ネー  
ルノ如キハ直接大阪市ニ輸出スルモノ凡六歩通りナリ稿物ハ悉ク徳島市ノ販賣業者ニ賣捌クヲ例トセリ而シテ事業  
ノ盛衰ヲ略述スレハ年々多少ノ盛衰ハ需用供給ノ關係ニ依リ相違アリト雖モ日露戰役中ノ如キハ軍需品トシテ却テ  
前年ニ勝ル好結果ヲ得殊ニ戰後ニ於テハ前記三十九年ノ初期多少蹉躓ヲ見ルモ爾來氣勢回復ト共ニ益々發展ヲナシ  
産出額全計ヲ通計スレハ前年ニ比シ大ニ増加ヲ見タル模様ナリ故ニ將來ニアリテハ組合ノ活動ト相待ツテ益々其製  
産額ヲ増加ス可キハ疑ハサル所ナリ

七、原料需要供給

原料ハ悉ク之ヲ大阪市ニ仰ケリ然レトモ土地僅カニ一葦帶水ヲ隔ツルニ過キス又海運頻繁ナレハ原料供給ニ差支ヲ  
見ルコトナク又縣内ニ於テ紡績會社ヲ有スレハ之ヨリ需用スルモノ少ナカラスト雖モ多クハ大阪ヨリ受クルヲ例ト

セリ

八、製産費及收益ノ比較

製産費及收益ノ比較ハ其精密ナルモノヲ知ルニ難シト雖モ今左ニ其最高最低ノ品種ニ付之ヲ例示ス可シ

綿フランネル (捺染物)

一ヤールニ付

原料 諸 費

二十錢

賣 上 金

二十二錢

差引金二錢收益

同

(縞物)

一ヤールニ付

原料 諸 費

十七錢

賣 上 金

十八錢五厘

差引金一錢五厘收益

縞物一反ニ付

原料 諸 費

賣 價

原料 諸 費

賣 價

上 一圓八十錢

貳 圓

下 七十五錢

八十二錢

紺緋一反ニ付

原料 諸 費

賣 價

原料 諸 費

賣 價

上 三圓八十錢

四圓五十錢

下 七十五錢

八十二錢

九、販出額及仕向地

徳島縣

四十五

種類	數量	價額
綿ネール(反物)	一一四、九六二	五四七、二一九
同 (中巾物)	三一、〇〇〇	六五、一〇〇
小倉織	一八三、二〇〇	一八三、二〇〇
天竺木綿	一九、八七二	五九、六一六
紺綿	一、一六〇	三二〇
縹綿	四〇、六〇〇	一一一、八〇〇
色織地	二六七、四〇〇	二六七、四〇〇
無地	七、五〇〇	五、二五〇
白木綿	三六、四〇〇	二五、四八〇
青織綿	二五、八〇〇	一一、九〇〇
雜織	八、六〇〇	一、三二〇
絨緞	五、八五〇	五八、八五〇
計	四二、一〇〇	四二、一〇〇
更ニ各品ニ對シ其仕向地ヲ區別スレハ左ノ如シ	七八三、四四四	一、三三七、五五五

大阪、淡路、但馬、堺、紀州、神戸、廣島、京都、兵庫、伊豫、高知、東京、尾張、越前、駿河、伯耆、近江、備

前、出雲、筑前、北海道、樺太、臺灣  
小倉織

東京、京都、大阪、名古屋、神戸、信濃、越前、近江、加賀、備前、備中、安藝、周防、伯耆、兵庫、播磨、肥前  
北海道、臺灣、支那

色無地織  
京都、大阪、播磨、土佐  
天竺木綿

大阪、神戸

大阪、兵庫、神戸、京都、近江、若狹、越前、尾張、淡路、和泉、安藝、周防、伊豫、讃岐、土佐、伊豆、備中、丹波、臺灣

十、販賣手續及取引習慣

販賣手續ハ製造者ヨリ販賣業者ニ賣渡セルモノト直接製造業者カ他府縣ニ搬出スルモノトニアリ「ネール」ノ如キハ多ク後者ニ屬セリ而シテ代金計算ハ品物引取十日後限リトセリ綿ニ於テハ製造業者直接之ヲ輸出スルコトナク悉ク販賣店ニ卸賣ヲ爲シ販賣業者ハ之ヲ更ニ輸出スルヲ例トセリ手数料及荷爲換等ニ至リテハ其品物及其當時ニ依リ區々ニシテ一定セス

十一、相場

綿ネール

徳島縣

捺染物普通品	(三十ヤール)	六圓六十錢
縞物同	(同)	五圓五十五錢
縞並品	(二反)	八十二錢
同上等品	(同)	二圓
紺並品	(二反)	二圓三十錢
普通品	(同)	四圓五十錢
上等品	(二反)	五十三錢
普通品	(二反)	七十五錢
上等品	(二反)	

十二、輸出狀況

(綿ネール) 縣織物中最モ有望ナルハ縞物及綿ネールナリ當初本業ヲ創始スルヤ捺染及起毛等ヲ和歌山縣ニ托シテ加工セシメ而シテ更ニ大阪ニ輸出スルカ如キ状態ナリシモ尙克ク今日アルヲ致セシハ製品ノ良好ナリシニ因リシモ爾來濫造ノ謗リヲ免レサルニ至リ多少輸出ノ頓挫ヲ見ントシタルモ今ヤ再ヒ製品ノ改良ト共ニ需用頗ル多額トナリクレハ更ニ嗜好ニ適スル様目付等ヲ一定セントセリ故ニ商況大ニ活勢ヲ見ルヘキ模様アリ特ニ本品ハ海外ニ輸出スモルノ逐年増加スルノ傾向ナリ

(縞 織) 本品ハ需用益々多大ニシテ逐年産出額ヲ増加シツ、アルト共ニ益々其改良ヲ爲スニ努メツ、アリ唯

本縣織物ハ價格至廉ノ爲メ聲價ヲ博シタルモノト云フヲ憚ラス

(小倉 織) 洋服地トシテ頗ル評好アリ前途益々増加ノ見込アリ

(紺 緋) 阿波正紺緋ノ名ト共ニ至ル所需用多ク之亦最近ノ發達ニ係リ販路逐日増加ノ模様ナリ

(絨 織) 阿波絨トシテ一時非常ノ盛名ヲ博シタルモ競争品(奈良絨)及ヒ濫造ノ爲メ輸出額著シク減少シタリ

ト雖モ此聲價ヲ挽回センタメ染色上ニ注意ノ結果三十四五年頃ヨリ漸次舊ニ復セントセリ

十三、輸出先ニ於ケル用途

綿ネールニ在リテハ重ニ襯衣、襦袢、足袋裏等ニ供セリ

縞織ハ大柄ニ在リテハ小兒用トシテ用ヒラレ殊ニ其他ノモノニ於テモ中流以下ノ實用的衣類トシテ賞揚セララル

絨ハ夏着トシテハ能ク汗ヲ彈キ身軀ニ纏着セサルヲ以テ浴衣用トシテ需用サル

紺緋ハ久留米、伊豫等ノモノニ比シ敢テ遜色ナキノミナラ其色澤及ヒ染色堅牢等ノ程度等ニ至リテハ寧ロ他縣ノ産

品ニ優レルヲ以テ此點ニヨリ能ク顧客ノ賞用ヲ受ク

十四、競争品及代用品

綿ネールニ在リテハ和歌山及ヒ伊豫物ト相對セリト雖モ昨初春以來ハ多少其壓倒ヲ受ケントセシモ益々改良ノ實ヲ擧ケ能ク相拮抗シテ進ムヘキ状態ナリ、縞織ハ染色堅牢ナル點ニ於テ他府縣産出ノモノニ比シ賞用セララル、モ競争品トシテハ福山縞アリ又紺緋ニアリテハ久留米、及ヒ伊豫紺其對手ナリ

十五、長所及ヒ改良ノ要點

綿ネールハ染色ニ於テ稍前來ノ粗雜改良セシト雖モ其目付ニ於テハ改良スヘキ點多大ナレハ組合ニ於テ考究中ナリ  
絨織 是又染色及織方其特技トシテ比肩スヘキモノナシ浴衣用トシテ勝ル

紺緋 ハ正紺染トシテ特色アリ其柄ニ於テハ年々需用者ノ嗜好ヲ探リ改良ニ努メツ、アリ  
十六、重ナル製造業者及販賣業者

綿 ネール

高野市松 天野與平 稻井久米藏 福井佐平(以上德島市) 澤井量治(名東郡)

綿 織

加藤豊古(德島市) 東條豊吉、榊藤清吉、三木商會、小倉俊藏(名古屋) 福家條二郎(板野郡)

緋 織

共進社(德島市) 伊勢文平、西岡永之丞、工藤徳太郎(麻植郡)

白 木 綿

大島宇三郎(三好郡) 工藤源助(麻植郡)

小 倉 織

盛機社(德島市) 三河直次郎(同上)

絨 織

四十宮紋作、河野強(德島市) 澤井量治(名東郡)

十七、各種ノ施設

本縣ニ於テ織物獎勵ニ就テ特ニ意ヲ注キ専ラ斯業ノ發展ヲ促シツ、アルカ今其施設ノ大要ヲ記述スレハ左ノ如シ  
縣立工業學校 ハ明治三十七年四月ノ開設ニ係リ主トシテ染織及木工科ヲ置キ殊ニ染織科ニアリテハ三十八年度ヨ  
リ適當ナル場所ヲトシ臨時教場ヲ開設シテ出張教授ヲナシ短期間ニ素養アル織物職工ニ更ニ學術ヲ教授シ大ニ斯業

ノ發展ニ資センコトヲ期シツ、アリ

織物業獎勵補助 トシテ縣費一千圓ヲ支出シテ是ヲ阿波織物同業組合ニ附助シ技術者雇用及ヒ外國輸出調査等ノ費  
途ニ充用セシメタル結果組合ノ事業ハ活動シ當業者ノ是ニ依テ得タル所亦少シトセス

動力据付補助 動力ヲ以テ製品ノ統一ヲ計ルハ刻下ノ急務ナリ故ニ特ニ此點ニ留意シ本年度ヨリ各起業者ニ補助金  
ヲ下附スル筈ナリ

染織教師 工業學校職員ニ染織教師ヲ囑託シ各所ニ出張セシメ實地ニ就キ指導ヲ爲シ又紺緋織ニ於テモ前途有望ナ  
ルコトヲ見ルヤ夙ニ久留米地方ヨリ教師ヲ招聘シ是又各地ノ巡教ヲナサシメ大ニ斯業ノ啓發ヲ促進シツ、アリ

阿波染織同業組合ハ明治三十四年ノ設立ニシテ創立當時ニ於ケル主ナル製産ノ種類ハ綿子、絨、紺緋、縞織  
等ノ木綿織物ニシテ之ヲ現時ニ比スレハ僅ニ二分ノ一半ニモ滿タサリシカ爾來漸々組合經費ヲ増加シ一面縣費ノ補  
助ヲ仰キ今ヤ數名ノ技師技手ヲ聘用シ化學染料使用ノ道ヲ開クト同時ニ製品検査ヲ勵行シ殊ニ三十九年六月ニ至リ

組合員美馬儀一郎ハ斯業ノ發展ニ伴ヒ益々染織試驗所ノ必要ヲ認メ自己ノ有ニ係ル試驗所ノ家屋及ヒ器具機械等ニ  
至ル迄舉ケテ之ヲ組合ニ密附シ組合ノ活動ヲ助ケシカハ組合ニ於テモ技師ヲシテ該所ニ就キ染色ノ研究ヲ爲サシメ  
其成績ノ佳良ナルモノヲ廣ク同業者ニ施行セシメ當業者モ又是ニ依テ利スル所アルヲ覺知シ當所ノ講習ヲ受クルモ  
ノ日ニ月ニ増シ頗ル好成績ヲ擧クルニ至レリト云フ

鹽

一、産

年

次

數

量

價

額

三十四年

五〇七、八九八

五二四、七二三

德島縣

五十一

三十五年	四四九、五七八	五五二、〇一七
三十六年	四五八、〇一〇	六三六、一七五
三十七年	四六八、九一四	六九二、八八七
三十八年	四九一、二五三	八〇八、七〇七

二、主要産地

板野郡 名東郡 那賀郡

三、事業ノ沿革

藩政當時藩主ノ専ラ獎勵セシハ藍、砂糖、鹽ノ三種ニシテ就中鹽ハ最古ノ起因ヲ有シ慶長四年ヨリ之ヲ創始シ撫養十二ヶ村鹽田ニ産スルモノヲ最モ良好ナルモノトセリ故ニ藩主親ラ同地ニ到リテ之ヲ獎メ遊手無産ノ徒ヲシテ之ニ從事セシメタレハ爭フテ其開墾ニ從ヒ年々増加ヲ見ルノ盛況ヲ呈セリ爾來法度ヲ定メ租稅ヲ課シ産額益々多ク毎歲百四十萬俵ヲ製出スルニ至ル又名東郡ニ於テハ藩主ノ御手鹽ト稱シ撫養本齋田ニ亞キ德齋ト唱ヘラレタリ其後屢々變遷アリシト雖モ事業ハ頓挫ヲ見ルコトナク益々製出ヲ盛ンニシ今ヤ重要物産トシテ最モ囑望スヘキ地位ニ在ル現況ナリ

四、製造産數及反別

産數	二二九九
反別	五一五二

製造産數ハ最近數年間何等ノ變動ヲ見ルコトナク經過セリ

五、製産狀況

製造業者ハ殆ント鹽田ヲ所有セサルモノナク何レモ職工人夫等ヲ使役シ製造ニ從事セリ而シテ前述ノ如ク歲々大ナル變動ヲ見サルモ製造ノ改良等ハ日々講究サレツ、アレハ漸々品質ノ改良ヲナシツ、アル實況ナリ

六、販出先及販出額 (三十八年調)

數量	二三八、八〇〇石
價額	三八四、四三〇圓

輸出先ハ大阪、兵庫、東京ヲ主トシ伊勢、紀伊、遠江之ニ亞ク

七、相場 (各一俵ニ付)

一等	一四二五	二等	一四一九
三等	一、二五	四等	一、二一
五等	一、〇六		

八、事業上ノ施設

從來機關トシテ鹽業組合ナルモノアリ又此際ニ於テ同業組合ノ設立ヲナセシモノ一、之ヲナサントスルモノニアリ共ニ鹽業改良發達ニ資益シ組合員ノ製造上ニ關スル諸般ノ便益ヲ得セシムル目的ナリト云フ

綿絲紡績

一、産額	(三十八年調)
數量	二四七、二九六
價額	五九五、九四二圓

二、種類別

番手ハ數種アリト雖モ十六番手其大部分ヲ占ム

三、主要産地

徳島市

本縣ニ於ケル紡績事業ハ明治三十年ノ創設ニ係リ爾來之カ事業ヲ營ミツ、時ニ或ハ悲境ニ沈淪セント雖モ事業ノ整頓ト共ニ大ニ製品ノ見ルヘキモノアルニ至レリ然ルニ本年二月堺紡績會社ト合同ノ約ナリ同社支店トシテ存立大ニ錠數ヲ増加シ盛ニ營業スヘキコト、ナレリ

四、職工數及原動力

製造場數

一 (阿波紡績)

機關數

一 寶馬力

一八〇

發電機

一同

一六

職工數

男 一四一人  
女 一八〇人

五、販出額及仕向地

數 量

三五、三二〇<sup>斤</sup>

價 額

八六、七七九<sup>円</sup>

本縣製品ノ大部分ハ縣内ニテ需用セラレ僅カニ殘部ヲ大阪市ニ輸出ス

砂

糖

一、産 額

年

次

數

量

價

額

三十四年

三九七、六〇九<sup>斤</sup>

未

詳

三十五年

二八〇、一五五

同

三十六年

二一八、〇八一

同

三十七年

一三四一、五一〇

同

三十八年

二八四五、七四〇

同

一五九、五八二<sup>斤</sup>  
三三九、六三六

二、主要産地

板野郡

阿波郡

那賀郡

三、事業ノ沿革

本縣ニ於ケル糖業ニ關シテハ其起原遠クシテ之ヲ詳カニスルニ由ナシト雖モ舊藩時代板野郡引野村ノ徳彌ナル者甘蔗ヲ栽培シ砂糖ヲ製造スルコト藩主ノ聽ニ達シ即チ召シテ其來歴ヲ問ハル徳彌之ニ答ユルニ日向國ノ糖業ノ景況及ヒ我實驗ニ依リテ甘蔗ノ阿波國ノ地質ニ適シ且ツ將來ノ國益タルヘキ旨ヲ以テス於茲同人ヲシテ是カ栽培法ニ付廣ク教諭セシメ益々斯業ノ盛況ヲ呈シ以テ今日ニ至リシナリ

四、製造戸數及搾車數 (三十八年間)

戸 數

二五六<sup>戸</sup>

搾車數

三四五<sup>台</sup>

五、製産狀況

徳島縣

本縣糖業ハ維新後尙ホ多額ノ製産ヲナセシモ外糖ノ輸入累年増加シタル爲メ之ヲ壓倒サレ今ヤ昔時ノ狀ヲ見ルコト能ハサルナリ

六、原料ノ需用供給

原料ハ本縣ニ産シ耕作者ハ一面製造業者トシテ斯業ニ従事スルモノナレハ是ヲ縣外ニ仰クノ要ナク故ニ供給ニ於テ更ニ何等ノ支障ヲ見ルコトナシ

七、販出額及仕向地 (三十八年調)

數量	二二八六〇〇斤
價額	三〇九〇八〇円

輸出地ハ東京、大阪、新潟、長岡ノ各地ナリ

八、販賣手續及取引習慣

販賣手續ハ製造業者ヨリ之ヲ徳島市ニ販出シ是等ハ皆問屋ノ手ニ買取リ問屋ハ更ニ前記ノ各地ニ販出ス

九、相場 (四十年三月調)

各百六十斤建	無類三盆	二五円	二度半	二〇円
	極上同	二四、	上二度	一三
	並同	二三、五〇	並二度	一二

十、組合ノ施設

本縣ニ於ケル砂糖業ニ對スル施設トシテハ昨三十九年同業組合ヲ開設セント雖モ未タ創始ニ屬シ別ニ見ルヘキモノ

ナシト雖モ將來大ニ發展ノ策ヲ講シツ、アリ

足袋

一、産額	年次	數量	價額
	三十九年	一、九六七、二八〇 <sub>斤</sub>	一八四、五九五 <sub>円</sub>
	三十七年	一、九〇三、五三〇	二二一、五三四
	三十八年	二、五〇〇、八一五	二六六、五七六

二、主要産地

板野郡ヲ最トシ徳島市之ニ亞ク

三、製造戸數及職工數

戸數	四四 <sub>戸</sub>
職工數	男 二六九人 女 四三六

四、製産狀況

本業ハ手工業トシテ頗ル有望ノモノナリ現ニ板野郡撫養町ノ如キハ同地ニ散在セル女職工ヲシテ家内工業トシテ之ヲ製作セシメ又工場ニ於テ製作セルモノアルモ概シテ前者ニ屬シ徳島市ニ在リテモ同様ノ狀況ニシテ製産元ヨリ原料ヲ供給シ之ヲ各職工場若クハ職人ニ配付シ製作セシムルノ状態ナリ

主ナル製造者

阿波足袋合資會社  
三輪足袋合資會社

醬油

一、產額	年次	數量	價額
	三十六年	一〇、八四〇 <sub>斤</sub>	二二六、八〇〇 <sub>円</sub>
	三十七年	一一、六二七	二五五、七九四
	三十八年	一〇、〇四四	二二〇、九六八

- 二、主要產地  
板野郡 那賀郡 德島市
- 三、製造戶數  
戶數 一五二戶
- 四、原料需用供給  
原料ハ其大部分ハ縣内ノ供給ニ屬シ其他北海道及中國讀岐等各地ヨリ輸入ス
- 五、相場  
上 五斗八升入 九、二五

中ク 六、九〇  
下ク 五、五〇

六、輸出狀況其他

本品ハ多クハ縣外ニ販出スルコトナク縣内ノ需用ニ止マレリ故ニ販出額等ハ最モ少額ニシテ記述スルニ足ラヌト雖モ瓶詰トシテハ縣外ニ販出ヲ試ミツ、アルモノアレハ或ハ將來多少ノ販出ヲ見ルニ至ルナラン

製紙

一、產額	年次	數量	價額
	三十四年	不詳	一六〇、七九〇 <sub>円</sub>
	三十五年	同	一八八、九〇一
	三十六年	同	一一八、六五七
	三十七年	同	一五一、四八五
	三十八年	五六、三二八 <sub>円</sub>	一三七、二二三

二、種類別  
美濃紙 半紙 障子紙 薄葉紙 鴈皮紙

三、主要產地  
麻植郡 那賀郡 德島縣



四、製造戸數及職工數

戸數 八六四戸  
職工數 男 一二七〇人  
女 八三一

五、原料ノ需要供給

原料ハ本縣ニ於テ生産スルモノ頗ル豊富ニシテ悉ク是ヲ縣内ニテ需用スルコトヲ得ス其一部分ハ香川、愛媛、高知ノ三縣ニ輸出スルノ狀況ナレハ原料ノ供給ニ就テ些ノ困難ヲ見ルコトナク今後益々事業ヲ發展スルモ原料供給ニ於テ頗ル豊富ナルヘキヲ信セリ

六、販出額及仕向地

半紙	三三四九八 <small>円</small>	五〇、七八〇 <small>円</small>
美濃紙	五七六〇 <small>円</small>	六、二一六
宇田紙	五八五四 <small>円</small>	一〇、八九三
其他紙	二五〇〇 <small>円</small>	二八、〇〇〇
計		九五、八八九

七、事業上ノ施設

販出先ハ大阪、兵庫、京都、香川ノ各地ニシテ其重ナルモノハ大阪、兵庫ナリト云フ  
本縣ニ於テハ製紙事業ノ有望ナルヲ察知シ縣ニ於テ製紙傳習補助費ヲ與フルコト、シ之ヲ支出セシ結果大ニ改良ノ實ヲ擧クルニ至リシカ尙ホ前途ニ於テ品質改良ノ必要尠少ナラサルヨリ更ニ其奨励法ヲ計畫スルコト、セリ  
團體ニ於テハ特ニ見ルヘキノ施設ナシト雖モ麻植郡製紙同業組合アリ又徳島紙合資會社ハ製造業者ト聯絡ヲ通シ製

品販出ノ機關トシテ活動シツ、アリト云フ

人造肥料

一、産額

(三十八年調)

價額 一二〇、三三六円

内

動物性 一、九五〇円

九一五円

礦物性 七五七、四八〇

一一九、四二一

二、主要産地

徳島市 板野郡 名東郡

三、事業ノ沿革及製産狀況

人造肥料ハ沿革トシテ記述スヘキモノナシト雖モ由來本縣ニ於テハ鱈粕其他ノ魚肥ノ需用非常ニ多額ニ上リ藍作施肥ハ全ク此一種ニ外ナラサリシカ近時魚肥ノ需用ハ其價格騰貴ノ爲メ他ノ人造肥料頻リニ製造セラル、ニ至リ藍作地モ又此肥料ヲ用ユルニ至リシヨリ從來ノ肥料商人ハ此機ヲ逸セス大ニ其製造ニ努メシ結果トシテ中國九州等各地ニ輸出スルノ盛況ヲ見ルニ至リシモノナリ

四、製造戸數職工數

戸數 一七戸

徳島縣

職工數

二七八

六、原料需要供給

本縣ニ於ケル肥料ハ殆ント配合肥料ニ屬スルヲ以テ原料ハ悉ク大阪及ヒ神戸等ヨリ供給ヲ受ケツ、アリト雖モ交通機關完備セルヲ以テ其供給ハ最モ迅速ニ且ツ不足ヲ訴ルコトナシ

苧及ヒ叭

一、産

額 (三十八年調)

數 量 三〇九九五四枚

價 額 一五六、一一九<sup>円</sup>

(苧及叭併算)

二、製産狀況

本縣ニ於ケル苧ハ從來藍玉、藻ノ包裝ニ使用セシノミナラス農家ニ於テ需用頗ル多カリシヨリ早クヨリ此手工ヲ爲セルモノ多ク農民ハ此製法ヲ知ラサルモノナキノ状態ナリシカ明治三十七年ノ戰役以降軍用叭其他苧ノ需用非常ニ増加セシヨリ農民ノ副業トシテ之ヲ爲スモノ從來ニ比シ増加セシヨリ其産出額隨テ増加シ尙盛ニ製出ニ從事セリ殊ニ前年ニ比シ其産額極メテ多カリシハ三十七年及ヒ三十八年ナリトス又叭ハ明治三十八年ノ調査ニ依レハ九萬餘圓ナリキ

生 絲

一、産 額

年 次	數	額	量	價
三 十 四 年		四、九八六 <sup>円</sup>		一八九、四八二 <sup>円</sup>
三 十 五 年		五、六三六		二〇八、五三二
三 十 六 年		六、四〇六		二三四、一二三
三 十 七 年		七、一九三		二二九、八二五
三 十 八 年		七、八五二		三五二、二〇七

二、主要産地

阿波、麻植、美馬、板野、ノ各郡トス

三、事業ノ沿革

本縣ニ於ケル製糸事業ノ沿革ハ養蠶事業ニ於ケル沿革ト相同シク其起因頗ル古シト雖モ明治三十年ノ頃ニ於テハ未タ海外ニ輸出スルニ至ラザリシ然ルニ其後ニ於ケル斯業ノ勃興著シク而カモ産繭ノ善良ナル群馬長野ノ二縣ニ比シ敢テ遜色アルヲ認メス就中達磨製糸ノ如キハ優ニ見ルヘキモノニシテ今ヤ縣内ノ斯業者ハ是カ製造ノ改良ニ努力シ工場組織ヲ以テ原動機ヲ据付ケ製糸スルモノ各地ニ起リ其年々横濱地方ニ輸出スル額三千五百貫目ノ多キニ達シ尙ホ年々増加スルノ傾向ナリ

四、製造戸數及職工數

機 械 絲	二戸
座 絲	七、二六九
玉 糸	一、九八五

徳島縣

職工數

九、一四九人

尙ホ原動力ヲ有スルモノハ阿波製絲株式會社(三十四年設立)ニシテ發動機、馬力數ヲ左ニ揚ク  
蒸汽機關 一 台 馬力 七馬力

五、製産狀況

製造ノ現況ハ前記ノ如クニシテ漸次盛況ヲ呈シツ、アリ又本年ニ於テ新ニ製糸工場ノ起ルモノアリト云ヘハ前途益々進展ヲ見ルヘシト信ス

六、原料ノ需要供給

原料ハ縣内ニ産出スル繭ヲ用ヒ絶テ他府縣ノ供給ヲ受ケシコトナキヲ以テ最モ至便ニ供給セラル、カ故ニ將來發展ヲ爲ス場合ニ於テモ他府縣ニ比シ其供給上至大ノ利便アリ

七、販出額及仕向地

本縣ニ於テハ直接海外ニ輸出スルコトナク一端橋濱ノ商人ニ賣渡スヲ常トス又縣外輸出ハ大阪京都等ニシテ今三十八年ニ數ケル數量價額ヲ示セハ及左ノ如シ

數 量 三、五五〇貫  
價 額 一七四、二〇〇圓

八、相場

生 糸	機 械 糸	座 繰 糸	玉 糸
慰 斗 糸	五二 <sub>円</sub>	四八 <sub>円</sub>	三二 <sub>円</sub>
	一六、	一五、	九、

生 皮 苧	屑 物
一、一、	一、二、
一、三、	七、
	六、七、

九、改良スヘキ要點

現在ハ多ク座繰製糸ノミナレハ製品一定セサルモノアリ故ニ共同揚返シ場ヲ設置シ一面ニハ機械製糸ノ獎勵ヲ爲シツ、アリ

十、事業上ニ於ケル縣ノ施設

製糸獎勵ニ就テハ縣ニ於テモ大ニ留意スル所アリ去ル三十六年以來縣費一千圓ヲ補助シ大ニ工女ノ養成ヲ獎勵シツ、アリテ其成績甚タ良好ナルト共ニ一面製糸ノ發達ニ資益スル所少カラス今後此狀況ニテ推移セハ斯業ノ發達センコト想見スルニ難カラス

羽二重

一、産 額 (三十八年調)

數 量 一四四〇〇疋  
價 額 一一四八〇〇圓

二、種 類 別

本縣羽二重ハ悉ク輸出向ナルヲ以テ其品種ハ生羽二重ノ一種ニシテ目付巾長左ノ如シ  
目 付 五匁乃至五匁五分  
長 十二丈 巾 一尺八寸

三、主要産地

麻植郡ヲ最トシ美馬板野二郡之ニ亞ク

四、事業ノ沿革

本業ノ創始ハ日向淺ク未ダ沿革トシテ其多クヲ記述スルモノナシト雖モ其概要ヲ摘記セハ麻植郡山瀬村ノ佐竹米吉ナルモノ藍商人トシテ新瀉縣ニ到リ此地ニ於ケル養蠶ノ盛ナルヲ見テ此生糸ヲ以テ輸出羽二重ヲ製織セハ將來最モ有望ナル事業タルヲ信シ明治三十四年其長男ヲ新瀉ニ遣シ製織法ヲ傳習セシメ更ニ工女ヲ福井縣ニ送りテ之ヲ養成シ歸來事業ニ着手セシヲ始メトセリ夫ヨリ各所ニ其計畫ヲ爲セルモノアリシモ未タ民心ノ興起ヲ見ル能ハサリシカ三十六年ニ至リ羽二重機業ヲ營ムモノニ對シテハ其機臺ニ對シ縣費補助ヲ與フルコト、ナリタルヨリ一時ニ興起シ早クモ三十八年ニ至リテハ重要産業トシテ數フルニ足ルノ産出ヲ見ルニ至リ現ニ其同業組合ヲ設ケンテ其設立ノ手續中ナリ

五、製造戸數及職工數

戸數	三〇戸
職工數	四四五人
機臺數	三五〇台

六、製産狀況

製造ノ現況ハ益々多數ノ産出ヲ見ツ、アリ又産業組織ハ原糸ハ重ニ縣内ノモノヲ使用シ偶々縣外ノ製品ヲ使用スルモ是皆製造者ニ於テ購入シ直ニ自家ニ於テ製織ヲ爲シツ、アリ又需要ノ多寡ニ依リ多少ノ盛衰ハ免カレサル所タリト雖モ將來最モ有望ノ事業タルヘシ

七、原料ノ需要供給

原料ハ多ク縣内ノ生糸ヲ用ヒ其他ハ縣外ノ供給ヲ仰クニ過キスト云フ

八、製産費及收益ノ比較

現在ニ於テハ精練所ノ設備ナキタメ比較的收益少ナキヲ以テ四十年ニ於テハ縣費ノ補助ヲ受クル筈ナリ三十九年以前ニ於ケル比較ヲ示セハ左ノ知シ

一機分四疋ニ付	六三圓
原糸代	九、五〇
職工賃及雜費	七二、五〇
計	七七、〇〇
賣價	四、五〇
差引純益金	一四、四〇〇疋

九、販出額及仕向地

數	一四、四〇〇疋
價額	一一四、八〇〇圓

製産品ハ悉ク石川縣ニ輸出シ同地ニ於テ金澤市若クハ小松町ノ重ナル同業者ニ委託販賣ヲ爲シ賣買濟ト同時ニ代金ヲ回收スルヲ例トセリ其委託販賣手数料ハ凡百分ノ一以内ナリ

十、相場

一疋百九十二匁五分

上 百元ニ付 一、〇三〇  
下 同 九、六〇

十一、販出状況

輸出品ハ先ツ石川縣ニ委託販賣ヲナシ同地ニテ精練ヲナシ横濱ニ輸出スルヲ例トセリ故ニ本縣ニ於テハ此際横濱商人ト直接取引ヲナサントスル協定ヲ爲シツ、アリ

十二、長所缺點

本縣ニ於ケル羽二重織ハ其光澤ニ富メルハ最モ長所トスル所ニシテ最新ノ機械ニ依リ製織シツ、アルヲ以テ特ニ缺點トシテ指摘スルモノナシ

十三、主ナル製造者

阿波郡	湯淺宗一郎
美馬郡	土井池悦兵衛
三好郡	木下與一
麻桑郡	住友利一
同	瀬田正
同	佐竹米吉

刺 繡

一、産 額

種 別	數	價	額
屏風用	二四〇〇〇 <small>枚</small>	一一〇、〇〇〇 <small>円</small>	
寢臺用	二四〇〇 <small>枚</small>	二四、〇〇〇	
枕掛	一四四〇 <small>枚</small>	一四、四〇〇	
卓子掛	一九二〇	九、六〇〇	
其他	三六〇〇	一八、〇〇〇	
合 計			一八六、〇〇〇

二、主要産地

徳島市ヲ最トシ那賀郡富岡町及ヒ板野郡撫養町之ニ亞クト雖モ製造總額ノ七割ハ徳島市ノ産出ニ係レリト云フ

三、事業ノ沿革

本縣ニ於ケル刺繡ハ其起原甚々遠カラヌシテ幕末ノ頃衣類(衽褌、及襟)ノ刺繡ヲ爲セル物流行セシヨリ重ニ襟類ノ刺繡ヲ以テ業トセリ然ルニ維新以來此流行ハ頓ニ衰ヘシタメ當業者ハ他ニ適當ノ事業ヲ得ルコトニ留意セル折柄明治十九年ニ至リ福永藤平ナル斯業者試ニ外國向刺繡ヲ製シ是ヲ神戸ノ商人ニ賣渡セシニ外人ノ嗜好ニ適シ爾來益々是カ製造ヲ勵精シ明治二十一年ニ至リテハ那賀郡富岡町及板野郡撫養町ノ二ヶ所ニ同業有顯ハレ又徳島市ニ於テモ續々之ニ倣フモノ多ク外國ニ於ケル需用ハ逐年増加ノ傾向ヲ呈シ爾來益々好況ノ裡ニ今日ニ至リシナリ

四、製造戸數及職工數

製 造 元 一六戸

職工場 四三ヶ所  
職工數 男 一三九人  
女 六六七人

五、製産狀況

本品ノ製産ハ製造元ニ於テ原料ヲ購入シ畫工ヲ常備シ下畫ヲ描カシメ繙糸ト共ニ職工ニ交付シ職工ハ單ニ刺繙ヲ爲セルノミニテ製造元ト職工ノ中間ニハ仲持ナルモノアリテ之カ取扱ヲ爲セリ如斯簡易ナル産業組織ナルヲ以テ職工ハ漸次増加ヲ見ルノ状態ナリト云フ

六、原料ノ需要供給

原料タル絲帛ノ類ハ之ヲ大阪及ヒ神戸地方ニ供給ヲ仰クモノナリ

七、製造費及收益ノ比較

製品ノ種類ニヨリ多少高低ノアルモ其中ノ重ナル屏風ニ就キ收支ノ比較ヲ指示スレハ左ノ如シ

生	縫	系	下	仲	利	賣
地	賃	代	畫	持	益	價
絹 繙 子	四、〇〇〇	二、五〇〇	一、五〇〇	二〇〇	一、五〇〇	一〇、〇〇〇
綿 繙 子	一、五〇〇	一、二〇〇	七〇〇	一〇〇	八五〇	四、五〇〇
金 巾	五、〇〇〇	四〇〇	二五〇	〇四〇	〇六〇	一、五〇〇

八、販賣手續及取引習慣

製品販賣ノ手續ハ製造元ニ於テ之ヲ神戸及京都其他横濱長崎ノ各地ニ輸出シツ、アルモ其主ナルモノハ神戸ニシテ直接外商ノ手ニ賣却スルニ非スシテ同地ニ於ケル輸出商ニ賣却シ夫レヨリ英米其他ノ各國ニ輸出スルモノト一ハ輸出商ト在神戸外國商人ノ取引ニ終ルモノ、ニニシテ右ノ外京都ノ商人ニ賣込ミ京都製品トシテ神戸ノ外商ニ販賣サル、コトアリト云フ

九、相場

屏風	寢臺	枕	卓子	絹繙子地	綿繙子地	金巾地
用	掛	掛	掛	四枚一組一〇、〇〇〇	同上 四、五〇〇	同上 一五〇〇
				二〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一〇、〇〇〇
				二、五〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇
				八、〇〇〇	六、〇〇〇	四、〇〇〇

十、輸出先ニ於ケル嗜好并變遷

英國ニ於ケル嗜好ハ草花鳥類等ニシテ模様及ヒ縫方共凡テ華麗ナルヲ好マスシテ寧ろ高雅ナルモノヲ歡迎スル傾キアリ又米國ハ之ニ反シ華美ヲ主トセシモノヲ嗜好ス

十一、販出先ニ於ケル代用品

本縣ノ刺繙ハ京都ノ製品ヲ模倣セシモノニシテ益々製品ノ増加スルト共ニ京都製品ハ上等品ノミニ傾キ本縣製品ハ中等以下ニ限定セラレタレハ寧ろ競争品ノ壓倒ヲ受クル憂ナシ

十二、主ナル製造者

徳島縣

德島市佐古町	福永藤平
同	友成喜太郎
那賀郡富岡町	中富久吉
同	勝浦八十次
板野郡撫養町	坂田助七

製茶

一、産額	年次	数量	價額
三	十四年	一六〇五七六	不詳
	十五年	一六六八二五	
	十六年	九一五五一	
	十七年	九二三三一	
三十八年	八六二六〇	五八、七八九	

二、種類別

玉露、煎茶、紅茶、番茶、烏龍茶、

三、主要産地

海部郡	那賀郡	麻植郡	三好郡	美馬郡
-----	-----	-----	-----	-----

四、事業ノ沿革

本縣ノ製茶ハ其起原藩政當時ニアリテ美馬郡及三好郡ヲ其淵源ノ地トセリ然ルニ本縣南方ノ山々ニ於テハ一度雜草ヲ燒拂ヘハ必ス第一ニ發芽スルモノハ茶樹ニシテ其生育モ亦極メテ迅速ナルノ状態ナレハ各郡競フテ盛ニ製出ヲナシ明治初年ニアリテハ其産出巨額ニ上リシモ明治二十年以降ハ殆レト消長ナク三十年ニ入りテハ勞働賃銀ノ騰貴及ヒ費費多ク此茶期ニ際シテハ特ニ製造費用ノ多額ヲ要スル爲メ遂ニ昔日ノ觀ヲ再ヒスル能ハスシテ漸次減退ニ傾キタルヲ以テ茶業組合及ヒ縣ニ於テモ大ニ之カ改良ヲ唱導シツ、アルカ尙ホ前年ノ盛況ニ復スル能ハサルハ一ハ海外ニ於ケル競争品ノ關係ニモ據レルナラン乎

五、製造戸數

戸數 五、九六〇

六、原料需要供給

本縣製茶ノ原料ハ殆ント無盡藏トモ稱スヘク何レノ山ト雖モ此茶樹ヲ見サル所ナキ有様ニシテ原料供給ノ充分ナル言ヲ須タスト云フヘシ

七、販出額及仕向地

數量	九四、〇〇〇斤
價額	二五、三五〇圓

輸出品ハ殆ント神戸ニ販出スルヲ例トセルモ偶々横濱及長崎ニ販出スルコトアリト雖モ少額ナリ而シテ製産者ハ徳島市ノ仲買業者ニ積出シ又仲買商ハ是ヲ神戸ノ商人ニ委託販賣ヲナスヲ例トセリ

八、長所及缺點并改良ノ要點

本縣産茶ノ長所トシテハ其光澤ヲ有スルコト及ヒ煎液色ノ善良ナル點ナリ然ルニ近時漸々粗製ヲ爲スモノ多ク爲ニ  
聲價ヲ失墜セルハ免レカタクコトニシテ是等ハ大ニ改良ノ必要アリト思惟ス

于 緞

一、産 額 (三十八年調)

數 量 二七、四六七。

價 額 三五、四四八円

二、主要産地

名東郡津田浦 勝浦郡小松島 板野郡瀬戸村

三、輸出状況

本品ノ製産ハ最近ニシテ海外輸出ヲ目的トシ製造ニ着手セシカ其需要多クシテ頗ル有望ナルヨリ漸次事業ヲ擴張シ  
ツ、アリ

四、販出額及仕向地

販出額ノ製産額ヲ悉ク輸出シツ、アルモノニシテ其仕向地ハ香港ヲ以テ最トス

麥稈及經木眞田

一、産 額 (三十八年調)

麥稈眞田 數 量 五、八三三五

價 額 二、一七六円

經木眞田 數 量 一九、二一六五  
價 額 七、二七九円

二、事業ノ沿革及製産現況

麥稈眞田及經木眞田ニ就テハ其始業日尙淺ク未タ詳記スルニ足ラスト雖モ麥稈眞田ハ板野美馬ノ二郡ニ於テ香川縣  
ノ製造業者其支店ヲ置キ職工ヲ養成シテ之ヲ創始セシヲ初メトス爾來各所ニ之ヲ計畫セルモノアリシモ成效ヲ見ル  
ニ至ラサリシカ三十七八年ノ戰役ノ際シ細民授産ノ途ヲ開ク爲メ大ニ斯業ヲ獎勵シタル結果稍々囑望スルニ足ル事  
業トナリシナリ

氷 豆 腐

一、産 額

年 次	數 量	價 額
三 十 五 年	二八、七二六	一〇四、一五〇
三 十 六 年	一六、〇〇〇	六〇、八〇〇
三 十 七 年	一七、四八〇	六四、一二〇
三 十 八 年	一九、六七二	八六、〇〇三

二、沿 革

本縣氷豆腐ノ始祖ハ弘化元年麻植郡ニ於テ製造セシヲ始メトシ爾來改良ヲ加ヘ明治初年ヨリ縣外ニ輸出スルニ至リ  
明治三十年ニ入りテハ益々盛況ヲ見ルニ至リ同三十五年ニハ十方圓ヲ起ユルノ状態トナリ多少産出ノ増減アルモ尙



ホ八万圓乃至十萬圓ノ上ヲ上下シツ、アリ而テ最近ニ於ケル製造戸數ハ二十五戸ニシテ之ニ從事スル職工男二百七十二人女十人ナリ而シテ原料ハ半ハ縣外ノモノヲ需用シ半ハ本縣産品ヲ需用セリ其販路ハ高知、香川、愛媛、岡山、廣島、大坂等ノ各地ニ及ヒ殊ニ戦後ハ其需用益々夥多ニ至レリ

### 麥粉

一、産額	年次	數	量	價	額
	三十五年		一五三、一〇〇 <sub>円</sub>		四三、九〇九 <sub>円</sub>
	三十六年		七九、四七〇		三七、一四八
	三十七年		四〇九、二〇九		三九、四四四
	三十八年		一、二四七、五八九		七四、九八〇

### 二、製造戸數及職工數

戸數 六六<sub>戸</sub>  
職工數 一三八<sub>人</sub>

### 三、製産狀況并原料需用供給

本品ノ製造ハ近時著シキ發達ヲ爲シ將來益々發展スヘキ傾向ニシテ其多クハ水車ヲ利用シテ製粉シツ、アリ而シテ其原料ハ多ク縣内産出ノモノヲ用ヒ居レリト雖モ時ニ縣外及外國産ニ供給ヲ待ツコトアリ是等ハ購入價額ノ低廉ナ<sub>ル</sub>場合ニシテ今三十八年ニ於ケル原料費消費ヲ示セハ内國産七千六百六十八石外國産百五十石ナリシト云フ

### 大豆粕

一、産額	數	量	價	額
		五八、四四〇 <sub>石</sub>		六一、六五四 <sub>円</sub>

### 二、製産狀況

大豆粕ハ本縣ニ於テ稀ニ見ル所ノ事業ニシテ茲ニ其使用機械等ニ就テ聊カ述フル所アラントス

- 原 働 力 蒸汽機公稱十馬力
- 壓 碎 器 ロール二臺
- 壓 搾 器 ハイドリックポンプ三臺

以上ノ動力機械ヲ使用シテ製粕シツ、アルモノハ德島市美馬豆粕製造合資會社ニシテ現時一晝夜ニ九十四石五斗ノ原料ヲ使用シ居レリ而シテ是等ノ原料ハ主トシテ支那大豆ヲ用ヒ又其製品ハ多クハ縣内ノ需要ヲ充タスニ止マレリ尙本年內ニ於テ德島市船場町及ヒ板野郡撫養町ニ事業ヲ開始スル筈ナレハ前途ハ頗ル多額ノ製出ヲ見ルニ至ルヘシ

### 油及油粕

一、産額	年次	數	量	價	額
	三十一年		二二〇七 <sub>石</sub>		七三、〇〇六 <sub>円</sub>
	三十二年				七十七

德島縣

三十七年	一、九〇九	六九、五三〇	七十八
三十八年	一、五四八	六六、一三七	
(以上油)			
三十七年	九八、四六九	二五、二三七	
三十八年	九二、七七四	二四、七三四	
(以上油粕)			

製造戸數及職工

戸數	五四戸
職工數	一五〇人

三、製産狀況并原料ノ需要供給

本品ニ就テハ唯多少ノ消長アルノミニシテ別ニ記述スヘキ事項ナシ原料ハ多ク本縣産出ノモノヲ用ヒ其製品モ亦縣内ノ需要ヲ充タスニ止マレリ又油粕ニアリテハ煙草施肥料トシテ特ニ有價ナレハ縣内三好美馬等ノ煙草作付地ニ供給スルモノナリト云フ

香川縣

産業概況

本縣ハ南ハ山嶺ヲ以テ阿波、伊豫ノ兩國ニ境シ東西南北ハ海ニ面シテ淡路、播磨、備前、備中、備後ノ五ヶ國ニ相對ス東方阿波國境ヨリ西方伊豫國境ニ到ル海岸ノ延長五十五里餘ニシテ岬角、港灣多ク島嶼其間ニ碁布ス幅員東西二十五里餘南北十里ニ滿タス全國ノ面積ハ百十五方里地形半月形ヲナシ平地、山地大約相半ハセリ然レトモ地勢南ニ高ク北ニ低シ南部ハ峯巒連亘シ海濱ハ丘陵少ク砂濱多シ港灣中船舶ノ出入繁留ニ便ナルハ高松港ヲ第一トシ之ニ次クモノハ多度津港トス此兩港ハ毎日定期船舶ノ發着アリ旅客、荷物ノ東上、西下スルモノ悉ク此兩港ヨリセラル其他良灣ト稱スルモノ志度、詫間ノ兩灣トス氣候溫暖ニシテ地味又肥沃唯水利ニ乏シク無數ノ溜池ヲ築造シテ以テ灌漑ノ用ニ供スルニ依リ夏季旱天連日ニ彌レハ稻作ノ困難ヲ免レス

交通運輸ニ至テハ海陸ノ便實ニ四通八達ニシテ縣内國道三線其延長二十三里縣道十五線其延長四十九里其他郡町村ノ施設ニ係ル里道ニ屬スルモノ縱横ニ開通シ人車ノ通セサル殆ント稀ナリ鐵道ハ現今高松ヨリ丸龜、多度津ヲ經テ琴平(琴平ヨリ國境猪ノ峠ヲ踰ヘ阿波國池田ヲ經テ土佐國高知ニ達スル國道アリ)ニ達スル一線其里程二十七哩ニ過キサルモ三十六年山陽鐵道株式會社ノ讚岐線買收ト同時ニ岡山、高松間及尾道、多度津間トノ連絡開始セラレテ以來噸ニ乘客ノ激増ヲ見ニ至レリト云フ之ニ加アルニ西讚岐多度郡瀧川村大字金藏寺ヨリ三豐郡觀音寺町ニ至ル五里間東讚高松市ヨリ木田郡平井村ヲ經テ大川郡松尾村ニ至ル七里間同郡丹生村ヨリ同引田村ニ至ル三里間及高松市ヨリ同郡志度町ニ至ル四里間何レモ馬車ノ往復スルアリ特ニ四十年五月高松電氣軌道株式會社ノ企畫ニ係ル高松港ヨリ市内東北部ヲ貫通シテ大川郡長尾村ニ達スル電氣鐵道約十一哩ノ敷設許可アリ且ツ前年來阿讚豫讚兩鐵道敷設ノ計畫アルヲ以テ此線ニシテ成ラン

カ讃岐高松ハ四國ノ關門トシテ重キヲ措クニ至ルヘシ  
 上ニ記述セルカ如ク本縣ノ海陸交通ハ頗ル便利ニシテ且ツ沿岸殆ント港灣ナラサルナキヲ以テ旅客物貨ノ出入頻繁ヲ極  
 ムト雖モ只食鹽ノ大部分ハ其主産地タル綾歌郡坂出町、宇多津町及本田郡瀧元村ヨリ直接北海道、北陸地方ニ輸出セラ  
 ル、モノ多キカ如シ  
 而シテ商業上ニ於テハ本縣ハ本邦ノ商業ノ中心タル大阪市トハ密接ノ關係ヲ有シ物貨ノ輸出入トモ同地ヲ經由スルモノ  
 其大部分ヲ占メ對岸ノ中國トハ商業ノ關係甚タ鮮シ又縣内ニ於ケル商業ノ中心點ハ勿論高松市ニシテ同市ノ商人ハ舊來  
 ノ商習慣ヲ守リ大阪市ニ到リ仕入ヲナシ而カモ總テ現金取引ナルニヨリ比較的格安物ヲ得ルヲ以テ丸龜市其他ヨリ其供  
 給ヲ高松市ニ仰クモノ尠カラスト云フ  
 以上本縣ノ地勢、交通其他ニ關シ略述シタレハ以下本縣ニ於ケル各産業ニ付キ概説スルニ先チ總生産力ヲ示セハ左ノ如シ

總生産力

年次	三十八年	三十七年	三十六年	三十五年	三十四年
農産	一七六七、一八五	一七五二、五八四	一、二八二、〇九二	一、二五一、七三六	一、二三七、九六三
工業	九八一七、〇六一	九、九七、八一	八、八九一、四七六	八、二五二、八六四	八、〇二一、四七六
水産	二、四一四、六五五	二、八一七、三六〇	二、五五四、三二八	二、二七一、五六八	二、一三七、七二〇
林産	一、〇三四、七五一	九三四、七八五	六二八、三三五	六一一、五八一	四九二、四二九
畜産	三五五、五〇八	二六七、〇七四	一八七、五五九	一五九、六一三	一五九、五〇七
計	三、二九九、一六〇	三、〇七四、二八二	二、五〇八、二六二	二、三三八、二九九	二、三二八、〇九五

更ニ本縣主要物産ヲ摘録スレハ左ノ如シ

種別	數	量	價	額
米		八〇〇、三六二	一一、七六一、五〇二	
麥		五一七、三二八	四、〇六五、三四七	
砂糖		七、五七九、五二二	七八〇、三四一	
甘藷		九、八一五、一六五	三九一、一二一	
蘿蔔		一〇、〇八九、八六五	一五七、六四五	
大豆		一四、九九八	一四一、〇六七	
繭		二、一八四	一三二、六七五	
草		三三一、四九四	一〇〇、一一一	
雞		一一、一五五、二五一	一九一、三〇四	
麥稈		三、九九六、五八七	一、六三六、五六八	
醬油		九七、七〇二	一、四六五、五三〇	
酒類		三〇、六五四	九六一、八四三	
綿糸		七、六五二	八五七、〇三三	
製粉		一一、〇五二、一三七	六五九、二八七	
菓子		?	四五八、一七八	
紙類		四一一、八四〇	四五八、五八一	
賣藥		?	二二九、六九七	

香川縣

指物	四五一、七三五 <sup>打</sup>	二二五、六四二
素麵	九、三〇七、三〇五 <sup>打</sup>	一九九、三五九
燐寸	?	一九一、一三八
織物	一六、四七八、七二八 <sup>圓</sup>	一八二、五二四
煉瓦及瓦	?	一八〇、九三一
團扇	?	一六九、〇二〇
漆器	?	一四六、六一〇
傘	九〇八、五八三 <sup>本</sup>	一一八、四九一
木材	一六二、九三一 <sup>本</sup>	三六三、四九四
薪炭	九一、四三五 <sup>〇</sup>	一四三、三七七
石材	?	一一〇、一六八
食鹽	一、〇六二、七九二 <sup>石</sup>	一、六七八、九三二
鯖	二二八、三七七	二〇九、七九五
鯛	?	一六六、五八二
煮乾鰻及乾鰈	一二九、九六九	一三九、五九七
合計		二八、六七一、四九〇

備考 米麥ハ三十九年中ノ産額ナリトス

前表ニ依テ觀レハ本縣ニ於ケル農産ノ收利ハ全生産額ノ二分ノ一強ニ當レリ左レハ一縣經濟上ノ基礎ハ農産ノ收利ニ須

タサルヘカラス而シテ其生産ノ主要ナルモノハ米、麥ニシテ特殊農産物トシテ特ニ掲記スルモノヲ見ス蠶業ニ就テハ縣當局者ハ銳意獎勵ニ努メツ、アルモ未タ繁盛ノ域ニ達セス農産ニ次クモノハ工産ニシテ其額農産ノ二分ノ一強ニ過キスト雖モ年々増加ノ好況ヲ呈セリ之ニ亞クモノ水産ニシテ本縣ニ於ケル水産上ノ地位タルヤ前ニモ示スカ如ク其沿岸五十里餘ニ沙リ而カモ幾多大小ノ島嶼ハ其布星列シ其沿岸亦漁業ニ適ス魚獲物ノ主ナルモノハ鯛、鯖、鰈、鰻等ニ過キスト雖モ年々ノ收利二百萬圓ヲ下ラスシテ是亦決シテ輕視スヘカラサルモノナリトス林産、畜産順次之ニ次クト雖トモ兩者著シキ發達ヲナセルモノアルヲ見ス尙更ニ各産業ニ就キ概説スレハ左ノ如シ

### 農 業

農業ハ本縣ノ各産業中第一位ヲ占ムルモノタルコトハ前己ニ説述セリ今明治三十八年ノ調査ニ依レハ

耕地面積	五〇、六五五 <sup>町</sup> 八	本縣土地面積	一四一、九四一 <sup>町</sup> 四	歩合	三六%
農家	九四、二一三 <sup>戸</sup>	總戸數	一三六、五三八 <sup>戸</sup>	歩合	六九%
内兼業者	三〇、〇四九 <sup>戸</sup>	總人口	七二八、四四〇 <sup>人</sup>	歩合	七二%
農業者	五二六、五九七 <sup>人</sup>	生産總額	三〇、九一二、三七六 <sup>圓</sup>	歩合	五六%
内兼業者	一五七、八六四 <sup>人</sup>				
農産物	一七、三一〇、九九五 <sup>圓</sup>				

ニシテ農産物ハ實ニ總産額ノ五割六分ヲ占ム本縣ノ地タルヤ其面積甚タ廣カラスト雖モ氣候溫和ナルヲ以テ殆ントニ毛作ニ適シ優ニ東北地方寒國ノ二倍以上ノ面積ヲ有スルト同一結果ヲ得ルモノトス從テ農業モ亦集約ニ行ハレ其沿革起原等モ單純ナラス今濟政時代ヨリノ保護獎勵等ニ就キ記述スレハ左ノ如シ

農業ハ自然ノ制裁ヲ受クルコト多ク隨テ其進歩ノ極メテ遲緩ナルヲ免レス左レハ其啓發ヲ計ラント欲セハ勢ヒ是レカ保護獎勵ニ努メサルヘカラス此ニ於テ藩政時代ニ於テモ種々ニ保護政策ヲ施シ以テ事業ノ發展ヲ促シタルモノ尠カラサルモノ、如シ即チ天保年間ニ於テ高松藩カ砂糖爲替ノ法ヲ定メ(甘蔗作ノ項ニ明記ス)タルモノアリ該法ハ其目的ノ一ハ藩債ノ償却ニアリタルモノ、如キモ其方法宜シキニ適シ其目的ヲ達シ而カモ糖業ヲ發達セシメ且ツ多クノ剩餘金ヲ生シタルヲ以テ維新後モ尙之ヲ繼續シ來リシカ藩政當時ニ比スレハ百事頗ル困難ヲ來シ終ニ廢絶スルニ至レリト云フ又置縣後ニ於テモ毎年縣會ノ決議ヲ經テ諸種ノ獎勵法ヲ講シ是レカ補助ヲ爲セリ今其事業及補助ノ主ナルモノヲ左ニ示サン

- 一、郡農事試驗場補助
- 一、縣農會補助
- 一、品評會展覽會補助
- 一、耕地整理補助
- 一、糖業改良補助
- 一、實業團體補助
- 一、害虫驅除豫防費補助

右ノ如ク各種ノ事業ニ就キ保護獎勵ヲ加ヘタル結果重要農産物其他肥料ニ害虫驅除等ノ改善ニ効ヲ奏セルモノ尠カラスト云フ

以下更ニ重要農産物ニ就キ概説スヘシ

一、米 米ハ本縣首要ノ産物ニシテ往時藩政時代貢租米納ノ制ナリシ時ハ之カ取締自ラ嚴重ナリシヲ以テ品質佳良ナ

リシカ一度廢藩トトモニ米納ノ制廢セラレテヨリ乾燥、調製、俵裝等年々粗漏ニ流レ加フルニ明治十二三年ノ頃ヨリ米價ノ昇騰ニ伴ヒ農家ハ品質ノ如何ヲ顧ミル暇ナク倍々收穫ノ多量ナルモノヲ撰定スルニ至リタルヲ以テ米質モ亦昔日ノ如クナラサルニ至レリ現ニ明治十九年ニ於テハ早稻ノ作付反別二千五百七十七町餘反步中稻ハ九千二百十二町餘反步ナリシモ現今ニ於テハ殆ント晚稻ノミトナレリ從テ品質粗惡ナルニ至レルヲ以テ爾來之カ改善ノ必要ヲ認メ縣當局者モ亦大ニ之カ勸誘ニ努メ或ハ稻子ノ交換會ヲ開キ或ハ共進會ヲ開設シ同二十六年ニ至リテ米作改良試驗補助規則ヲ設ケ續テ各郡ニ稻作改良ノ爲メ教師ヲ聘シ專ラ之カ勸誘ニ努メタリシモ其効果極メテ尠カリシヲ以テ同三十五年ニ重要物産同業組合法ニ據リ米作改良組合ヲ設置セントシ定款ヲ草シ委員ヲ設ケ專ラ之カ勸誘ニ努メタリ然レトモ八萬有餘ノ農家ヲシテ悉ク之カ調印ヲ爲サシメ能ハサルヲ以テ終ニ其効ヲ奏スルニ至ラザリキト云フ降テ同三十七年日露戰端ヲ開クヤ國力ノ發展愈々急ヲ訴フルニ至リシヲ以テ此際民心ノ一致シ易キヲ慮リ此期ヲ利用シテ大ニ農事ノ發達普及ヲ圖ラントシ産業上ニ關スル時局注意事項ナルモノヲ設ケテ銳意之カ實行普及ニ努メタリ茲ニ於テ農家モ亦克ク其主旨ヲ諒シ從來行ハレサル事項モ爲メニ大ニ其効果ヲ收ムルヲ得タリ今米作ニ關シ時局以來繼續シテ勸奨セル事項ヲ示セハ左ノ如シ

- 一、籾種子ハ鹽水攪ヲ爲スコト
- 一、籾種子改良實行ノコト
- 一、共同苗代ヲ設置スルコト
- 一、正條植實行ノコト
- 一、専ラ苗代田ニ於テ病虫害ノ防除ヲ爲スコト
- 一、米ノ乾燥ヲ完全ナラシムルコト

尙米穀ノ改善ヲ圖ル爲メ明治四十年度ヨリ縣令ヲ以テ米穀検査ヲ行ハントスト云フ(之ニ關スル規則ハ同年三月十七日

發布セリ)

二、麥作 麥ハ田畑ヲ通シ之ヲ栽培スルヲ以テ其作付反別甚タ廣大ナリ往時ハ大麥ヲ以テ常食トスル者尠カラサリシト云フト雖モ搗精ノ爲メ勞力ヲ要スルコト多ク爲メニ之レカ栽培ヲ廢スル者アリテ今ヤ著シク其收穫ヲ減シ裸麥及小麥ハ共ニ益々増收ヲ見ルニ至レリ而シテ裸麥ハ從來青麥、赤鬼等ノ種類ヲ多ク栽培シ來リシカ其後屋根裸麥種ノ栽培ヲ増加シ明治三十年ノ頃ヨリ麥稈真田業ノ漸次發達セルニ伴ヒ「コピンカタギ」ト稱スル種類ヲ多ク栽培スルニ至レリト云フ

又明治二十六年ノ頃農商務省ニ於テ大麥「ゴールデンメロン」、六角「シユバリュウ」小麥「フルツ」カリホルニヤ」等ノ種子ヲ配付セラレ何レモ子粒太ク收穫多量ナリシカ成熟遅キヲ以テ終ニ其繁殖ヲ見ルニ至ラサリキト云フ

麥作ニ對シテハ獎勵ヲ加ヘタルコト多カラサルカ如クナルモ明治三十七年日露ノ戰役起ルニ當リ大ニ各種産業ノ發達ヲ圖ラントシ之カ獎勵ニ努メタル結果從來行ハレサリシ施設モ爲メニ著シク其効果ヲ得タリト云フ就中鹽水撰種麥奴拔除等ハ其主要ナルモノニシテ爾來繼續シテ之カ實行ヲ爲シツ、アリト云フ

三、甘蔗作 砂糖ハ本縣重要物産ノ一ニシテ往時ハ頗ル旺盛ヲ極メタルモノナリ今斯業ノ起原ヲ窺フニ寒川郡志度町ニ平賀源内ナル者アリテ幼ヨリ醫業ニ志シ傍ラ殖産ニ意ヲ用キ又洋學ヲ修メテ屢々外人ニ交リツ、アリシカ寶曆ノ初メ香川郡東濱村ノ内花畑ニ甘蔗ノ試栽ヲ爲サントシ各地方ヨリ種類ヲ集メテ之カ栽培ヲ爲シ白下、砂糖及氷砂糖ヲ製シ同十三年物類品騰六冊ヲ著述シ甘蔗植付ノ地擇法、蒸貯法、植莖分栽法、伐莖法、製車法、造糖法、白法、氷糖法軌、造蔗取漿圖畫澄法糖霜丸器ノ圖解等ヲ著シ以テ其業ヲ勸メタリキ之レ讃岐糖業ノ濫觴ナリトス然レトモ當時ハ栽培製糖術進マス品質從テ惡シク産額亦僅少ナリシ又寛政ノ頃大内郡淡村ニ向山周慶ナル醫師アリ是レ亦意ヲ殖産ニ傾ケ遠大ノ志ヲ抱ケリ當時此年早魃ノ害多ク農作爲メニ稔サルヲ以テ甘蔗ハ或ハ地ニ適センコトヲ慮リ時ノ藩主松平頼恭之カ栽培

ヲ獎勵セシモ製糖ノ法未タ精シカラサルヲ以テ待醫池田玄丈ニ其法ノ研鑽ヲ命シタルモ中途ニシテ病没セリ於此藩主ハ之ヲ周慶ニ遺囑セリ其後周慶江戸ニ遊學シ偶々同窓ニ薩摩人アリ能ク糖業ノ秘術ヲ知悉セルヲ以テ周慶其傳授ヲ懇請スルモ藩禁アリトシ之ヲ許サ、リシカ後遂ニ傳ヘタリト云フ又其後薩人良助ナル者來リ淡村ニテ罹病セリ周慶又之ヲ救ヒ病癒ヘタル后甘蔗數莖ヲ採ラシメ試作セシニ良助再生ノ恩ニ酬ユル爲メ熱誠其栽培ニ從事シ其熟練ナル技術ニ依リ優等ノ砂糖ヲ製出スルヲ得タリ於此藩廳命ヲ周慶ニ傳ヘ封内ヲ巡教セシメ又藩廳ニ於テハ益々其隆盛ヲ圖リ享和元年高松海岸ノ地ヲ埋メテ會所ヲ設ケ數艘ノ運送船ヲ置キテ之カ運搬ニ便ニシ又藩主ノ元銀ヲ貸與シ文化ノ初ヨリ該業ニ關スル一切ノ事務ヲ郡奉行ニ掌理セシメ專ラ之カ保護獎勵ニ努メタリシモ奸商輩ノ爲メニ妨ケラレ文化四年之カ保護ヲ解クニ至レリ然レトモ甘蔗ノ栽培日ニ益々多キヲ加ヘ天保年間ニ至リテ大ニ産額ヲ増加セリ當時藩ノ財政頗ル困難ヲ極メタルヲ以テ一面之カ恢復ヲ計ラントシ同六年中新タニ役所ヲ設ケ藩金ヲ投シテ肥料ノ購入ヨリ製糖販賣ニ至ルマテ爲替法ヲ布キ又若干ノ金員ヲ郡奉行所ニ下附シ郡奉行所ニ在テハ砂糖方引除キノ役所ヲ設ケ右金員ノ低利貸付ヲ行ヒ以テ大ニ農家ノ利便ヲ計リ或ハ甘蔗製糖ニ關スル届出ヲ爲サシメ或ハ吏員ヲ派シテ之カ巡檢ヲ爲サシメ或ハ甘蔗作地ニ他ノ種穀ヲ作付セントスルモノハ田方ノ毛作替ヘト稱シテ之カ届出ヲ爲シ調査ヲ受ケシムル等專之カ保護獎勵ニ努メタル結果一時頗ル盛況ヲ極メタルモ廢藩ト同時ニ此等制度ノ廢滅ニ歸シ而カモ維新以來漸次交通ノ便開ケ廉價ナル外國糖ノ輸入セラル、ニ至リ爲メニ其壓倒ヲ蒙リ又肥料ハ累年騰貴シ加フルニ明治三十四年十月以來砂糖消費稅法實施セラレ直接間接ニ影響ヲ蒙ルコト抄カラスシテ今ヤ他ノ作物ヲ裁收スルノ勝レルニ如カサルニ至リ復昔日ノ隆盛ヲ見ス其産額ハ年々遞減ニ傾キ昨三十八年ノ産額ノ如キ八十萬圓ニ及ハサルニ至レリ

本縣ノ糖業ハ前述ノ如ク漸次衰況ヲ呈セルヲ以テ明治三十八年大川郡三豐郡ニ糖業同業組合ヲ設立シ砂糖ノ改良發達ヲ計リ其挽回ニ努ムルニ至リタルモ日尙淺キヲ以テ未タ成績ノ見ルベキモノナキモ縣ハ之カ補助トシテ明治三十九年度ニ

於テ千二百圓ヲ支出シ又四十年年度ニ於テモ補助ノ見込ナリト云ヘリ

四、甘藷作 甘藷ノ栽培ハ其起源漠トシテ之ヲ釋スルニ由ナシト雖モ之カ栽培ハ近時益々發達シ産額年々増加セリ殊ニ從來ハ方言「マイモ」ト稱シ白色美味ノモノヲ多ク栽培セシカ明治十二三年ノ頃ヨリ米價ノ騰貴ニ伴ヒ農家ハ品質ノ如何ヲ論スルノ暇ナク専ラ收穫ノ多キ種類ヲ栽培スルニ至レリ又往時甘藷棉花ノ栽培盛ナリシ時代ニ在テハ爲メニ其土地ヲ要スルコト多カリシモ斯業ノ比年衰微スルニ從ヒ之カ代用作物トシテ甘藷ノ栽培ヲ爲スモノ益々増加スルノ趨勢ヲ呈セリ然レトモ之カ栽培ノ方法ニ至リテハ古來未タ甚タシキ變化ナシト云フ  
尙現今農事ニ對スル實施獎勵ノ大要ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 戰後經營事項ノ勵行

嚮ニ時局ニ處スルノ要義トシテ縣下農事ノ改良ヲ要スベキモノ十六項ヲ示シ極力之カ獎勵ニ努メタリシカ平和克復後之ヲ戰後經營事項ト改メ從來ノ方針ヲ繼續シテ官民之カ勵行ニ努メツ、アリ其項目ハ左ノ如シ

- (甲) 米作ニ對スル事項
  - (イ) 粳種子ハ鹽水撰トナスコト
  - (ロ) 粳種改良實行ノコト
  - (ハ) 共同苗代ノ實行ニ努ムルコト
  - (ニ) 正條植實行ノコト
  - (ホ) 専ラ苗代ニ於テ病虫害ノ防除ヲナスコト
  - (ヘ) 雜草ノ削取及燒却ノコト

(ト) 乾燥法ヲ完全ナラシムルコト

(乙) 麥作ニ對スル事項

- (イ) 麥種子ハ鹽水撰トナスコト
- (ロ) 收穫ノ時期ヲ誤ラサルコト
- (ハ) 乾燥法ヲ完全ナラシムコト
- (ニ) 麥奴拔除ノコト

(丙) 肥料ニ關スル事項

- (イ) 堆肥ヲ改良スルコト
  - (ロ) 綠肥用大豆間作ヲ行フコト
  - (ハ) 肥料共同購入ヲ行フコト
- (時局注意事項中ニハアラサルモ現  
今專ラ之カ獎勵ニ努メツトアリ)

(二) 耕地整理ノ獎勵

目下技師一名、技手三名ヲ置キ基本調査及實地調査並工事監督ヲ爲サシムル外工事費ニ對シ補助金ヲ交付ス既ニ工事完了セルモノハ二十五町歩ニ過キササルモ目下設計又ハ設計濟ノモノハ益々増加シ將來土地ノ利用ヲ増加スル頗ル大ナリト云フ

(三) 米穀検査

明治四十年年度ヨリ之カ検査ヲ行ヒ改善ヲ計ラントノ計畫ニテ同年度之ニ要スル豫算ハ二萬二千七十八圓九錢二厘ナリト

(四) 縣農會ノ事業獎勵

縣農會ニ於テハ事業獎勵ノ爲メ別項記載ノ如ク蠶業補助費金壹千五百圓畜産會補助費金參百圓ヲ補助シ以テ其事業ヲ獎勵セリ今同會創立以來ノ主ナル事業ノ概略ヲ舉クレハ左ノ如シ

- (イ) 苗木ノ配布 苗圃反別四町步、分苗圃三ヶ所此反別壹町貳反合計五町貳反步ニ於テ桑、柑橘、桃、枇杷、桐、樟杉、扁柏、櫟、松、山橙等ノ苗木ヲ養成シ時價ノ半額ヲ以テ配付シ居レリ
- (ロ) 小作米麥品評會補助 小作者ヲ獎勵シ地主小作者ノ弊害ヲ矯正スル爲メ小作米麥品評會ヲ開設スルモノニ對シ一ヶ所金十五圓以内ヲ補助シ以テ其開設ヲ獎勵セリ三十九年開設箇所ハ四十一ヶ所トス
- (ハ) 米麥種子ノ配付 米麥種子ノ改良ヲ期スル爲メ縣外ヨリ良種ヲ購入シ從來委託採取田二町ニ於テ栽培セシカ三十九年度ヨリハ之ヲ縣農會ノ直營トナシ其種子ヲ精撰シテ其配付ヲ行ヘリ三十九年中ノ配付數ハ百名ニ上レリト云フ
- (ニ) 模範施肥舍補助 肥料經濟ヲ計ルハ目下ノ急務ナリトス然ルニ從來堆肥ハ露天蓄積シテ風雨ニ曝露シ肥養分ヲ損失シテ敢テ顧ミサルモノアリ故ニ三十九年度ニ於テハ堆肥舍ヲ建築シ合理ノモノニハ一棟平均五圓ノ補助ヲ以テ獎勵シ居レリ此豫算金四百圓トス四十年度ニ於テモ亦繼續獎勵ノ見込ナリト云フ

(五) 害虫驅除

稻作ニ對スル害虫ノ被害ヲ少ナカラシメン爲メ毎年縣吏員ヲ派シ大ニ督勵シツ、アリテ三十九年度ニ於テハ螟虫ノ撲滅ヲ期スル爲メ金五百四十七圓四十四錢七厘ヲ補助シ嚴ニ之ヲ實行セシメタリ四十年度ニ於テモ之ヲ繼續シ而カモ補助費

ヲ八百圓ニ増加スルノ見込ナリト云フ  
終ニ農事獎勵ニ要スル費用ヲ舉クレハ左ノ如シ

(六) 三十九年度分附四十年度豫算

科	經 常 部	三 十 九 年	四 十 年 (豫 算)
勸業報告費		三八四三九〇	三〇四〇〇〇
獎勵費		二〇〇、〇〇〇	二〇六、〇〇〇
農事試驗場費		六、六二七、八〇六	六、四七七、五九三
種牛費		七五八、八〇〇	七九〇、三〇〇
獸疫豫防費		一、〇〇〇	一、〇〇〇
蠶病豫防費		一九七、三四〇	一七三、五四三
蠶病豫防吏員費		八二六、六八〇	八二六、六八〇
米穀檢査費		—	二一、六八五、五九二
耕地整理獎勵費		三、二二一、七〇〇	一、九七〇、五五〇
耕地整理吏員費		三、七〇三、五四〇	三、二八〇、三八〇
計		一五、八二一、二五六	三五、七一五、六三八



科 目	三十九年	四十年(豫算)
馬匹去勢獎勵費	一〇〇〇	五二五 <sup>四</sup> 二〇
種牛購入費	二、四五五、一一〇	一五、三六〇
農事試驗場費	—	—
縣農會補助費	六、三〇〇、〇〇〇	六、三〇〇、〇〇〇
害虫驅除豫防補助費	五四六、四四七	八〇〇、〇〇〇
郡農事試驗場補助費	一、二〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
耕地整理補助費	四、六八二、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
獸醫養成補助費	六九一、六七五	六〇〇、〇〇〇
計	一五、八七六、二三二	一一、四四〇、六七〇

蠶業

本縣蠶業ノ起源ハ明瞭ナラズト雖モ古來ヨリ獎勵セシハ疑ヲ容レサル所ナリ藩政時代ニ在リテハ眞綿稅ト稱シ畑地ノ畦畔ニ賦課稅スル制アリ是畦畔ヲ利用シ栽桑養蠶ノ業ヲ獎勵スルノ目的ニシテ眞綿現品ヲ徵收シ來リシカ其後之ヲ銀納ニ改メタルヲ以テ桑樹ヲ栽植スルモノ漸次減少スルニ至リシカ如シ維新後ニ於テ之カ保護獎勵ノ爲メ明治五年二月蠶種製造者ニ免許鑑札ヲ下付シ同年七月高松東濱ノ内松島木村惣平外三名ハ養蠶世話係ヲ命ジ養蠶希望者ハ右四名ノ者ヨリ教授ヲ受クヘキ旨ヲ示達ス同六年西設地方ニ於テ血稅問題ニ關シ頑民ノ暴起動リ官署ノ行動ニ反對スルノ結果其害桑園ニ及ヒ從テ種々ノ浮説流傳シ是レカ飼育ヲ躊躇セル者アリシヲ以テ縣ニ於テハ屢々告諭ヲ發シテ之カ勸誘ニ努メタリ七年

名東縣高松支應内監獄近傍舊縣廳跡一番長屋裏舊獄屋跡栗林内等ニ桑苗ヲ仕立テ之ヲ希望者ニ拂下タリ十九年ノ頃耕地ノ地押調査アリ畦畔ニ桑茶等ヲ栽培スルモノハ之ヲ本地ニ變入スヘク命シタルヲ以テ古來眞綿稅法ヲ以テ獎勵セシ桑樹モ茲ニ全ク拔除セラレタルハ深ク遺憾トスル所ナリ又二十一年三月七日養蠶傳習所規則ヲ發布シ同時ニ高松ニ之カ傳習所ヲ設置シ生徒十二名ヲ養成シ同年四月縣令ヲ以テ蠶系業取締規則ヲ設ケ同二十四年度ヨリ區域ヲ定メテ季節養蠶巡回教師九名ヲ設置セシメ同二十八年度ヨリ地方稅ヲ以テ各郡役所ノ區域毎ニ金二百四十圓ヲ補助シ常設蠶業教師一名宛ヲ置カレシニ同二十一年一月桑苗買入補助手續ヲ定メ金四千圓ノ豫算ヲ以テ之カ補助ヲ爲シ同三十一年度地方稅ヲ以テ補助シ養蠶傳習所ヲ設置セシムル等専ラ之カ獎勵ヲ加ヘタルノ結果年々發達ノ傾向ヲ示セリ而シテ三十二年度ヨリハ各郡常設巡回教師ヲ廢シテ縣ニ一名巡回教師ヲ設置シ同時ニ稚蠶飼育養蠶傳習若クハ蠶業巡回教師雇入ニ對シ一郡百五十圓ツ、ノ補助ヲ爲シ三豐郡荻原村西條園ニ補助ヲ給シテ生徒ノ養成ヲ委託シ三十九年度ヨリ縣巡回教師及郡補助金ヲ廢シ三十四年度ヨリ蠶業巡回講習ヲ開始シ且三十六年度ヨリ五百圓ヲ蠶業獎勵費トシテ縣農會ニ補助シ同會ハ之ヲ以テ各郡ニ一ヶ所ツ、ノ養蠶傳習所ヲ設置セシヲ一面同會苗圃ニ於テ桑苗ヲ繁殖シ時價ノ半額ヲ以テ之ヲ配布スル等銳意獎勵ニ務メタリ然レトモ其方法宜シキニ適セサルモノアリ投機的蠶業者ノ往々失敗ヲ重ヌルモノアリ爲メニ其發達頗ル遲緩ニシテ未タ隆盛ノ域ニ達セスト云フ、今過去現在ノ狀況ヲ對照スレハ左ノ如シ

年 次	桑園反別	收 蒔	高
二十二年	八四 <sup>四</sup>	一二三 <sup>五</sup>	—
三十三年	四六九 <sup>四</sup>	一、四〇七 <sup>六</sup> 六 <sup>五</sup>	—
三十九年	三三九 <sup>四</sup>	三、〇〇六 <sup>五</sup>	—

蠶業獎勵ノ爲メ縣農會ハ年々金一萬五百圓ノ指定補助ヲ爲シ之ニ依リテ養蠶傳習所又ハ稚蠶共同飼育所等ヲ設置セシメ

又一面同會施設ノ苗圃ニ於テ桑苗ヲ養成配付セシメ以テ桑園ノ増加ヲ計レリ  
尙縣ニ於テ戰後經營事項中蠶業ニ對シ勵行セル項目ヲ示セハ左ノ如シ

- (一) 養成ノ普及ヲ圖ルコト
- (二) 桑園ノ増加ヲナスコト
- (三) 蠶病消毒普及ノコト

### 水 産

本縣ハ前述セル如ク東西北ノ三面海ニ類セルヲ以テ管内水産業ハ甚タ盛況ヲ呈セリ又管外ニ出稼ノ漁船水夫ハ概ネ秋期ニ於テ淡路地方ハ鯉魚岡山地方ハ石首魚又冬期ニ於テ高知縣及朝鮮海ハ鯛、鯖魚等盛ニシテ爲メニ漁船水夫等ヲ要スルヲ以テ此等地方へ出稼スル者甚タ多シ其漁期ヲ過クレバ歸リテ管内諸漁ニ從事シ年中轉々漁業ニ從事セリ今三十八年ニ於ケル主要水産物ノ漁獲高及製造高ノ統計ヲ示セハ左ノ如シ

(一) 漁獲物(五千圓以上ノモノ)

鯛	一七八、二九〇 <sup>円</sup>	鰻	三三、二八九	鯖	八、四八一
鱈	二〇九、七九五	鱈	三〇、八三九	鯉	三二、〇六一
鮭	八、六八七	鳥賊	一七、〇〇〇	鰻	一三、五三二
鰻	一九、九六三	鱈	一六、九六八		
鮭	二五、九七九	鱈	三二、〇九〇		

(二) 水産製造物(三千圓以上)

煮乾鰻 七八、三八六<sup>円</sup>  
 乾鰻 六一、二二一

漁護物ハ生賣ニスルモノト又製造原料トナスモノトノ二者アルハ敢テ他地方ニ異ナラサレトモ乾竹煙ノ如キハ貿易ヲ專ラトスルモノナレハ精撰ヲ以テ供用シ親羅入又ハ俵入トナスモノニシテ六貫目ヲ以テ一俵ト唱ヘ主ニ大阪ニ向ケ發送スト云フ

漁護物ハ概シテ兵庫、大阪へハ和船ニテ輸送セルモ徳島地方へ搬出スルモノハ人馬ニテ運搬シ來リタルヲ以テ豊漁ノ時ニ當リテハ値ヲ有セサル位ニテ運搬ノ費ヲ償ハサリシカ益々交通ノ便開ケテヨリ以來廣ク諸地方へ運送スルモノ多キヲ加ヘ自然魚類ノ價格ヲ増進セリト、特ニ那珂郡ノ如キハ讚岐鐵道ノ敷設以來汽車ニテ多數多度津及琴平等へ搬出スルニ至リタル以テ殆ント三割ノ高價ヲ來セリト云フ

漁具ハ概シテ曳網ニシテ稀ニハ延繩ヲ使用シ又一本釣ヲ用ウ曳網ノ最大ナルモノハ七百五十間最少ナルモノ七十間ニシテ普通二百七十間モノトス漁季ヲ過クレハ海水或ハ淡水ニテ能ク洗滌シ之ヲ乾燥セシメ藏置ス且ツ時ニ修繕ヲ加フルヲ以テ保存ヲ平均セハ五ヶ年位使用シ得ト云フ建網保存ノ方法ハ前記ト同シク春夏使用ノモノハ四ヶ年、秋季使用ノモノハ五ヶ年保存スルヲ得ヘシト又釣具ハ概ネ一ヶ年短キハ三四ヶ月ノ外使用ニ耐ユルヲ得スト云フ

### 林 業

舊藩政時代ニ在リテハ高松藩ニハ山方役所ナルモノヲ置キ郷普請奉行ノ一員山奉行トナリ其下僚ニ山方、手代、木積、山番等アリテ或ハ盜伐ノ監督或ハ枯、損木ノ伐採或ハ修理、蕃植等ノコトニ至ルマテ之ヲ主管シ丸龜藩ニ於テモ亦山役所ヲ設ケ山奉行ノ職ヲ置キ伐木種樹等ヲ掌ラシメタリシモ是皆目今ノ國有林ニシテ即各藩有ノ山林ヲ保護スルニ過キス

別ニ各郡村落、部落ニ附屬スル野山ト稱スルモノアリテ各郡村落ノ肥料草抹ノ刈取場ニシテ毎年四月中人民ノ入山ヲ許シ肥料ヲ刈取ラシムルヲ習慣トス目今ノ公有林ト稱スルモノ是レナリ其當時ニ在リテハ官民共ニ未タ林業ニ重キヲ置カサルハ其野山ニ肥料ヲ刈取ルヤ併テ諸木ノ萌芽餘蘗ニ至ルマテ年々歳々之ヲ亂伐シテ遺サ、レハ之カ爲メニ鬱々々々タルベキ森林モ悉ク薪山ト變シ源泉爲メニ涸渴シ河底爲メニ隆起シ偶々霖雨ニ際會スレハ洪水氾濫シ隨テ池沼埋没ス其極田畝ニ灌溉ト用水欠乏ヲ告クルニ至ル大改維新前ニ當テ高松藩管内三木郡大庄屋小西某山崎某己ニ藩裁ヲ得テ同郡四個山ト稱スル山野ニ大ニ種樹ノ計ヲ爲セリト云フ明治六年八月名東縣管轄中藩々ヨリ繼續セシ山番ヲ廢シ戸長以下村役人ヲシテ取締セシム同月戸長ヘ達シ從來官林内ニ於ケル下草刈取場山各取敷及税金ノ見込ヲ上申セシム同十八年十一月顛倒ノ官木ヲ處分スルノ心得ヲ定ム本縣ハ元來林地僅少ニシテ國有、公有、社寺有、私有ノ合計十萬町歩ニ過キス而シテ國有林ハ明治十八年大林區署ノ主管ニ歸セリ爾來民間ニアリテハ林業ニ重キヲ置カス殆ント之ヲ顧ミルモノナカリシカ明治三十年森林法發布セラレテヨリ殖林ノ思想發達ノ兆ヲ現ハシタルモ其進歩ノ極メテ遅々タルノ憾アリ明治三十一年市町村立學校樹栽規程ヲ同三十二年森林開墾申請手續保安林編入、解除申請手續、森林原野火入申請手續及公有林社寺林規程ヲ發布シ明治三十四年林業取調員ヲ置キ森林調査ヲ行ヒ同年保安林施業規程、殖樹獎勵金下附規程ヲ頒布シ日露開戦ニ際シテハ紀念林ノ設置ヲ獎勵シ明治三十九年ニ公有林整理規程ヲ同四十年ニ保安林ノ施業補助規程ヲ定ムル等幾多ノ手續ヲ以テ獎勵ヲ爲シタル爲メ稍ヤ見ルヘキモノアルニ至レリ其現況ノ概略ヲ示セハ左ノ如シ

一、森林調査 明治三十四年七月ヨリ三十五年二月ニ至ル間ニ於テ縣下森林(國有林ヲ除ク)ヲ調査シタル結果左表ノ如シ

面積

七千六百六十四町

(未立木地ニシテ杉、扁柏、松、櫟、樟等ノ樹種ヲ植栽シ將來材林トナシ得ルモノ)

同

九千四百一十一町三反餘

(未立木地ニシテ櫟、檜、枹、松櫟等ノ樹種ヲ植栽シテ將來薪炭材林トナシ得ルモノ)

同

八千四百九十八町九反餘

(未立木地ニシテ尙稜採收地ニ供シ置カサルヘカラサルモノ)

同

五萬四千七百三十四町壹反餘

(林相ヲ成シ居リテ樹種ハ松、櫟、雜ナリ)

同

二千六百二十二町六反餘

(荒廢ニ歸シ普通ノ造林ニテハ到底成林ノ見込ナキモノ)

同

三千四百五十八町七反餘

(國土保安ニ關係アルモノ)

計

八萬六千二百二十町七反餘歩

二、殖樹獎勵 明治三十五年ヨリ同三十九年ニ至ル間ニ於テ補助金ノ下附ヲ受ケ造林シタルモノ左ノ如シ

年次	植林本數	補助金額
三十五年	一、〇二四、八〇八	一、四三四、六一〇
三十六年	一、〇一〇、三五七	一、五四六、四六一
三十七年	九七五、一六二	一、二九四、七九四
三十八年	一、八九五、七五九	二、一三七、〇六〇
三十九年	七六二、七二六	一、五六五、四二〇

尙獎勵金ノ下附ヲ受ケスシテ造林シタルモノハ次ノ如シ

七四〇、七〇四本

(明治三十五年以降)

三、戰時紀念林 明治三十七年以後ニ於テ設置シタルモノ一市十八町村四大字ニシテ其面積六百六十一町六畝十歩トス

四、保安林 明治三十一年ヨリ實施セラレタル森林法ニ基キ保安林編入ヲナシタルモノ次ノ如シ

普通保安林

八八四ヶ所

一六四六町九反餘歩

禁伐保安林

二八ヶ所

六三、六反餘歩

五、模範林 殖樹獎勵ノ結果近年造林事業稍ヤ興起セルモ尙造林及斫伐ノ方法ヲ實地ニ示スノ必要ヲ認メ明治三十八年度ヨリ同四十年ニ至ル三ヶ年繼續事業トレテ二百町歩ノ縣設模範林ヲ設置スルコト、シ金七千三十二圓九十八錢ノ豫算ヲ置キ已ニ百十八町歩ノ造林ヲ終レリ

六、生産ノ狀況 本縣ノ林産物ハ極メテ少數ノ産額ニシテ供給ハ需用ニ伴ハサルヲ以テ土佐、紀伊、其他九州地方ヨリ多ク之ヲ輸入セリ明治三十八年度ニ於ケル産額ノ概數ヲ示セハ用材トシテ千五百尺、松二十萬尺、杉二百五十尺、ノ輸入ヲ仰クノ狀態ナリトス然レトモ目下大ニ殖樹ノ獎勵ニ努メツ、アルヲ以テ近キ將來ニ於テ縣内産ヲ以テ其需用ヲ充タスニ至ルヘキヤ期待シ得ヘシ

以上ノ外林産物トシテ數フヘキハ竹皮三萬五千束五倍子千六百斤染料ニ供スヘキ樹皮一萬七千斤、松茸四萬五千斤、各種菌類一百五十貫森林雜草七百九十七貫ニシテ其主副産物ノ價額合計約百萬圓ナリトス

### 畜 産

牛ハ古來山田郡庵治村ニ於テ良種ヲ産シ爲メニ庵治牛ノ名ヲ博セリ然レトモ其沿革ニ至リテハ之ヲ知ルニ由ナシ其他各地ニ多少ノ生産アリト雖モ其數多カラス隨テ但馬、因幡、伯耆、備中地方ヨリ輸入スルモノ尠カラス往古ハ牝牛ヲ飼養スルモノ多ク牡牛ハ僅カニ十中ノ三ヲ超ヘサリシカ寛政年間以降製糖業ノ旺盛ヲ極ムルニ從ヒ搾役ノ必要ヨリ牡牛ノ數ヲ増加シ明治初年ノ頃ヨリ糖業ノ漸次頹廢スルニ伴ヒ復タ牝牛ノ數ヲ増加スルニ至レリト云フ然レトモ之ヲ以テ蕃殖ノ用ニ供スル者少ナク只役用ヲ主トシ傍ラ肥料ヲ得ントスルモノナリト云フ

本縣産牛ハ柔順性ニ富ムモ其體軀倭少ニシテ力量ニ乏シク之カ改善増殖ノ必要ヲ認メタルヲ以テ爾來各種ノ施設ヲ爲シ以テ之カ改善發達ヲ企圖セリ即チ明治五、六年ノ頃屢々斯業ニ經驗アル者ヲシテ巡回勸誘ヲ爲サシメ同十三年ノ頃ヨリ雜種牛ヲ輸入シ十七年ニ至リテハ其數八十四頭トナレリ同二十年農商務省ヨリ「改良種牡牛」第二駒場號ヲ借受ケ種用ニ供シ同二十三年ノカ下附ヲ得同一月三十日無代價ヲ以テ之ヲ那珂多度郡ニ下與シ尙從來ノ目的ヲ繼承シテ專ラ種用ニ供用セシメタリ同三十年六月縣令ヲ以テ種牡牛貸與規則ヲ設ケ益々之カ改良蕃殖ヲ計レリ然レトモ使用ニ其適度ヲ誤リ種牛ヲシテ甚ク衰弱セシメタルヲ以テ三十五年度ヨリ之ヲ縣ノ直營ト爲シ香川郡栗林村本縣農事試驗場内ニ畜舎ヲ設ケテ之ヲ飼養シ同所ニ於テ種種スルノ外時々巡回種付ヲ行ヘリ其後縣會ノ決議ニ依リ同三十八年度ヨリ之カ飼養料月額金九圓ヲ付シテ農會又ハ農事試驗場等ニ貸付シ嚴ニ之カ種付管理ノ責ニ當ラシメタリ而シテ當時購入セシ種牛ハ漸次衰弱又ハ斃死セシヲ以テ其後時々之ヲ補欠購入シ三十九年度ヨリハ更ニ之ヲ増加シ一郡一頭ツ、ノ割合ヲ以テ貸付スルコト、ナレリ今縣有種牡牛創設以來ノ種牡牛及之ニ依リテ蕃殖セシ仔牛ノ數ヲ擧クレハ左ノ如シ

種 牡 牛

香川縣

九十九

號名	種類	買入代金	買入年月日	賣却年月日	賣却理由
狹貫	ホルスタイン	四百五十圓	明治三十年五月	明治卅三年五月	衰弱
屋島	ホルスタイン	三百三十五圓	同三十年五月	同三十八年	同
玉藻	短角	二百八十圓	同三十年五月	同三十三年七月	同
紫雲	短角	二百六十五圓	同三十年五月	同三十八年八月	老衰
薄雲	ホルスタイン	三百五十圓	同六月	同三十四年五月	衰弱
旭田	同	二百九十圓	同同	同三十一年五月	疾病
龍田	同	三百圓	同三十年七月	同三十三年五月	斃
第九エキマ ブレース パール ルスタイン	エーアシャイナ ホルスタイン	三百圓 四百五十圓	同三十五年十月 同三十五年十月		斃 死
舞鶴	同	三百五十圓	同三十六年五月	同三十七年一月	斃
桔梗	同	六百圓	同同		
第十一ホキ スプレツス	エーアシャイナ	三百圓	同三十七年十月		斃
第二桔梗	ホルスタイン	四百五十圓	同三十九年四月		
見島	同	五百圓	同同		
壹岐	同	四百五十圓	同同		
高野	同	四百圓	同四十年一月		

縣有種牛蕃殖數(三十八年八月調査ニ依ル)

百

右ノ外民有種牛並ニ此等縣有種牛ニ依リ蕃殖セル仔牛ノ數ヲ舉クレハ次表ノ如シ

種名	種別	使用期間	蕃殖仔牛數
玉藻	號	三年二月	一四四
紫雲	號	八年三月	四三二
屋島	號	八年三月	四三二
狹貫	號	三年二月	四三九
薄雲	號	三年十一月	一六八
龍田	號	十月	一五〇
旭田	號	十一月	八
パール	號	三年十一月	七二
桔梗	號	二年三月	七六
第十一エキス プレツス	幼齡飼育中		

  

年次	内國種	雜種	外國種	合計
二十七年	一、二五六	三〇	一	一、二八七
二十八年	一、七六二	四〇	一	一、八二〇
二十九年	二、一四四	一〇五	二五	二、二七四
三十年	二、三三三	三三二	一	二、六四六
三十一年	二、四四三	四六五	七八	二、九八六

香川縣

百一

三十二年	二、三五六	六六四	六	三、〇二六
三十三年	二、九三六	一、〇三五	一一	三、九八二
三十四年	二、九五七	一、〇三〇	二〇	四、〇〇七
三十五年	二、六九六	一、四一五	二	四、一一三
三十六年	一、〇八五	二、五二九	二一	三、六三五
三十七年	九一一	二、七六七	五四	三、八三二
合計				

馬

馬ハ古來多クハ縣外ノ輸入ニシテ縣内産出ノモノ極メテ稀ナリシカ如シ寛永二十年時ノ高松藩主軍馬蕃殖ノ目的ヲ以テ地ヲ寒川郡小串村崎ニトシ茲ニ牧場ヲ設ケ奥州七戸、八戸、尾花澤等ヨリ種牡馬ヲ輸入シテ之カ蕃殖ヲ試ミ享和元年ヨリ一層之カ改良増殖ニ務メタルモ其産出少クシテ藩用ヲ充スニ至ラス廢藩置縣ノ際ニ至リテ終ニ廢場ニ歸セリ又明治六七年前未タ人力車ヲ使用セサル時ニ在テハ馬背ヲ借ルノ旅客少カラス隨テ馬匹ノ數稍ヤ多カリシモ爾來年ト共ニ其數ヲ減シ十四五年ノ頃競馬ノ流行セシヨリ幾分其數ヲ増加セシモ固ヨリ僅々タルノ數ニ過キサリキ明治卅年善通寺ニ第十一師團ヲ設置セラレシヨリ毎年多少ノ廢馬ヲ生シ之カ拂下ヲ受クル者アルヲ以テ漸次其數ヲ増加シ往々之ヲ農耕ニ供スルモノアルニ至レリ又同卅四年四月二日法律ヲ以テ馬匹去勢法ヲ發布セラレシモ未タ之ヲ施行セラル、ニ至ラザリシカ同卅二年日露開戦ニ際シ大ニ馬匹ノ需用ヲ増加シ殊ニ之カ去勢ノ必要ヲ認メタルヲ以テ政府ハ之ニ獎勵金ヲ給シテ大ニ之カ勸誘ヲ爲セリ然レトモ畜主ノ多クハ未タ去勢ノ必要ヲ認ムルモノ少ナク且ツ一頭ニ對スル獎勵金三圓ニ過キササルヲ以テ畜主ハ萬一廢斃馬ヲランコトヲ慮リ之カ勸誘ニ應スル者少カリシ故カニ卅七年度ヨリ縣費ヲ以テ技術員費器

具等ヲ支辨スルノ外評價格ニ對スル賠償金ヲ給スルコト、ナシ政府ニ於テモ亦同卅八年度ヨリ三十圓以内ノ損失手當ヲ給スルコト、ナシ之カ獎勵ニ努メタルヲ以テ漸次其數ヲ増加シテ卅七八兩年度ニ於テ左ノ如ク去勢スルニ至レリト云フ

郡市名	三十七年	三十八年	合計
大川郡	1	1	2
木田郡	1	25	26
小豆郡	1	1	2
香川郡	3	1	4
綾歌郡	5	1	6
仲多度郡	6	24	30
三豊郡	7	7	14
合計	21	56	77

豚

豚ハ明治四五年ノ頃ヨリ一時稍ヤ蕃殖ノ傾向アリシカ當時未タ之ヲ食用ニ供スルモノ少ナク生豚ノ販路亦多カラサリシヲ以テ飼育者ハ爲メニ甚タシク困難セシガ如シ現ニ同六年九月ノ或夜山田郡西瀨元村ノ内浦生海邊ニ豚三十三頭放棄セシ者アリシヲ以テ名東縣ハ同十月之ヲ管内ニ告知シ其所有者ヲ搜索セシコトアリト云フ其後卅五年ノ頃三豊郡仲多度郡等ニ於テ之ヲ飼育スル者増加セシモ尙未タ其需用少ナク價格隨テ低廉ナリシヲ以テ之ヲ飼育スル者漸次減少セリ而シテ從來飼育セルモノハ其種類善良ナラサリシヲ以テ同卅六年度ヨリ縣會ノ決議ヲ以テ農事試驗場ニ種豚ヲ設置スルコト、

ナリ農商務省七塚原種牛牧場ヨリ種豚パークシヤ種ヲ購入シ専ラ之カ蕃殖普及ヲ企劃セシヲ以テ左表ニ示スカ如ク漸次良種ノ蕃殖ヲ見ルニ至レリト云フ

郡市名	三十七年拂下			三十八年拂下			三十九年拂下			計		
	牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計
大川郡												
木田郡												
小豆郡	三			六			二			一		
香川郡										二		
綾歌郡												
仲多度郡												
三豊郡												
高松市												
丸龜市												
計	四	三	七	六	二	八	五	一	六	一	二	五

家禽

禽家ハ古來農家ノ副業トシテ之カ飼育ヲ爲セルモノニシテ鶏ヲ以テ主トシ家鴨之ニ次キ鶩吐綾鶏ノ如キハ頗ル僅々ノ數ニ過キス其目的ハ卵肉ニアリテ愛玩用ニ供スルモノ極メテ少シ就中鶏ハ往時内國種ノミナリシモ近時外國種又ハ雜種ヲ

増加シ漸次發達進歩ノ見ルヘキモノアルニ至レリ而シテ明治三十三年以來ノ家禽及卵ノ産額ヲ舉クレハ左ノ如シ

年次	鶏	家鴨	其他	計
三十二年	七九、〇〇二	六〇〇	一、二五五	八〇、七五七
三十三年	一〇八、〇六一	一、六四一	一、一四五	一一〇、八四七
三十四年	一二八、四四一	二、〇六八	一、〇七〇	一三一、五七九
三十五年	一四四、一四〇	一、六〇一	?	一四五、七四一
三十六年	一三六、四五〇	三、二三〇	三、二〇四	一四二、八八四
三十七年	一三〇、六〇九	一、五一二	一〇、九六三	一四三、〇八四

尙次ニ鶏卵産出高ヲ示セハ左ノ如シ

三十二年	三、〇五九、三二〇
三十三年	四、三三〇、〇六六
三十四年	四、一七八、二七〇
三十五年	三、九四六、一〇三
三十六年	四、四四七、四五四
三十七年	四、七七四、二六一

工業

本縣ニ於ケル工業品ハ甚タ少ナカラスト雖トモ年産額壹百萬圓ヲ超ユルモノハ僅ニ二三種ニ過キス今主要工業品ニ就キ

香川縣

年産額ヲ示セハ左ノ如シ

工 産 品 (三十八年)

麥稈真田	一六三六、〇〇〇 <sup>円</sup>
醬油	一四六五、〇〇〇
清酒	九六一、〇〇〇
紡績糸	八二三、〇〇〇
砂糖	七八〇、〇〇〇
製粉	六五九、〇〇〇
和紙	三五七、〇〇〇
素麵	二二五、〇〇〇
燐寸	一九一、〇〇〇
煉瓦及瓦	一八六、〇〇〇
團扇	一六八、〇〇〇
油類	一五六、〇〇〇
織物	一五〇、〇〇〇
漆器	一四六、〇〇〇
莞蔴	九三、〇〇〇

以上各品中海外輸出品トシテハ麥稈真田、紡績糸、團扇、莞蔴ノ數品ニシテ又本縣重要品トシテハ此等諸品ニ加フルニ醬油、酒類、砂糖、和紙、素麵、燐寸、漆器等ナリトス而シテ此等諸品ニ就テハ更ニ詳述スル處アルモ今其概要ヲ記述センニ麥稈真田ハ實ニ近數年ノ經營ニ屬スルモ縣ハ農家ノ副業トシテ極力之ヲ奨励シタルト原料ノ豊富ニ加フルニ縣人ノ先天的手工ニ巧ミナルトニ固リ能ク此盛況ヲ呈スルニ至リタルモノニシテ今ヤ其年産額百六十萬圓ニ達シ本縣工産品中ノ首位ヲ占ムルニ至レリ然ルニ近時其價格漸次下落シ平均一反金五十錢ノ價格ヲ有セシモノ三十八年ニハ四十錢、三十九年ニハ三十錢ニ下リ尙恢復ノ曙光ヲモ見ル能ハスシテ官民共ニ之ヲ憂慮シ目下之ヲ救濟セントシ苦辛中ナリト云フ而シテ縣當局者ハ精巧ナル意匠品ノ製造及共同販賣ヲ勸誘奨励シテ比較的利潤ノ多カラシムコトヲ努メ又組合ハ官設検査所ヲ設置シテ粗製濫造ヲ防止センコトヲ請願スル等頻リニ價格ノ維持ニ焦慮セリ尙本縣麥稈真田同業組合カ施設スル事業ノ大要ハ左ノ如シ

(一) 検査監督

營業上ノ弊害即チ粗製濫造ヲ防止スルタメ製品ニ對シ嚴密ナル検査ヲ行ヘリ其方法トシテ

(イ)検査員五十人乃至九十人ヲ縣下各生産地ニ配置シ豫メ分担セル區域内ノ製品ニ就テ組合所定ノ検査法ニ據リ每反ノ検査ヲ勵行セリ

(ロ)前記検査員ハ斯業ニ經驗アリ且ツ相當ノ學力アルモノ若クハ同組合ニ於テ養成シタル者ヲ採用セリ

(ハ)組合本部ニ検査長一名ヲ置キ生産地ヲ巡閱シテ検査ノ普及及ヒ勵行ヲ圖ルト共ニ地方検査員ノ監督ヲ爲ス

(二) 奨励並刷新ノ施設

(イ)原料麥稈ノ改良 本項ニ付テハ麥作付方法、種子交換青刈奨励、漂白法等ニ就キ巡回教師、検査員、役員等ハ各郡市町村ノ吏員ト相提携シテ之カ奨励ヲ爲セリ其方法トシテ實地ニ就キ或ハ一定ノ場所ト時期トニ農民ヲ集合シ講



話會ヲ開設シタルコト數十回ニ及ヘリト云フ

(ロ)品評會及競技會 技術ノ進步發達ヲ促サンカ爲メ毎年各郡市町村ニ於テ本組合主宰ノ下ニ製品々評會又ハ組方競技會ヲ開設セリ

(ハ)傳習所設置 累年縣下到ル所ニ技術傳習所ヲ開設シ生徒ヲ募集シ以テ技術上ノ實地指導ヲナシ之カ普及ヲ圖レリ近來又斯業界ノ趨勢ニ鑒ミ意匠組ノ練習ヲ勵メツ、アリト云フ

(ニ)市場及共同販賣 縣下生産地ニ向テ奸商ノ暴利蠶蝨ト製造業者ノ濫賣トヲ防止スルノ主旨ニ基キ市場又ハ共同販賣所ノ設置ヲ勸誘シ其數百箇以上ニ及ヘリ

(ホ)原料染色法 ノ研究トシテ東京高等工業學校ニ研究生ヲ派シ或ハ縣下染色學校ニ練習生ヲ遣ハシ以テ其研究ニ勵メツ、アルモ未タ充分ナル目的ヲ遂行セスト云フ

(ヘ)製品ノ見本寄贈若クハ出品 本縣製品ノ聲價ヲ發揚シ併テ販路ノ擴張ヲ圖ルノ目的ヲ以テ海外及各府縣ノ博覽會共進會、物産陳列所等ニ出品シ又ハ市場商店等ニ見本ヲ寄贈シ之カ批評ヲ求メツ、アリ

(ト)神戸及海外需用地ニ於ケル商況ノ如何ヲ知ルハ斯業ノ消長ニ至大ノ關係アルヲ以テ種々手段ヲ講シ敏活ニ之ヲ探查シ其都度縣下同業者ニ周知セシムト云フ

(チ)業務視察員ノ派遣 他府縣ニ於ケル斯業ノ狀況ヲ視察シ以テ本縣斯業ノ改良ニ資セントシ時々役員ヲ出張セシムト云フ

(リ)本縣組合ハ縣下斯業ノ發達機關トシテ大ニ努力シツ、アルノミナラス一而廣島、愛知、徳島、石川、大分等數縣ノ要請ニ應ジ教師ヲ派遣シ原料並ニ眞田練習用諸器具ヲ購入シ斯業ノ普及上ニ向テ及フ丈ケノ便宜ヲ計リツ、アリト云フ

醬油ハ縣下各郡市ニ於テ生産セラル而シテ大川郡引田村ハ古來引田醬油ト稱シテ著名ナルモ其産額ニ至テハ僅ニ三千石ニ充タスト雖トモ其名アル所以ハ其製法一番粹ニシテ火入ヲ爲サス且ツ藥品其他ノ混和物ヲ含有セサルト其取引ハ總テ現金ニシテ毫モ貸付ヲ爲サ、ル商慣習アルヲ以テナリ醸造ノ最モ盛ナルハ小豆郡ニシテ同郡ハ元小豆島ト稱セシヲ以テ今尙島醬油ノ名アリ且ツ其産額モ殆ント十萬石ニ達セリ明治三十四年小豆島醬油製造同業組合成リ専ラ粗製濫造ノ防遏ヲ圖リ又同三十八年ヨリ組合事業トシテ醬油醸造試驗場ヲ設置シ技師トシテ工學士ヲ聘シテ學理的應用試驗中ニ屬セリ而シテ縣ハ其試驗事業ニ對シ壹萬壹千圓(五ヶ年繼續)ノ補助費ヲ交付シテ之カ完成ヲ圖レリ

清酒ハ縣下到ル所ニ製造セラレ悉ク縣内ノ需用ニ供スルモノナルモ未タ需用ニ充タス能ハス讃岐清酒試驗所ハ明治三十五年三豊郡酒造組合ノ唱導ニ因リ設置セラレ縣又年々壹千五百圓ノ補助ヲ與ヘ之カ品質改良ヲ促セリ而シテ其成績ハ佳

良ニシテ四國酒類聯合品評會ニ於テ出品者ニ對シ七割強ノ受賞ヲ得ルニ至レリ

紡績糸ハ久シク悲境ニ沈淪シタリシカ明治三十九年末ヨリ好景氣ヲ以テ製造スルニ至レリト云フ

砂糖ハ生産費比較的多額ヲ要スルト外國糖ノ壓迫ニ依リ頻年其生産ヲ減スルニ至リタルモ當業者ハ之カ挽回ヲ圖ラントシ大川及三豊ノ兩糖業同業組合(二十八年)ヲ設立シ製糖機械又ハ分離器ヲ購入シ或ハ石炭其他ノ共同購入等ヲ爲シ専ラ

生産費ノ減少ヲ計レリ縣モ亦之カ獎勵ノ爲メ年々補助金(四十年年度ハ兩組合ニ對千四百圓)ヲ交付セリ

和紙ハ高松市及接續村ニ多ク産出セラル、モ悉ク糞紙ニシテ大阪、廣島、九州地方ニ輸出セラル其多クハ諸種ノ袋用トシテ使用セラル

素麵ハ主トシテ小豆郡ノ西部各村ニ於テ生産セラレ是亦大阪、廣島、九州各縣ニ搬出セラル又近來滿韓地方へ少數ナル

輸出ヲ見ルニ至レリト云フ而シテ近年香川、木田ノ兩郡ニ於テハ稍ヤ多額ノ産出ヲ見ルニ至リタルハ欣フヘキ現象ナリ

ト云フハ

燐寸ハ高松市ニ於テ下津製燐所開通製燐合資會社ニ於テ製造セラレ主シテ内地ニ於テ需用セラレ  
團扇ハ丸龜市ヲ主産地トス多クハ琴平善通寺ノ資客ノ土産物トシテ販賣サレシモ十數年來ヨリ外國ニ於テ廣告用トシテ  
使用サル、ニ至リ大ニ其販路ヲ擴張スルニ至レリ

織物中羽二重ハ高松羽二重株式會社ニ於テ製織セラレ明治三十二年ニ在リテハ其産額約五萬圓ナリシモ其後次第ニ不振  
ノ狀況ヲ呈シ同三十八年ニ至テハ其産額僅ニ一万五千圓ニ減少スルニ至リ益々收支償ハス到底維持ノ見込ナシト信ス其  
他白木綿ハ農家ノ副業トシテ三豊郡ノ各村ヲ主トシ其他各郡ニ於テ製織セラレ其多數ハ縣内ノ需用ニ應シ少數ハ韓國ニ  
輸出セラル保多織ハ高松著名ノ物産ナリシモ比較的高價ノ爲メ販路次第ニ縮少シ其生産見ルベキモノナシ  
漆器ハ所謂讃岐塗又ハ讃岐彫ト稱シ存生又ハ蒔繪等ノ技法ニ依リ網代(竹ヲ編ミタルモノ)ヲ材料トシ之ヲ塗立テ又ハ彫  
刻ヲ加ヘタルモノニシテ高松市ヲ主産地トス然レトモ其比較的高價ナルト且ツ粗製濫造品多キヲ以テ明治三十一年同業  
組合ヲ組織シ専ラ粗製濫造ヲ防遏センコトニ努メ又技法ヲ研究シ廉價ニ製造シ得ルノ方法ヲ研究中ナリ  
花筵ハ丸龜市ハ其主産地ナルモ大川郡ニ於テモ亦少數ノ産出ヲ爲セリ何レモ海外輸出ニ適シ數年前ハ盛況ヲ呈シタリシ  
モ日露戰役後ハ原料タル蘭草ノ騰貴ト模造品及ヒ粗製品ノ多數輸出セラル、爲メ大ニ影響ヲ受ケ其産額ヲ減スルニ至リ  
目下僅ニ製造ヲ持續シ居ルニ過キスト云フ

製粉ハ近年ヨリノ創始ニ屬シ興廢常ナラス未タ俄ニト知スベカラサルモノ、如シ  
要スルニ本縣工業ハ未タ充分發達ノ域ニ達セサルヲ以テ益々獎勵保護ヲ與ヘテ之カ啓發ヲ促進スルハ方ニ努ムヘキノ最  
急務ナリトス於此カ縣ハ左ニ舉クルカ如キ職工獎勵規定ヲ設定シ職工ノ模範トナルヘキ精勤者ニ對シ毎年一回章標ヲ授  
與セリ其結果良好ニシテ各種製造家ノ歡迎スル所ナリ明治三十六年ヨリ四十年マテノ間五回ニシテ其人員四百四十一名  
ノ多キニ達シ章標受領者ニハ各會社商店ヨリ諸種ノ物品ヲ寄贈シテ同情ヲ表シ社會ハ大ニ其効ヲ認ムルニ至レリト云フ

職工獎勵規程

第一條 本規定ハ麥稈其田業、製紙業、漆器業、傘業、團扇業、竹細工業、水産製造業、織物業、燐寸業、花筵業、紡  
績業、製糸業ニ従事スル男女ノ職工ニ適用ス

第二條 前條職工中滿五年以上職業ニ精勵シ品行方正ニシテ他ノ模範トナルヘキモノニ限リ詳查ノ上一等ヨリ三等迄ノ  
章標ヲ下附ス

第三條 精勤ノ爲メ章標ヲ受ケタル後不都合ノ行爲アリタルトキハ該章標ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第四條 章標下附ヲ受ケタル職工ハ其標章ヲ適宜ノ箇所ニ佩用シ又ハ衣服或ハ帽子ニ其模形ヲ貼付シ若クハ之ヲ染込ミ  
常用スルモ妨ケナシ

但シ明治三十八年内務省訓令第六百三十六號勅章、記章佩用禁止心得第三號第二項ニ明示セシ星章ヲ帶フベキ助部  
ニ佩用スベカラス

第五條 各雇主ハ職工中ノ精勤者ヲ左記事項ニ依リ調査シ毎年十一月中ニ所轄郡市長ヲ經由シテ知事ニ具申スヘシ  
所轄郡市長ハ具申ノ事實ニ相違ナキヤ否ヤヲ調査シ知事ニ具申スヘシ

第六條 市町村長ハ所轄内職工(工場ニ通勤セサルモノ)ニシテ第二條ニ該當セシモノハ左記事項ニ依リ調査シ毎年十一月中ニ知事ニ  
上申スヘシ

調査事項

- 一、住所氏名年齢
- 一、平素ノ品行
- 一、成業従事中精勤ノ實況

一、從事中他職工ニ對スル行動

一、自何年間繼續精勤

一、一日平均從事時間外ノ精勤時間 (第六條ノ職工ニハ用ヒス)

一、製品ノ成績

一、一ケ年中出勤日數 (第六條ノ職工ニハ用ヒス)

職工章標佩用心得書

一、章標下付ヲ受ケタル職工ハ其章標ヲ明治二十八年八月訓令勸章徽章類似章標佩用禁止心得第二項第三號ニ依リ星章ヲ佩フヘキ肋部ニ佩用スヘカラス

二、前項以外ニ於テ適宜ノ箇所ニ佩用シ又ハ衣服或ハ帽子ニ其模様ヲ貼付シ若クハ之ニ染込ミ常用スルモ妨ケナシ

三、章標ヲ受ケタル後不都合ノ行爲ヲタルトキハ該章標ヲ返納セシムルコトアルヘシ

重要工產品

麥稈 眞田

一、産 年	次	數	量	價	額
明治	三十四年		一、三八七、二〇〇 <sub>及</sub>		五二七、一三六 <sub>四</sub>
同	三十五年		一、三四八、五二四		六七四、二六二

同	三十六年		一、四七四、七六〇		九四三、九四七
同	三十七年		二、六七五、六一八		一、五二二、六七一
同	三十八年		三、九九六、五八七		一、六三六、五六八

備考

本縣ノ眞田ハ元來外國向ヲ目的トシテ製造スルモノナルモ少數ノ下等品ハ内地ニ於テ使用セラル其數量詳カナラス

二、種 類

麥稈眞田 (丸物、割物、平物)ヲ最トシテ經木眞田、麥稈經木混成眞田ノ二種ヲ産ス

三、主要産地

縣下ノ各地ニ於テ之ヲ産セサルナシ

四、事業ノ沿革

明治十五年大阪ノ人原田某ナル者本縣小豆郡草壁村ニ來リ麥稈ヲ購入ス土人之ヲ眞田トナシ海外ニ輸出セラル、ヲ聞キ同村ニ於テ麥稈眞田ノ試製ヲナスモノアリ是レ本縣麥稈眞田製造ノ濫觴トス  
爾來本縣産麥稈ハ他地方産ノ上ニアリ爲メニ購客絡繹セリト雖モ多クハ麥稈ノマ、販賣シ眞田ニ製シテ賣却スルモノ甚タ少ナカリシカ明治三十一年ノ頃ヨリ製成販賣ニ意ヲ注クニ至リ縣下ニ二百餘戸ノ製造者ヲ見ルニ至レリ越ヘテ三十二年麥稈眞田ノ商況盛ナルニ及ヒ農家ノ副業トシテ之ヲ製スルモノ著シク増加シ前年ノ約七倍ノ多數ヲ算フルニ至レリ爾後益々進歩シテ今日ノ盛ヲナス

五、製造戸數及職工數

最近ノ調査ニ依リハ左ノ如シ

製造戸數 一九、一六五  
職工數 八一、四六八

六、製産狀況

本品ノ製造ハ主トシテ農家ノ副業ニ係リ市街地ニ在テハ賃組及工女ヲ雇傭シテ之ヲ爲スモノアリ概シテ中流以下ノ婦女子ノ手ニ依テ製セラレ、モ近時小學校生徒軍人官吏ノ家族及素封家ノ妻女ニシテ之ニ從事スルモノアルニ至レリ

本縣ノ地質ハ花崗岩壤土ヨリ成リ地勢亦南ヨリ北ニ傾斜スルヲ以テ最モ乾燥シ易ケレハ頗ル麥作ニ適シ其製程亦自然ノ光澤ヲ有ス此ノ故ニ市場ニ好評ヲ博シ需要益々増進ノ傾向アリ殊ニ明治三十二年同業組合組織セラレシ以來製造販賣者ハ交互粗製濫造ノ弊ヲ戒メ内外ノ信用ヲ確保スルニ努ムルヲ以テ本品ノ前途猶甚有望ナリト云フヲ得ヘシ

七、原料ノ需用供給

原料麥稈ハ小鬮傾(裸麥ノ一種)ヲ用ヒ縣下到ル所ニ之ヲ産ス市街地ニ於ケル製造者ハ概ネ農家ヨリ直接若クハ取次業者ノ手ヲ經テ購入ス縣下ノ原料麥稈ハ縣内ノ需要ヲ充タシテ尙多クノ過剩アリ年々岡山廣島地方ニ販出ス  
經木真田ノ原料ハ悉ク關東並ニ中國地方ヨリ之ヲ輸入ス

八、製産費及收益ノ比較

名 稱	幅 員	時價(一反)	製 産 費			收 益
			原料代	製造費	合計	
九 四 菱	十三ミリメートル 十五同	二十五錢	十一錢	十二錢	二十三錢	二錢

豆 七	十四同	三十二錢	八錢	二十錢	二十八錢	四錢
單 四 菱	十二同	二十錢	五錢	十三錢	十八錢	二錢
依 打	二十四同 二十六同	四十錢	十錢	二十五錢	三十五錢	五錢

備考

前表ハ普通品ニ就キ計算シタルモノヲ掲ケタリ一見收益ノ寡少ヲ驚カサルヲ得スト雖モ元來本業ハ農家ノ副業ナルヲ以テ製産費ノ如キモ殆ント勞銀ニ屬スルヲ以テ實收ハ此ノ如キモノニアラス殊ニ近來ハ比較的  
高價ナル意匠注成品ヲ製造スルヲ以テ一層ノ收利アリ

九、販出額及仕向地

本品ハ其産額全部ヲ擧ケテ海外ニ輸出セラル、モノニシテ主トシテ神戸港ヲ經由シ横濱ヲ經ルモノ亦多少アリ而シテ此等ハ主トシテ英國、米國獨逸等ニ輸出セラレ瑞西、英領加奈陀、佛國、濠洲、香港、伊國、埃國、支那、比律賓、丁抹、白耳義ノ諸國ニモ輸出ス

十、販賣手續及取引慣習

本品ハ俗ニ「トンビ」ト稱スル仲買業者アリテ常ニ各産地ヲ巡回シ製造家ニ付キ製品ヲ購入シ以テ買次商即チ問屋ニ販賣ス其他一村一部落團結シテ共同販賣所ヲ設ケ各注成品ヲ引受ケ組合員ニ製造セシメ一定ノ時日場所ニ於テ嚴重ナル検査ヲ受ケタル上信用アル問屋ヲ招キ指名若クハ競争購買ニ付ス又時トシテ問屋ハ直接店員ヲ派シ製造家ニ付キ特約製造ヲナサシムルコトアリ而シテ何レモ取引ノ状態ハ現金ナリトス

因ニ記ス現今縣下ノ共同販賣所數ハ百八十八ナリ

十一、相 場

三十八年ニ於ケル平均相場ヲ示セハ左ノ如シ

一反ニ付

四拾壹錢弱

十二、輸出状況

本縣真田ハ逐年輸出額ヲ増シ販路モ益擴張シツ、アリ然シテ價格ハ急劇ノ變動ナキモ近年稍沈靜ノ傾キアリ元來本業ハ農家ノ副業ニシテ原料豊饒ナルト製産費皆勞銀ナルトヲ以テ製造家ハ純益ノ多少ヲ論セス盛ニ製造スルニ至ル唯遺憾ナルハ斯業取扱者(賣込商人)大資本ヲ投スルノ商人少ナク一朝商館船便ノ都合ニテ一時買入ヲ中止スルカ如キ場合ニ遭遇スレハ直ニ一般市場ニ競賣シ以テ價格ノ低落ヲ招キ悲境ニ陥ルノ有様ニシテ一面ニ在テハ産出ノ不規則ナルタメ普通品ノ如キモノヲ自由ニ製作外國ニ於ケル嗜好ノ變遷等ニ至テハ殆ント之ヲ顧ミルモノナク販賣上不便尠ナカラス當時外國市況ハ一般平穩ニシテ活氣ヲ呈セサルモ當業者ニシテ是等ノ諸點ニ留意シ益々改善ヲ怠ラサレハ將來愈々發達スルニ至ルヘキヤ明カナリ

十三、輸出先ニ於ケル嗜好並ニ其變遷

海外需用地ニ於ケル嗜好ハ年々歲々其趣ヲ異ニシ到底之ヲ列舉スルヲ得ス即チ亞米利加ハ兩三年前ハ全然男女帽子ハ麥稈真田ニ限ラレシモ現今ニ至リテハ婦人用ハ輕クシテ且廉價ナル經木真田ヲ用フルニ至リ麥稈真田ハ多ク男子用トナレリ而シテ品種ハ總テ幅員細クシテ輕キ(五ミリヨリ八ミリ位ノ片丸四菱合丸五平半四菱合五角細丸四菱)ヲ好ム英國其他ノ諸國ニテハ猶依然トシテ麥稈真田(大七角、五角、丸四菱、引掛四平合平物ノ類)ヲ使用ス意匠ニ至ツテハ各國一般ニ最新ナルヲ愛好シ居レリ要スルニ近來麥稈真田ハ一般ニ割リ物ヲ嗜好セラル、カ如シ

十四、輸出先ニ於ケル用途並ニ需用程度及需用者ノ階級

麥稈經木真田ハ歐米各國ニ於テ男女帽子ニ製シ其内一小部分即チ帽子用トシテ剩餘物若クハ劣等品ハ玩弄物ノ裝飾

トシ或ハ籃等ニ製セラル之ヲ以テ如何ニ供給多額ナルモ元來輕便廉價ヲ以テ名アル日本真田ハ將來需用益々多キヲ加フルニ至ラン而シテ普通品ハ中流以下意匠品ハ中流以上ノ婦人帽トシテ使用セラル

十五、荷造法、其費用並ニ運賃諸費及保險料

神戸港ニ出荷スルニハ數量「メートル」ノ差異ニ因テ其容積一定セスト雖モ大體一把括リ(一尺四寸立方)四把ヲ以テ一個トシ新聞紙様ノ紙ヲ卷キ其上ヨリ蓋ヲ以テ包ミ大細ニテ縱横ニ緊縛ス費用ハ人夫手數料共一個ニ付金二十三圓錢ナリ運賃ハ約二十五錢乃至二十八錢ナリ未タ保險ニ付シタルコトヲ聞カス

十六、販出先ニ於ケル代用品及競等品

夙ニ伊太利、瑞西等ニ於テ最モ精巧ナル「タスカン」及「バナマ」等アリ又支那ニ於テモ頗ル廉價ナル麥稈真田ヲ多量ニ産ス

十七、長所欠點並ニ改良スヘキ要點

概シテ色澤佳良ニシテ且ツ輕量ノ特長アレトモ比較的脆弱ノ嫌ナシトセス經木真田ニ於ケルト等シク漂白、並ニ染色ノ點ニ就キ多少ノ欠點アルヲ認ム然レトモ伊、瑞産等ニ比シ價格低廉ナリ

十八、重ナル取扱商店

- (イ)本縣ニ於ケルモノ
  - 佐藤商店
  - 信久組
  - 三宅組
  - 榮信組
- 讃岐麥稈株式會社
- 野澤組
- 横山商店
- 丸龜麥稈株式會社

(ロ)神戸ニ於ケルモノ

香川縣

- 三六商會
- 原田商會
- 信久組
- 榮信組
- 朝日商會
- 三宅組
- 二十二番タスカ商會
- 七十四番ギール商會
- 三十一番ヘツカ商會
- 九十一番エムラスベ商會
- 九十六番ストラス商會
- 九十九番亞米利加貿易商會
- 百七番ジャデンマセンツン商會
- 五十五番野澤組

紡績絲

一、產額	三十八年	三十七年	三十六年	三十五年	三十四年
	數 量	七、三四六 <sup>M</sup>	五、六〇四 <sup>M</sup>	六、五五八 <sup>M</sup>	六、三四四 <sup>M</sup>
價 額	八二三、一九〇 <sup>M</sup>	六〇九、八三三 <sup>M</sup>	六一九、〇四六 <sup>M</sup>	五八六、〇三二 <sup>M</sup>	五九五、七八〇 <sup>M</sup>

二、種類別

概ネ十六手ニシテ他番手ハ甚僅少トス

三、主要産地

綾歌郡坂出町

四、事業ノ沿革 (讃岐紡績株式會社)

本社ハ明治二十九年五月ノ設立ニシテ同三十年十一月營業ヲ開始セリ然ルニ悲運打續キ困難ニ遭遇セシカ三十二年

下半年ニ於テ少許ノ配當ヲ見シモ三十七年ニ至ル迄每期殆ント損勘定ヲ報告スルノ止ムナカリシカ三十八年上半期以來綿糸界ノ好運ニ向ヒ每期抄カラサル利益ヲ得ツ、今日ニ至レリ故ニ既往ノ損失ヲ填補スルノミナラス每期ノ配當率ヲモ累加シ且一面ニハ巨額ノ積立金ヲ爲ヌヲ得タレハ會社ノ基礎益々堅確ナルニ至レリ

五、製造戸數及工數

製造場ハ綿糸紡績機械一萬七百餘錠ヲ容ル、煉瓦工場數棟ニシテ其原動力ハ三百五十馬力アル蒸汽機關ニシテ職工ハ男百十名女四百六十名ナリ

六、製産狀況

前ニ述フルカ如ク一時悲境ニ遭遇シタリト雖モ三十二年以來累年産額ヲ増加ノ好運ニ向ヒツ、アルノ現況ナレハ將來ニ於テ斯業ハ漸次繁盛ヲ見ルヘキモノト信ス

七、原料ノ需要供給

原料ハ専ラ印度支那兩國産ノ綿花ヲ用ヒ又少許ノ米國産棉花ヲモ用ユト云フ

八、販出額及仕向地

昨三十八年度中ノ販出額ハ七千三百四十捆ニシテ其中約七割ハ海外輸出三割ヲ内地向トス但輸出品ハ多ク神戸港ヲ經テ清國上海及北清一帶ノ地ニ輸出ス

九、販賣手續及取引習慣

販賣ハ多ク先物約定ニシテ稀ニ現物取引ヲモ爲セリ其先物賣買ノ如キ數十萬圓ノ取引ト雖モ單ニ當事者双方ノ互ニ賣買ノ案内書ヲ取換スノミニシテ一切證據金等ヲ徴セズ然レトモ一旦取引ヲ爲シタル以上ハ其引渡期日ニ至リ如何

ニ糸價ノ變動アルモ極メテ圓滿ニ取引ヲ行フモノナリト云フ

十、相場

目下讃岐紡績會社製造ノ綿糸十六手一梱百二十四圓ナリト云フ

十一、輸出先狀況

本社ノ製品ハ其大部ヲ海外ニ輸出シ殘部ヲ内地ノ需用ニ充ツルト雖モ其縣内ノ需要ハ最モ少額ナリト云フ

十二、輸出先ニ於ケル嗜好並其變遷

本社製系中十六手ハ清國各地ニ於テ又十四、十二等ノ太番手ハ多ク内地ニ於テ需要サル、モノナリ

十三、輸出先ニ於ケル用途并需要程度

本品ノ清國輸出先ニ於ケル用途ハ専ラ織布ノ原料ニ供セラル而シテ多ク中流以下ノ階級ニ需要セラルルヲ以テ其需用ノ程度ハ極メテ豊富ナリト云フ

十四、荷造法其費用並ニ運賃及保險料

荷造ハ大小水壓機ニ據ル而シテ大ナルモノハ(綿糸四十五入)ゴロスニテ包裝シ其荷造費約一圓ナリ又小ナルモノハ(同二十五入)莖ニテ包裝シ其荷造費約十五錢ヲ要ス大俵ノ大坂及神戸迄ノ運送ハ悉ク無保險ナルモ不可抗力以外ノ損害ヲ生シタル場合ハ總テ運送業者ノ責任トシ大坂又ハ神戸ヨリ更ニ海外其他ニ仕向クルモノハ全部同地方ニ於ケル内外商人ノ手ニ據リ轉賣サル、ヲ以テ是ヨリ先ノ運賃等ハ是ヲ詳カニセス

十五、販出先ニ於ケル代用品及競爭品

内地ニ於テハ同業會社製品アリト雖モサシタル競争ヲ見ス只清國ニ於テハ孟買糸ノ一大競争アルモ其品質ニ於テ本

邦製造ニ優ルアルヲ以テ却テ彼ヲ壓倒スルノ傾向ナリ

十六、長所缺點並改良スヘキ要點

本品ハ長所トシテ舉クルモノ無キト俱ニ缺點トシテ指摘スルモノナシ

十七、重ナル取扱店

大阪ニ於テハ三井物産、内外棉會社、半田綿行、日本棉花株式會社等ヲ主トシ神戸ニアリテハ商館多ク是等ノ取引ヲナスト云フ

燐寸

一、産額	年次	三十八年	三十七年	三十六年	三十五年	三十四年
數	量	二七、八六八	一八、九六九	一一、九四二	一四、一六二	一六、六四七
價	額	二四八、五六九	二二七、五三九	一四〇、五七一	一二三、五六六	一三三、四九二

二、種類別

中函細軸 深函太軸 小函太軸 ポケット入

三、主要産地

高松市 下津製燐所 同 圓通製燐合資會社

四、事業ノ沿革

本業ハ明治十三年五月舊藩松平家ノ士族授産ノ爲メ蜂蟻社ナル一社ヲ設立シ燐寸製造事業ヲ創始セシヲ斯業ノ濫觴

トス明治十九年一月ヨリ蜂蟻社ヲ廢止シ下津製燐所ト改メ製造ヲ繼續シ今日ニ及ヘリ此間明治三十年ニ於テ圓通製燐合資會社起リ俱ニ今日ニ及フト云フ

五、製造戸數及職工數

小函木地製造所	二ヶ所
燐寸同	一箇
通勤職工	三五八人
自宅職工	六〇〇 <small>同</small>

六、製産ノ狀況

三十七、八年ハ日露戰爭ノ爲メ製造業者何レモ逆境ニ沈淪シ從ツテ製産額減少スルニ至リシモ昨三十九年度ハ戰後發展ノ計畫成効シ清韓兩國ニ向ケ輸出スル額益々多キニ至レリト云フ

七、原料ノ需要供給

本業ニ要スル原料ハ凡テ之ヲ縣外ニ仰キ而シテ其供給地ハ英、米、獨ノ三國及ヒ大阪、神戸ナリトス

八、製産費及收益ノ比較

原料費	九、九五〇	中函細軸	一四、〇一〇
工賃	一、八五〇		二、六〇〇
雜費	一、〇二五		一、四四〇
收益	六七五		九五〇

賣

九、仕向地

大阪、神戸、四國、中國、九州ノ各地

價

一三、五〇〇

一九、〇〇〇

十、販賣手續及取引習慣

前金又ハ荷爲替付或ハ延取引等ニヨリ販賣シ荷爲換付ハ百圓ニ付キ日歩二錢五厘乃至三錢迄ニテ契約ヲ爲スト云フ

十一、相場

一噸七百二十包

一等品細軸	一九、〇〇〇
同太軸	一七、五〇〇
中函太軸	一三、五〇〇
同細軸	一七、五〇〇
深函太軸	一九、五〇〇

十二、輸出狀況

前項ニ於テ述ヘタルカ如ク日露戰役中ハ一時商況不振ノ狀態ナリシモ今日ニ於テハ寧ロ舊ニ倍スル好況ナリト謂フヲ得ヘシ

十三、輸出先ニ於ケル嗜好並其變遷

明治三十一年ノ頃迄ハ太軸物最モ賣行好況ナリシモ價格ニ於テ細軸割安ノ爲メ經濟上ノ關係ヨリシテ漸次細軸物ヲ歡迎ナル傾向アリト云フ



十四、荷造法其費用並運賃及保險料

荒木函ニ入レ(百二十包)一相トシ之ヲ條金又ハ繩ニテ緊縛シ其保險料運賃ヲ合シ高松ヨリ神戸迄五十錢ナリトス  
十五、長所缺點及改良スヘキ要點

本縣ニ於ケル燐寸ハ工賃低廉ナルタメ從テ其價格低キヲ以テ長所トス而シテ其缺點ト目スヘキモノナシト雖モ往々  
競争ノ結果粗製濫造ノ弊アルハ改良スヘキ要點トス

團扇及團扇骨

一、產額	年次	三十八年	三十七年	三十六年	三十五年	三十四年
數	量	二八、九三三、〇〇〇 <sup>本</sup>	三三、二五四、一〇〇 <sup>明</sup>	五一、〇五七、〇三〇 <sup>明</sup>	四九、一九九、〇五〇 <sup>明</sup>	四九、一八五、一五八 <sup>明</sup>
	價額	一六八、五八五 <sup>明</sup>	一五四、八四〇 <sup>明</sup>	二五一、五四〇 <sup>明</sup>	二三八、四〇五 <sup>明</sup>	二四二、九四一 <sup>明</sup>

二、主要產地

丸龜市

三、種類別

團扇

團扇骨

四、事業ノ沿革

本縣丸龜ニ於ケル團扇製造ハ數百年來琴平參宮土産ノ一タル濫團扇ナリシカ其製造一ケ年十萬本ニ過キス然ルニ維  
新後阪田彌平、組橋馬次郎、富羽友吉ノ三名之レカ改良ヲ企テ明治七八年ノ交大阪ノ商人三橋芳兵衛ナル者ニ謀リ

初メテ外國ニ輸出ヲ試ミ三十萬本ノ注文ヲ得タルモ職工ノ不足ト技術ノ幼稚ナル爲メ一ケ年ヲ要シ漸ク其數ヲ製造  
シ得タル狀況ニシテ爾後注文増加スルモ俄ニ之ニ應スル能ハス止ムヲ得ズ張下ハ丸龜ニ於テ之ヲ爲シ引上ハ大阪ニ  
於テスルノ契約ヲ結ヒ其年ノ張下製造高ハ實ニ百萬本ノ多キニ達シ尙ホ逐年増加シテ十八九年ニハ五百萬本ニ至ル  
此間平柄團扇(世上奈良團扇ト云フ)ノ清國輸出ニ適スルヲ探知シ其製造ヲ始メシモ其技ニ拙ク幾多ノ失敗ヲ重ネ數年ノ後漸ク  
目的ヲ達シ是又逐年輸出ノ額ヲ増シ前途嚮望ノ事業トシテ目サレツ、アリシニ忽チ粗製濫造ヲ始メシカハ顧客ノ信  
用忽ニシテ去リ製造者ノ困難云フヘカラサルニ至ル時ニ富羽政吉、松尾藤吉ナル者アリテ地方事業ノ盛衰ハ多數細  
民ノ休戚ニ關スルヲ以テ是ヲ傍觀スルニ忍ヒス自ラ奮テ救濟ニ任シ日夜東奔西馳シテ同業組合ヲ設立シ又検査所ヲ  
置キテ其検査ヲ勵行シ頗ル良好ノ成績ヲ舉クルニ至リシモ未タ各自自由ニ販賣スルヲ以テ勢ヒ薄資ノ製造者ハ自カ  
競賣ヲ免カル、能ハスシテ前記ノ困難ヲ再演スルニ至リシヨリ富羽、松尾ノ兩名ハ再ヒ地方ノ資産家黒瀬與十郎外  
十一名ニ謀リ諸氏ノ贊助ヲ得テ同業保護獎勵ノ目的ヲ以テ明治二十七年七月丸龜團扇合資會社ヲ設立シ之レカ金融  
及販路ノ便ヲ與ヘタルニ依リ同業者モ大ニ之ヲ便トシ今ヤ五六千人ニ亘ル繁雜而カモ薄利ノ事業ヲシテ順序整然能  
ク其目的ヲ達シ著シク改良進步ノ實蹟ヲ顯ハシ其價格モ舊ニ比シ五六割ヲ増シ産額亦十萬圓以上ニ達シ本縣重要物  
産ノ一ニ數フルニ至リシナリ

五、製造戶數及職工數

戶數	七三〇 <sup>戶</sup>
職工數	一六五〇 <sup>人</sup>

六、製産狀況

別ニ機械ヲ要セス凡テ手工ニ關シ職工ハ各自宅ニテ是等ニ從事スルモノニシテ今年々千四萬本價額二十四萬圓ニ

達シ頗ル盛況ヲ呈シツ、アリ

七、原料ノ需要供給

原料竹材ハ静岡縣沼津及伊豆地方ヨリ之ヲ輸入シ是等ハ貿易向ニ使用セラレ又豊後、日向ヨリ來ルモノハ内地向ニ使用ス而シテ張用紙ハ貿易品ハ概ネ洋紙ヲ用ヒ内地向ハ伊豫及ヒ讃岐産紙ヲ使用スト云フ

八、販賣手續及取引習慣

内地向ハ多ク二三月ノ取引ヲ開始シ七八月ノ交精算ヲ爲スノ慣習ニシテ貿易向ハ其需要季節ニ關セスシテ神戸在留ノ外商ニ賣込ミ現品ノ入庫ト同時ニ代金ヲ授受スルノ慣習ナリト云フ

九、輸出先ニ於ケル用途

内地向ト貿易向トヲ問ハス多ク商店ノ商號又ハ商品名等ヲ印刷シ廣告用ニ供セラル、モノトス

十、荷造法

内地向ノ團扇ハ多ク目籠ニシテ此費用一個十六錢ニ繩及荷造工賃等ニテ四錢ヲ要ス

貿易向ハ凡テ函入ニシテ函代五百本入一個平均五十錢附帶費十錢ヲ要ス

運賃ハ内地ニアリテハ其遠近ニヨリ一定セサルモ貿易品ノ神戸ヨリ桑港迄ノ運賃ヲ示セハ左ノ如シ

運賃 一函 一圓内外

保險料 ク 元價百分ノ五

十一、重ナル取扱店

東京市	榎原商店	金藏堂	小山商店	幸山堂
大阪市	中川商店	瀬原商店		

京都市	櫻庭商店	山形商店	橋本商店
名古屋	柴田商店	山田商店	
静岡	飯塚商店	山下商店	伊澤商社
廣島	松山商店	山谷商店	淺尾商店
神戸市	森村組	ウインクレル商會	ストラウス商會
	ワンダイン商會	コムモション商會	ウキトコースキ商會
			フローサー商會

花 蕙

一、産額	年次	三十八年	三十七年	三十六年	三十五年	三十四年
數	量	一三、二五八 <small>枚</small>	二一、九六七 <small>円</small>	二二、四六七 <small>円</small>	一一、四六八 <small>円</small>	七、九三〇 <small>円</small>
價	額	九三、〇五七 <small>円</small>	二二八、三〇〇	二二、三三、〇二五 <small>円</small>	一一二、九八九 <small>円</small>	六六、七〇一 <small>円</small>

二、主要産地

九龜市

三、種類別

上等

三百四十縦 色彩模様織出蕙

同等

無地花蕙

並等

百八十横 蕙

四、事業ノ沿革

香川縣

花菱ハ丸龜市ヲ以テ最モ盛ナリトス而シテ其沿革ハ之ヲ詳ニセスト雖モ今同市ニ於ケル村岡亮行ナル製造者ニ就キ之ヲ叙述スレハ明治二十四年ヨリ海外輸出向ノ花菱製造ニ從事セシニ同二十六年商況頗ル沈淪シ隨テ製造モ衰頹ノ極ニ達セリ茲ニ於テ從來ノ製品ニ改良ヲ加ヘ嶄新ナル意匠ヲ施シ大ニ面目ヲ一新センコトヲ圖リ苦心經營ノ結果彩色セル草花其他ノ模様織出ヲ案出シ二十七年春初メテ其目的ヲ達シ七月ニ至リ專賣特許ヲ得タリ二十八年春其標本ヲ試製シ神戸在留ノ外商ノ手ヲ經テ之ヲ海外ニ輸出シ爾來年々注文ノ數ヲ増シ且ツ價格ニ於テモ普通花菱ノ如ク變動ナク一定ノ相場ヲ保チ日露戰役前ハ殆ント其注文ニ應スル能ハサルノ盛況ナリシカ三十二年八月同市ニ花菱工場ヲ設置シ益々斯業ノ擴張ヲ圖レリ然ルニ三十七年ニ至リ日露戰爭ノ影響ヲ受ケタルト模様織出シタルカ爲メ遂ニ是等競争品ニ其販路ヲ奪ハル、ノ悲運トナリ加之原料ノ騰貴セルヨリ一層富業者ノ困難ヲ大ナラシメ目下ハ僅々百名ニ達セサル職工ヲ使役シテ纔カニ事業ヲ繼續セルニ過キスト云フ

五、製造戸數職工數

戸場數 一ヶ所  
職工數 九〇人

六、原料ノ需要供給

本品原料タル蘭草ハ總テ備中ノ産ヲ以テ之レニ充ツト云フ

七、收 益

本品ノ收益ハ其資本金ニ對シテ年々一割五分ノ利益ヲ收メツ、アリト云フ

八、販賣手續及取引習慣

神戸在留英、米、獨等ノ外商ヨリノ注文ニ依リ製作シ無爲爲換ニテ積送り代金ハ出荷後數十日ヲ經テ送金シ來ルアリ亦時ニ代金取立ノ爲メ人ヲ派スルコトアリ區々一定セスト云フ

九、相 場

一枚(四十ヤール)十四圓内外ニシテ甚敷高低ナシ

十、輸出先ニ於ケル嗜好

花模様ハ最モ嗜好ニ適スト雖モ嶄新ナル意匠ヲ施スニアラサレハ需要少トシ云フ

十一、輸出先ニ於ケル用途

主トシテ敷物ニ用ヒラレ其内上等品ハ中流以上ノ需要ヲ充タスモノナレハ並物ニ比シ其注文少シ

十二、荷造法及其費用並運賃諸費

荷造ハ神戸迄仮造リナレハ粗雜ナル菰ヲ以テ包裝ス運賃ハ神戸迄花菱二本入一個二十八錢ニシテ是ニ對スル保險料一本ニ付一錢ヲ要ストナリ

十三、重ナル取扱商店

本品海外輸出ニ就テ神戸在留外商ノ内其主ナルモノ左ノ如シ

- 獨 商 デラカンブ
- 英 商 テーラークーパー
- 米 商 スミスベーカー

砂 糖

一、産 額

年 次	三十八年	三十七年	三十六年	三十五年	三十四年
數 量	七、五七九、五二二 <small>斤</small>	一、〇二〇、七二七 <small>斤</small>	一、三六二、九三七 <small>斤</small>	一、四二二、二八三 <small>斤</small>	一、七六六、八五五 <small>斤</small>

香川縣

價額 一七八〇、三四二<sup>四</sup> 八〇〇、五三九<sup>四</sup> 六九〇、五五五<sup>四</sup> 七三三、五八七<sup>四</sup>、二二一、一八八<sup>四</sup>

二、主要産地

大川郡 三豊郡

三、種類別

白下糖 白砂糖

四、事業ノ沿革

砂糖ハ讃岐三白(鹽綿砂糖)ノ一ニシテ地方主要物産ノ一ニ數ヘラル今斯業ノ濫觴ヨリ少シク之ヲ記述スレハ實曆明和ノ頃藩醫ニ池田玄丈ト云ヘル醫師アリ藩主頼恭ノ命ヲ受ケ甘蔗ノ栽培ヨリ製糖ノ業ニ至ル迄研究セシモ宿志ヲ遂クルニ至ラスシテ病死セリ其將ニ歿セントスルニ當リ門人向山周慶ニ遺囑シ其志ヲ繼カシム周慶先師ノ遺業ヲ承ケ專ラ之ヲ研究セシニ時ニ偶々四國通路者薩摩ノ人良助ナルモノ大内郡(現時大川郡)ニ來リ重病ニ罹リ周慶ノ爲メニ藥餌ヲ與ヘラレ其厚護ニヨリ漸ク疾癒ルヲ得タリ於茲良助深ク周慶ノ恩誼ニ感シ一旦歸國シ甘蔗數莖ヲ携テ再ヒ周慶ノ許ニ至リ其栽培法及製糖ノ術ニ至ル迄悉ク之ヲ周慶ニ傳ヘテ歸國ス是レ本縣製糖創始トス爾來藩ニ於テ充分ノ保護獎勵ヲ與ヘシカハ弘化嘉永ヨリ元治慶應ニ至ルノ間ハ殆ント隆盛其極ニ達セシモ維新後ニ至リ外糖輸入ノ制限ヲ解カレ如之廢藩ト同時ニ製糖保護ノ法亦廢絶シ一方外糖輸入増加スルト共ニ燃料勞銀ノ昂騰シ遂ニ外糖ト對峙スル能ハサルノ悲境ニ沈淪シ商況益々不振トナレリ然レトモ尙其産額百萬圓ヲ保有シツ、アルヲ以テ縣ニ於テハ一昨三十八年ヨリ大川、三富ノ兩糖業組合ニ對シ各六百圓ノ補助金ヲ下附シ之カ發展ヲ圖リツ、アリ

五、製造戸數及職工數

戸數 一、九四八<sup>戸</sup>

職工數

一九、八四四<sup>人</sup>

六、製産狀況

本業ニ對スル狀況タルヤ既ニ沿革ノ項ニ於テ述ヘタルカ如ク一時ハ種々原因ノ下ニ非常ノ衰頹ヲ來セシカ三十八年三月ニ大川郡ニ同四年十一月三豊郡ニ各糖業組合ヲ組織シ製品ノ検査ヲ爲スト共ニ製糖機械ノ改良ヲ圖ル等大ニ事業發展ヲ期シツ、アレハ其計畫ニシテ着々効ヲ奏スルヲ得ハ將來有望ノ事業ト成ルヤ疑ヲ容レサルベシ

七、原料需要供給

縣内産出ノ甘蔗ヲ以テ原料ニ當テ他地方ノ輸入ヲ仰カスト云フ

八、製産費及收益ノ比較

原料 甘蔗(二百五十貫)	七 <sup>四</sup> 五〇〇
製造費	三、七〇〇
消費稅	三、四〇〇
賣價(白下精百七十斤)	一七、〇〇〇
差引收益	二、四〇〇

九、販賣手續及取引習慣

地方問屋ヨリノ注文ニヨリ送荷ノ上時價ヲ以テ販賣シ又時ニヨリテハ委託販賣ヲ爲スコトアリト云フ

十、相場

白下糖	百斤ニ付	一〇 <sup>四</sup> 〇〇〇
白砂糖	同	一四、〇〇〇

香川縣

十一、長所缺點

本縣產出ノ砂糖ハ品質純良ニシテ色澤ハ外糖ニ劣ルト雖モ其甘味ハ優ニ外糖ヲ凌駕スト云フ

十二、重ナル取扱店

東京	小林彌平	大阪	八田利助	越川新七
新潟	齋藤支店	播磨	黒田甚助	久樂松右工門

醬油

一、産額	年次	三十八年	三十七年	三十六年	三十五年	三十四年
數量		九七、七〇二 <sub>石</sub>	一一二、六三八 <sub>石</sub>	九六、二三一 <sub>石</sub>	一〇〇、八〇二 <sub>石</sub>	一一、一七九 <sub>石</sub>
價額		一、四六五、五三〇 <sub>円</sub>	一、七二三、三六八 <sub>円</sub>	一、六三六、六二七 <sub>円</sub>	一、六一二、八三六 <sub>円</sub>	一、六四、一一〇 <sub>円</sub>

二、主要産地

小豆郡

三、種類別

濃口	薄口
----	----

四、事業ノ沿革

小豆郡醬油醸造ノ起原ハ文化六年ニシテ同郡安田村高橋文左衛門ナル者始メテ之ヲ製シ大阪地方ニ之カ販賣ヲ試ミシカ頗ル高評ヲ得漸次石數ヲ増加シ遂ニ本郡各地ニリ互テ之ヲ醸造スルニ至リ今ヤ其産額十萬石ヲ超ヘ價額亦百十

萬圓ノ巨額ニ達シ昨三十九年之レカ試験場ヲ開設シ縣費ヨリ五ケ年間一萬一千圓ノ補助ヲ下附シ居レリト云フ

五、製造戸數及職工數

戸數	四〇二戸
職工數	二、五二〇人

六、原料ノ需要供給

原料小麥及ヒ鹽ニ於テハ本縣産及ヒ近縣ノモノヲ用フルモ大豆ハ九州産又ハ韓國産ヲ用フト云フ

七、製産費及收益ノ比較

原料十六石仕舞一個ニ付金二百圓製造費六十圓ヲ要シ是カ收益ハ市價ノ高低製法ノ功拙資金運用等ニヨリ多少ノ差異アリト雖モ大概資本金ニ對スル年一割ノ利益ヲ收メ得ルモノ、如シ

八、販賣手續及取引習慣

荷爲換等ヲ附スルコトナクシテ送荷シ現品引渡ノ後代金ヲ請求ス而シテ販賣價格ハ同業組合ニ於テ標準ヲ定メ重ナル仕向地ノ販賣者ト交渉シ其協定價格ニ準據シ取引ヲ爲ストナリ

九、相場

現今ニ於ケル賣價一石ニ付最低金十二圓最高二十五圓ナリ

十、荷造法其費用並ニ運賃諸費

荷造ハ一石三挺詰メ木製樽ヲ用ヒ細ヲ掛ケ搬出ス其費用ハ容器其他ニテ一個ニ付金七十錢ニシテ運賃一樽平均二十錢ヲ要スト云フ

十一、長所缺點及改良スヘキ要點

香川縣

長所缺點ハ著シキ特徴ヲ認メス唯改良スヘキ要點ハ徹ヲ防ク方法及良香氣ヲ含有セシムル法等ヲ緊急トス  
十二、重ナル製造者

- 安田醬油株式會社
- 島醬油製造株式會社
- 小豆島醬油製造株式會社
- 同草野醬油製造株式會社
- 同池田醬油製造株式會社
- 内海醬油製造株式會社

素 麵

一、產 額	年 次	三十八年	三十七年	三十六年	三十五年	三十四年
數 量	價 額	五二〇、四六五 <sup>圓</sup>	四六一、二一八 <sup>圓</sup>	五八一、六六二 <sup>圓</sup>	六四七、五八二 <sup>圓</sup>	六七七、五一五 <sup>圓</sup>
	價 額	二二五、二八九 <sup>圓</sup>	一七八、五一 <sup>圓</sup>	二三〇、六五四 <sup>圓</sup>	二二一、二二二 <sup>圓</sup>	二三五、二八五 <sup>圓</sup>

二、主要產地

小豆郡

三、事業ノ沿革

本縣ニ於ケル素麵製造ハ慶長三年今ヲ去ル三百六年前始メテ之ヲ製スト傳フ其當初ニ於ケル斯業ハ農家ノ副業トシテ僅カニ生産アルニ過ギザリシモ漸次需用ノ増加ニ伴ヒ遂ニ各郡内ニ普及シ目下重要物産ノ一ニ數フルニ至レリ

四、製造戸及職工數

戸 數

五四五<sup>戸</sup>

職 工 數

六二八<sup>人</sup>

五、製 產 狀 況

斯業ハ前項ニ於テ述フルカ如ク主トシテ農家ノ副業タリシカ今ヲ去ル十ヶ年以前ヨリ機械製造ヲ發明シ稍發達スルニ至レリ而シテ手工素麵ハ年々衰退ヲ來セリ是レ粗製又ハ乾燥ノ惡シキニ基因スルモノニシテ機械製ハ其製造ニ一層ノ注意ヲ拂ヘハ前途有望ナリト認ム

六、原料ノ需要供給

原料ハ概シテ本邦産ノ小麥ヲ使用スルモ稀ニ小麥ノ品質良否又ハ價格ノ高低ニヨリ米利堅粉ヲ使用スルコトアリ縣外ヨリ輸入スルモノハ岡山佐賀熊本福岡各縣産ナリト云フ

七、生産費ト收益ノ比較

原 料	手 工 製 十 貫 々	機 械 製 同 上
製 費	三四〇〇	三〇二五〇
賣 價	九〇〇	二〇〇
收 益	四、六〇〇	三、六五〇
	三〇〇	二〇〇

八、販賣手續及取引習慣

製品ハ概シテ各生産地ノ船主ニ托シテ價格最モ高キ地方ニテ販賣セシメ是カ取引ハ概シテ現金取引ナリトス

九、相 場

本品ハ常ニ其相場一定セス特ニ春夏ノ候ハ相場ノ高低甚シキモ目下ニ於ケル相場ヲ示セハ左ノ如シ

香 川 縣

手工製 十貫匁 四〇六〇〇  
機械製 同 三、六五〇

十、販出先ニ於ケル代用品及競争品

本縣産麥麵ニ對スル競争品ハ播州製素麵ニシテ品質ニ於テ手工製彼レ優リ機械製ニ於テ本縣産優レルモノ、如シ

十一、重ナル取扱店

廣島市 太田重吉 長崎市 岩永直吉

紙類

一、産額

年次	三十八年	三十七年	三十六年	三十五年	三十四年
數量	八六、三四四	二八五、四六六	三二八、二六七	一一三、四五一	一三四、四五五
價額	三五七、五八一 <sup>円</sup>	二三一、七三一 <sup>円</sup>	三〇三、八四九 <sup>円</sup>	三六四、四四四 <sup>円</sup>	一一三、四五一 <sup>円</sup>

二、主要産地

香川郡、高松市

三、種類別

東洋紙 典具帖 ナブキン紙 藁半紙 改良半紙  
藁塵紙

四、事業ノ沿革

今ヨリ凡百年前伊豫三島地方ヨリ來リタルモノ香川郡弦打村ニテ開業シ引續高松市中ノ村中村喜多藏ナルモノ藁紙製造ヲ發明シ同時ニ半紙二十四枚取リ簀桁ヲ發明ナシタルモ大ニ失シ不便ヲ感スルニ付明治八年之ヲ切半シテ半紙十二枚取リ簀桁トナセリ其後十二年又々之ニ改良ヲ加ヘテ半紙十五枚取トシ現今尙之ヲ繼用シツ、アリ

五、製造戸數及職工數

戸數 七八戸  
職工數 六五五人

六、製産狀況

現今原料高價ナルヲ以テ下等品ニ於テ稍其製産額ヲ減少シタリト雖モ東洋紙及ヒナブキン紙ハ好況ヲ呈ツ、アルヲ以テ將來巨額ノ産出ヲ爲スニ至ルヘシ

七、原料ノ需要供給

本品ノ原料タル空俵ハ中國及ヒ九州地方ヨリ購入シ反古ハ大阪及ヒ中國九州等ヨリ之ヲ購入ス

八、製産費及收益ノ比較

本品ハ其種類數多ニ亘ルヲ以テ各收益ヲ異ニスト雖モ大約セハ其賣價ニ對シ二割乃至三割ノ利益ヲ收メ得トナリ

九、相場

東洋紙 一萬枚ニ付 二〇〇〇〇  
ナブキン紙 同 一二、〇〇〇  
改良半紙 十束ニ付 二、五〇〇  
藁半紙 同 一、一〇〇  
香川縣

十、荷造法及其費用並運賃

塵紙ハ九十束ヲ一梱包トシ筵ニテ包裝ス其費用一個十五錢ヲ要シ運賃ハ大阪及神戸迄十一錢ニシテ他品モ甚シキ差ナシト云フ

十一、事業上ノ施設

同業組合ヲ設ケ製品ニ就テ検査ヲ爲シ合格ノ品ニハ検査印ヲ押捺シ尙検査證紙ヲ貼付シ居レリ

漆器

一、産額	年次	三十八年	三十七年	三十六年	三十五年	三十四年
二、種類別	數	一一〇、三六四	三九二、〇九八	五七、八五四	六六、四〇〇	一一一、七五〇
	價額	一四六、六一〇	一三三、二五七	一三四、一九一	一三四、二九四	二〇、〇五〇
三、主要産地	高松市					
	高松市					
四、事業ノ沿革	贛岐彫又ハ贛岐塗(象谷塗トモ云)ノ名ハ産地ニ因シ象谷塗ノ名ハ祖匠玉椿象谷ノ號ニテ漆器ニ得意ノ彫刻ヲ施セルモノナリ今之ニ就キ少シク述ヘンニ天保年間時ノ藩主松平頼恕ノ鞘仕周南蘭齋ノ子爲三ナル者アリ是即チ象谷ニシ					

三、主要産地  
高松市

四、事業ノ沿革

贛岐彫又ハ贛岐塗(象谷塗トモ云)ノ名ハ産地ニ因シ象谷塗ノ名ハ祖匠玉椿象谷ノ號ニテ漆器ニ得意ノ彫刻ヲ施セルモノナリ今之ニ就キ少シク述ヘンニ天保年間時ノ藩主松平頼恕ノ鞘仕周南蘭齋ノ子爲三ナル者アリ是即チ象谷ニシ

テ或年一寸角ノ一角ノ印籠ニ荷葉五十五、花三十六、湖石二、龜三百四十三、蟹四百三十三、蛙四十一、蝸牛二十七、蜻蛉二十四、蠅九、蝶二十六、玉虫二、其他無數ノ虫類ヲ彫刻セシモノヲ獻上セシニ藩主大ニ其技ヲ賞シ象谷ニ苗字帯刀ヲ許シタリ是レ象谷彫ノ創始トス爾來同人歿後斯業ヲ繼續シ年々十二三萬圓ヲ産出スト誰モ其技ハ祖匠象谷ニ及ハスト云フ

五、製造戸數及職工數

戸數 五四戸  
職工數 二九八人

六、製産狀況

産額年々増加シ販路又大ニ擴張シ今ヤ京都辨天合資會社等ヲ經テ海外ヨリ注文アルニ至レルヲ以テ濫造粗製ヲ戒メ價格ノ低廉ヲ計リツ、アリ

七、原料

原料ハ竹籃及ヒ杉ノ楳地ヲ多ク用ユ而シテ是等原料ハ何レモ專業者ノ手ヨリ製造家ニ供給シ之ニ彫刻ヲ施シ漆液ヲ塗リ製造スルモノトス

八、販賣手續取引習慣

總テ先方ノ注文ニ應ジテ之ヲ製シ着荷後爲換ニテ送金シ來ルヲ常トス依テ委托販賣ノ如キハ是レ無キナリ

九、長所缺點及改良スヘキ要點

贛岐漆器ハ製作堅牢ニシテ意匠ノ巧妙ナルヲ長所トスルモ現今元祖象谷ノ手工ニ成レル如キ巧妙ナル製品ヲ製シ得サルヲ缺點トス尙近來下地粗造ノ傾向アルヲ以テ是等ハ改良ヲ要スヘキノナリトス



## 愛媛縣

### 産業概況

本縣ハ四國ノ西北ニ位置シ域内山嶽重疊平坦地纔カニ十分ノ三ニ過キス其中軸ニハ四國第一ノ高峰石槌山地勢ヲ東西ニ劃シ交通甚タ不便ナルモ山脈以西ニハ伊豫鐵道ノ一線路アリ纔カニ海上トノ連絡ヲ通セリ四國山脈ノ餘勢ハ瀬戸内海ニ向ヒテ横走シ海面ニハ無數ノ嶋嶼星列シ其屈曲セル北海岸ニハ今治港アリ阪神以西ノ要津ニシテ西海岸ノ三津ヶ濱ト共ニ本縣下ニ於ケル著名ノ吞吐港タルノミナラス又重要工産地トシテ知ラル今治港ニ亞クモノ高濱三津ヶ濱ノ兩港ニシテ高濱港ハ近年修築ヲ加ヘタル爲メ船舶ノ寄港スルモノ漸ク頻繁トナレリ而シテ四國山脈ノ西奔シテ海ニ濱スル佐田岬ヲ迂回シテ川ノ石、八幡濱ノ良港アリ九州ト聲援相通スルノ要港タリ其南方十里ニシテ宇和島ノ良灣アリ本縣第二ノ都會トシテ商業繁盛南部ニ於ケル諸物貨ノ集散點タリ要之スルニ本縣ニ於ケル交通機關ハ陸上ニ於テ其完備ヲ缺ケリト雖モ海上ニ於テハ比較的整頓シ一縣産業上ノ啓發ニ資益スル處鮮カラサルヲ信ス

今本縣ニ於ケル産業ノ状態ヲ通觀スルニ縣下十九万三千餘戸人口百四万六千餘ノ民衆ハ大半農業者ト工業者トシテ而カモ農業ハ地理的關係ニ於テ耕地ノ供給乏シク收利亦比較的少キニモ拘ラス依然其生産力ニ於テ農業本位ヲ脱セス將來耕地ノ整理ニ原野ノ開拓耕作法ノ改善等ハ更ニ一層ノ進歩ヲ見得ヘキヲ信ス農産ニ亞クモノ工産ニシテ重要工産品トシテ伊豫緋綿織物生糸和紙木蠟清酒陶器等其主ナルモノニ屬セリ工産ニ亞キ將來有望ノ事業ハ水産ニシテ農工兩者ニ比スレハ復カニ其下位ニアルモ本縣ハ燧洋硫黃灘ノ真漁地ヲ有スルト近來遠海漁業ノ發達ニ伴ヒ漁業上ノ利益ハ漸次増加ヲ見ルヘキ趨勢ニ嚮ヘリ本縣ノ林業ハ其山嶽連峰ノ多キニモ關ラス一年ノ收入僅カニ七十万圓内外ニ在ルハ畢竟林業施設ノ全カラサルニ基因セルモノニシテ將來人口ノ縮少ヲ見ルハ數ノ免レサル所ナルモ而カモ現在ノ原野ヲシテ植樹栽培宜シ

キヲ得且ツ保安林制度ヲ確立スルニ於テハ未來ノ一大富源タルハ敢テ啜々ヲ要セサルナリ鑛産ハ本邦有數ノ別子銅山及ヒ市ノ川鑛山等アリ年々其產額少シトセス其他畜産ニ於テハ未タ盛ナラスト雖モ共同牧場及ヒ産牛馬組合ノ設置アリ殊ニ近來馬匹改良ニ傾意シ良種ヲ產出スルニ至リ逐年其發達ヲ見ル可キヲ信ス  
茲ニ本縣各產業ノ現況ヲ叙述スルニ當リ先ツ各業ニ對スル生産力ヲ左ニ計上セントス

三十八年調査

一 農 産	貳千四拾七萬五千七百三十八圓
一 工 産	壹千七百六十貳萬二千九百六十二圓
一 鑛 産	參百七萬貳千三百八拾五圓
一 水 産	壹百四拾七萬九千九百參拾壹圓
一 林 産	六拾九萬七千四拾壹圓
一 畜 産	八萬七千六百五拾壹圓
合 計	四千參百四拾參萬五千七百八圓

由是觀之各產業ニ於ケル農業ノ生産力ハ殆ント總額ノ二分ノ一ヲ占メ工業ノ生産ハ全產額ノ四分ノ一強ニ居リ他ノ鑛産、水産林産畜産ハ之ヲ合シテ均シク全產額ノ四分ノ一ニ當レリ以テ農業カ本縣經濟力ノ主腦ニシテ更ニ工産ハ本縣ニ於ケル將來有望ノ事業タルヲ見ルヘシ今各產業上ノ趨勢ニ付其大要ヲ概説セントス

### 農 業

由來本縣ハ農ヲ以テ最モ主要ノ生産業トナス之レ土性及ヒ地勢ノ然ラシムル所ナリト雖モ一ツハ舊慣ノ久シキ商業ニ

對スル思想ノ幼稚ナルニ飯凶スルモノナリトス而シテ縣下土性ノ大要ヲ述フレハ又以テ農耕ニ適スルノ地タルヲ知ルヲ得ヘシ彼ノ温泉伊豫越智新居周桑五郡ニ於ケル平地ハ沖積層ニ屬シ多クハ砂質ニシテ宇摩、喜多宇和四郡並ニ上浮穴郡ノ一部ニハ主トシテ粘土ヲ含有シ全部ヲ通覽スレハ全耕地ノ百分ノ十五重粘土四十八分ハ粘土質及ヒ眞土、二十八分ハ砂質、九分ハ腐植質ニ屬シ又岩石ノ性質ハ新居、周桑、喜多、西宇和、片岩質上浮穴ヨリ東宇和郡ニ通スル一帯ノ山脈ハ石灰石ヲ基骨トセリ以上ノ如キ土性ナルニヨリ平地ハ膏腴ノ地方頗ル多シ然リ而シテ現今本縣ノ耕作反別田四萬七千七百七十四町九反畑七萬四千九百九十三町五反ニシテ之ニ對スル各種生産ノ統計ヲ舉クレハ左ノ如シ

品名	反別其他	作付反別	收穫高	一反步平均收穫
米		四六八七一、九	八三一、〇〇六	一七七二
麥		五一八四三、五	五〇七、七七三	九七九
大豆		五〇〇六、六	三七、二五六	七四四
小豆		二八五七、〇	一一、二七〇	四〇二
粟		一九三〇、八	一一、二〇五	六三二
稗		三五二、五	一、六七六	四七五
黍		五七八、五	五、二一一	九〇一
玉蜀黍		一〇一八三、五	七九、〇六九	七七六
蕎麥		一六一五、五	八、二〇五	五〇七
甘藷		一四二五七、八	四一、三二五、三八七	二九〇
馬鈴薯		二七一、〇	二六四、二八四	九八

實	大	葉	菜	櫛	楮	三	碗	蠶	蘿	牛	胡	蓋	梅	桃	梨	柿	萃
綿	麻	藍	種	實	皮	皮	豆	豆	荷	勞	荷	羅					菓
四〇、六	一一四、七	一九六、六	一三七、〇	一七一九、四一六 <sub>本</sub>	三一、二四、五 <sub>本</sub>	二九五八、九	八七七、四	一六六八、八	一九八九、四	二二七、〇	七一、二	一七三、六	九一、二〇三 <sub>本</sub>	一八二、九四三	一八一、〇九一	一六三、〇四六	三一、四八八
八、五六一	一九、七七二	七六、三三八	九、〇六四	一、八〇八、二四六	五六〇、二四九	一、〇〇四、三〇七	六、九一九	一六、〇八三	一九、三七二、八〇九	四二九、八五〇	一二七、〇二六	三五五、四八五	八、五六二	二二四、九五三	二七四、六九五	六七七、九五八	五四、三七四
二一	一七	三九	六六〇	?	一七	三四	七八九	九六三	九七	二七七	一七八	二五					

蜜 柑 一三八、八五六 六一八、〇五五  
 茶 一〇七九、二五 八八、三四八

右ハ農作反別ヲ統計上ヨリ示スモノナレモ實際ノ方面ヨリ調査スレハ尙ホ之レヲ超過スルモノモアラシク且ツ縣下ノ沿岸  
 岬灣ニ接スル地方ハ漁村又抄カラスト雖モ過半ハ農ヲ以テ營業トシ地方ニ散在セル商家ト雖モ半農半商ノ多キハ畢  
 竟農ヲ以テ生業トナサザルベカラルノ境遇アルモノニシテ縣民百有餘万中七十餘万ノ民ハ皆耒耜ヲ侶トセルモノニ属  
 セリ

縣下ノ土性及ヒ氣候ハ農業ニ適セルカタメ普通農作物ノ發育最モ良好ニシテ殊ニ米麥及ヒ甘藷、大豆、玉蜀黍、甘蔗、  
 粟、櫛實、葉藍、煙草果實等ニハ最モ好適セリ又養蠶業近年漸クニ旺盛ニ赴キ縣下生産業ノ主要ノ地位ヲ占ムルニ至  
 レリ  
 櫛實ハ周桑、喜多宇和四郡ニ産シ縣下獨有ノ産物ナリ  
 養蠶業ハ古來北宇和東宇和西宇和喜多郡最モ盛ナリシカ近年ニ至リ溫泉、周桑、新居郡亦漸ク盛トナリ其總額ニ於テモ  
 全國ヲ通シテ樞要ノ地位ヲ占ムルニ至リ以テ縣下生産業中最モ注眸スヘキモノトナレリ  
 製糸ハ喜多郡最モ盛ニシテ河野工場野工場ノ如キ全國ニ有數ノモノアリ其産額ハ二百萬圓ヲ超過ス而シテ養蠶ト製絲  
 トハ全ク分業ニシテ生繭ノ産額ハ統計上ニ於テハ二萬、二三千石ヲ超過セサレトモ實際ノ生繭取引方面ヨリ調査スレハ  
 三萬石ヲ降ラス中六分ハ春蠶ニシテ私蠶夏蠶四分位ナリ之ニ亞キ二三年以來秋蠶飼育著シク發達シ却テ春蠶ヲ凌駕セン  
 トス

蠶種製造業ハ三十九年ニ於テハ原種百五十萬蛾ヲ超過シ前年ニ比シ殆ント倍額ナリ製糸用種ハ一萬五六千枚ナリ  
 牧畜業ハ概シテ萎靡不振ノ境遇ニアリト雖モ漸次其面目ヲ一新スルノ期アルヘキヲ信ス

重要農産物統計

	三十六年		三十七年		三十八年	
	産額	價額	産額	價額	産額	價額
米	七三三、七四七石	八五九、八七八	九一一、四八九石	八五四、五八七	七三七、一〇六石	九二八、七二七
麥	二五三、〇六三		二五八、四一五		四八九、九九一	
大豆	三三、四八八		三六、六九五		三四、〇二四	
粟	一二、五八四		一二、八八四		一三、〇三五	
玉蜀黍	五五、七二三		六〇、四四〇		五八、九九三	
甘藷	四九六、三七、三五五		四一、九六〇、一三九		三三、八八四、六四四	
菜種						
楮實	?		二、二二、九四八		二、六〇五、八一七	
楮三椏	?		一、四三八、七三三		一、四七五、八六三	
繭	二〇、二四三石	八五九、八七八	二二、九六九石	八五四、五八七	二二、六七一石	九二八、七二七
葉煙草						
柑橘	八四一、七四四		一一、三三、三〇一		一一、二八二、四二〇	
葉藍	一六七、七四五		一四二、五八四		七六、四七三	
小豆	九、八一九石		一〇、六九六石		一一、四〇三石	
稗	一、八〇六		一、四四五		一、八四四	

黍	三、八〇四	四、二八八	四、五一八
蕎麥	九、六八〇	九、七四六	七、九二〇
馬鈴薯	一八一、一〇八	一八四、七九八	一八二、四〇三
實綿	一七、八九六	一一、九〇四	七、八五〇
大麻	二二、六二六	三八、七〇三	二八、二一六
蚕豆	?	一〇、六八二	一一、四九〇
芋	?	一一、〇八、〇六五	二、九九六、五九五
蘿蔔		八、八六三、二五八	一八、八九九、二一一
牛蒡		三二八、〇一五	六三四、三七二
胡蘿蔔		一五七、七三八	一一七、一五六
蕪		六二、六六二	二二二、二五〇

一、農業ニ對スル沿革及起源

本縣ハ松山ヲ中央トシ東ハ二十五里ヲ隔テ、香川縣ニ境シ南ハ延ヒテ高知縣宿毛境ニ臻ル此距離四十余里ニシテ其  
 レヲ全通セハ六十余里ノ長キニ涉リ此間坦々タル平地ト沃野相接スルモ比較的地質澆鹵ナル山間多クハ稻米ノ如  
 キモ千差萬別各地其産品ヲ異ニセリ  
 麥ハ從來裸麥ヲ最トシ小麥之ニ次ク近來小撥ト稱スル種類ヲ栽培シ麥稈用ニナスノ機ニ會セリ  
 玉蜀黍ハ上浮穴、喜多、東宇和郡ノ山間ニハ古來最モ盛ニ栽培シ山間諸村ノ農民ハ常食ノ主要ナルモノトセリ

甘藷ハ沿海諸村嶋嶼ノ細民ノ主要食料ニシテ山間村落ノ玉蜀黍ト相對セリ  
 甘蔗ハ今ヲ去ル百有余年前天明年間宇摩郡ニ於テ讚岐高松ヨリ種苗ヲ齎シタルニ始リ伊豫郡ニテハ天保年間ニ栽培セルヲ嚆矢トセリ近年甘蔗栽培製糖業ハ漸次衰頽セントス

櫛實ハ喜多、周桑及ヒ宇和四郡盛ニシテ年々二百萬貫ヲ産セリ喜多郡ニテハ今ヲ去ル百三十有余年前良種櫛實ヲ九州地方ヨリ輸入シタルニ始マリ其當時農民ハ穀作畑ヘ樹木ヲ植ユルヲ甚ク嫌ヒシモ吏員ヲ派シ勸諭ノ結果繁殖ノ道ヲ開キ收益ノアルヲ覺知シ山間ト平坦地トヲ分タス栽培ノ法ヲ講スルニ至レリ又西、北宇和兩郡ニ於テモ櫛ノ起源ハ詳ナラサルモ百五、六十年前ニ試植シタルモノ、如ク天明二年宇和島藩主ヨリ櫛樹栽培ノ嚆矢者ヲ索メ其功ヲ追賞シタルコトアリ爾後今日ニ至ル百數十年間一盛一衰以テ今日ニ至レリ

果實中蜜柑ハ北宇和郡立間村ノ特産ニシテ其沿革ハ百有余年前紀州地方ヨリ一苗商來リ柑橘苗ノ一種ヲ示シ「ソウリン」ト稱シ柑類ノ珍品ナレハトテ此地ニ遺シ置キタルニ始マリタルモノニシテ其後種々ノ試驗ヲ經テ今日ノ「李婦人」トシテ栽培スルニ至レルモノナリ

苹果ハ温泉郡與居島ヲ以テ特産地トス其起源ハ明治十五六年以後ニシテ二十三年ニハ當地ノ有志二三ノ者東北地方ノ苹果業ヲ視察シ大ニ感スル處アリ爾後益々獎勵ト栽培ニ努メシ結果今日ノ盛況ヲ見ルニ至リ一小島ニシテ年額十四五萬圓ノ産額ヲ舉クルニ至リ品質甚ク佳良ナリトス

本縣ニ於ケル養蠶業ノ起源ハ往古ニ於テモ全ク之レニ從事スルモノナキニアラサルモ多クハ近年ニ至リテ發達ノ狀況ヲ呈シタルモノナリ喜多郡ニテハ嘉永年間獎勵シタル事蹟アリ桑樹ハ明治初年江州ヨリ桑苗ヲ移シテ之レカ栽培ヲ獎勵シタルコトアリシモ一時衰頽シ再ヒ近年ニ至リ養蠶ノ勃興ニ伴ヒ漸次其蕃殖ヲ見ルニ至レリ

二、農産事業ニ對スル現況 (三十九年調査)

農産現時ニ於ケル生産ヲ舉クルハ左ノ如シ

産	額	價	額
米	八一三、〇〇六 <sup>71</sup>	一二、〇四九、五八七 <sup>71</sup>	
麥	五〇七、七七三	四、〇六二、一八四	
蕎麥	二六、七八二	一、二二八、〇三七	
藍	四〇、五三六	二八、九三五	
茶	八八、三四八	四七、二六〇	
大豆	三七、二五六	三六五、一〇八	
小豆	一一、二七〇	一一九、六〇五	
豌豆	六、九一九	五五、三三二	
蠶	一六、〇八三	一一〇、六二三	
粟	一一、二〇五	七三、二三〇	
稗	一、六七六	六、七〇四	
黍	五、二一一	二八、六六〇	
菘	八、二〇五	五七、四三五	
玉蜀黍	七九、〇六九	五二、九四九	
甘藷	四一、三一五、三八七	一、八五九、一九二	

愛媛縣



茶	一九、二二二
砂	六一、三五〇
薯切	一四二、九六九
櫛實	一〇、八〇五
計	一、九一三、七二四

輸出先及需用供給ノ狀況

生産品ノ輸出先ハ隣接府縣ヲ主トシ西ハ宮崎、大分、福岡ノ諸縣トシ北ハ山陽各縣ヨリ東阪神地方ヘモ多少ノ輸出アルヲ見ル

米ハ縣ノ生産ヲ以テ需要ニ充ツル能ハサルカ故ニ大分廣島地方ヨリ多少之ヲ輸入スルモ取引上ヨリ縣下ノ産出米ヲ縣外ニ積出スコトナシトセス細民ハ支那米ノ輸入ヲ兵庫縣山口縣ヨリ仰キ其不足ヲ補ヒツ、アリ

果實ハ阪神地方ヨリ廣島、山口ヘ輸送シ近年ハ野菜ヲ阪神地方ヘ積出スノ機ニ會セリ

生繭ハ縣ノ産額ヲ以テ製糸ノ需用ヲ滿タス能ハスシテ大分、高知、山口、廣島、香川、徳島ノ諸縣ヨリ輸入ヲ仰キツ、アリ而シテ其製糸高ハ二萬貫ニシテ一貫九十圓ト假定セハ百八十萬圓ニ及フ縣下生産力ノ重要ナルモノナリ櫛實モ縣ノ産出ヲ以テ木蠟製造者ノ需用ヲ滿タス能ハスシテ九州地方ヨリ輸入ヲ仰キツ、アリ其他甘藷、葉藍、楮皮、茶、砂糖等モ隣接府縣ヘ多少輸送シツ、アリ

農業ニ伴フ肥料製造業ハ沿岸線ノ長キ本縣トシテ津々浦々ノ漁村ニハ多クノ漁民春秋二季ノ交ニ漁獲セル青魚中其三分ヲ肥料トシ乾魚又ハ搾粕トシテ各地方ニ輸送スルモノ少カラヌ又内地ニハ各種ノ粕類ノ製造アレトモ多クハ地方農家ノ需用ニ供シ他府縣ヘ輸送スル能ハサルモ取引上其幾分ハ搬出スルモノナキニアラス其他近年人造肥料

製造ノ勃興スルニ伴ヒ縣下ニモ三百萬圓ノ資本ヲ投シ該事業ヲ起ス計畫アレハ之レカ製造品ハ他府縣ニ向ヒ續々輸送スルノ盛況ヲ見ルナラン

三、農産上ニ對スル施設

米麥ノ品質改良ニ關シテハ縣下ニテハ農事試驗場縣農會アリテ技師技手ヲシテ研究セシメツ、アリ郡ニハ郡農會アリテ其研究ノ結果ヲ實地ニ應用セシメントラ圖レリ

米質俵製ノ改良ニ關シテ團體施設トシテ米穀商同業組合ヲ組織シ其發展ヲ企圖シツ、アリ

果樹ニ關シテ縣トシテハ縣農事試驗場ニ技術者ヲ置キ實地應用ノ方法ヲ當業者ニ指導セシメツ、アリ而シテ個人トシテハ温泉郡興居島ニ果樹協會ナルモノアリテ品質良好ノモノヲ得ルニ努メ漸次其發達ノ氣運ニ嚮ヘリ

牧畜ハ縣トシテハ技術者ヲ置キ專ラ良種ノ繁殖ヲ圖リ種畜改良補助規定ニヨリ産牛馬組合ノ購入種牡牛馬ニ對シ其評價二分ノ一以内ノ補助ヲ與ヘ又種牡牛馬ニハ定期臨時検査ヲナシ乳牛ニ對シテモ相當ノ検査ヲナシ、アリ産牛馬改良ノ團體トシテハ南宇和ニ産牛組合設立計畫中ノモノアリ將來大ニ發展ヲ見ルノ機アルヘキヲ信ス

養蠶ハ縣トシテハ共同養蠶組合ヲ設ケ縣下各町村區域内ニ於テ當業者相會シ一小組合ヲ組織シ各組合毎ニ一名ノ現業教師ヲ招聘シ蠶業各般ノ業務ヲ實地ニ指導セシメツ、アリ又層繭整理講習規程ヲ設ケ教師ヲ招キ各地ニ層繭整理ノ講習ヲナシ實地指導ニ努メツ、アリテ此事蹟頗ル見ルヘキモノアリ

其他蠶事部ヲ置キ桑苗ノ培養養蠶ノ傳習ヲナスニ努メツ、アリ縣ニハ技師アリテ實地指導ノ局ニ當リ其効果甚良好ナリトス

工業

本縣工業ノ大勢ヲ見ルニ特殊工業ノ外ハ概テ家内の工業ニシテ彼ノ重要物産ノ一タル製紙ノ如キモ殆ント農家ノ副産物タル觀アリ今其概要ニ付左ニ記スル所アラントス

和紙ハ宇摩郡ヲ主要産地トシ古來ヨリ著名ノ生産品ニシテ紙質善良ナリト雖モ近來原料ノ供給乏シキカタメ製紙ノ生産モ之ト消長ヲ俱ニスル状態ニアリ又上浮穴喜多ノ兩郡ハ楮三椏ノ栽培ニ適シ製紙ノ産額又渺シトセス往昔大洲半紙トシテ名聲ヲ博シタリシモ近時粗製濫造ノ弊ニ陥リ大ニ弊價ヲ失墜シタリシヲ以テ同業組合ヲ組織シテ其改善ノ策ヲ講シツ、アリ

木蠟ハ本縣主要物産ノ一ニシテ其産額三十八年ニ於テ百十一萬圓ノ巨額ニ達シ周桑郡ノ王蠟喜多郡ノ白蠟等最モ聲望ヲ有セリ近時價格ノ變動ニヨリテ稍ヤ愁色ヲ帶フルノ觀アルモ需要ハ漸次増加ノ傾向ニ在リ

伊豫緋ハ一名今出飛白ト稱シ松山、温泉伊豫ノ一市二郡ノ特産ニシテ本邦各市場ニ於テ好望ヲ以テ迎ヘラレ輸出額甚タ多シ之ニ亞キ越智郡ニ於ケル綿ネル白木綿等又巨額ニ上リ縣下工産品ノ總額ニ對シテハ是等織物産額ハ第一位ニ屬セリ然レトモ其染織ノ方法依然舊態ヲ墨守セルカ爲メ現時ニ於テ根本的改善ヲ加フルニ非レハ終ニ伊豫緋ノ聲價ヲ失墜シ需要ヲ減退スルノ期到來スヘキヲ信ス

砥部焼ハ淡黄色ヲ有スル白焼ニシテ近年海外へ輸出スルノ趨勢ヲ呈シ稍ヤ好望ノ域ニ嚮ヘリ其他工産物ハ縣到ル處其産出ナキニ非ルモ工業界中心ハ越智郡ニシテ時運ノ進歩ニ伴ヒ分業ノ法漸ク起リ機械工場ノ増設等益々斯業ノ勃興ヲ見ルニ至レリ今最近五ヶ年間ノ各種主要工産品ノ産額ヲ擧クレハ左ノ如シ

工産品數量價額表

品名	三十四年		三十五年		三十六年		三十七年		三十八年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
白木綿	4,030,000	7,150,807	4,150,807	7,523,950	1,360,033	2,819,909	3,700,063	7,700,910	6,540,019	19,368,210
綿アランネル	7,433,793	7,433,793	7,433,793	7,433,793	7,433,793	7,433,793	7,433,793	7,433,793	7,433,793	7,433,793
木綿緋	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333
綿木綿	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333
綿交織	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333	1,123,333
絹織物	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000
絹織物	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000	3,530,000
生糸	7,977,934	7,977,934	7,977,934	7,977,934	7,977,934	7,977,934	7,977,934	7,977,934	7,977,934	7,977,934
和紙	1,075,225	1,075,225	1,075,225	1,075,225	1,075,225	1,075,225	1,075,225	1,075,225	1,075,225	1,075,225
木蠟	5,422,939	5,422,939	5,422,939	5,422,939	5,422,939	5,422,939	5,422,939	5,422,939	5,422,939	5,422,939
石灰	4,250,339	4,250,339	4,250,339	4,250,339	4,250,339	4,250,339	4,250,339	4,250,339	4,250,339	4,250,339

愛媛縣





テ一般ノ生産界ニ直接ノ關係ヲ及ホスコト亦多大ナリト言フヘシ而シテ現下ニ於ケル水産業ノ狀態ハ漁場ノ狹隘青漁獲等ノ爲メ多少凶漁ヲ訴ヘ沿海漁業ハ萎縮ノ傾キナキニアラスト雖モ而カモ需用ハ多々益々滋クシテ殆ント供給ノ伴ハサル狀況ニ在ルヲ以テ魚價ハ年々向上シ殊ニ運輸交通ノ發達ト共ニ生魚ノ縣外ニ輸出スルモノ日々増加シ漁民ハ比較的富ノ度高キカ如シ而シテ一面韓清海ニ於ケル出漁ハ逐年盛況ヲ呈シテ其漁利又比較的豐富ナルヲ以テ縣ノ生産上ニ於ケル漁業ノ位置ハ益々重要視セララル、ニ至レリ

一、漁業ノ現況

地利ノ便ト豊富ノ魚族ヲ有シ殆ント無盡ノ富庫タリシ海面モ漁民ノ銳意刷新ナル漁具ヲ利用シ其業ニ勵精スルノ結果頻年青漁濫獲ノ弊ニ流レ魚族ハ漸次減少シ加フルニ漁民ノ増加ハ漁場ヲ狹隘ナラシメ沿岸漁業ハ萎縮不振ノ傾キアリト雖モ鰯巾着網鰯揚網鰯敷網打瀬網ノ如キ沖取漁業ハ逐年其數ヲ増加シツ、アリ殊ニ近年縣是トシテ重キヲ遠海漁業ニ置キ之カ勸誘獎勵ニ努メツ、アリテ本邦ニ於ケル海外出漁者中有數ノ位置ヲ占ムルニ至レリ

二、水産業ニ對スル縣ノ施設

内海 漁業

明治三十三年度以降水産試驗場ヲ設置シ斯業者ノ指導誘掖ニ努メツ、アリ

其事業ノ概目ヲ舉クレハ漁撈ノ鮪配細鮪流網、鰯巾着網製造ニ於ケル鯉節、鰯鰯其他油漬罐詰、養殖ニ於ケル蛤及海苔等數年ニ涉リテ精密ナル試驗ヲ遂ケタルモノ又ハ其試驗中ニ屬スルモノアリ鰯巾着網及鯉節鰯ノ改良製法ニ付テハ成績顯著ニシテ當業者ノ之ニ模倣スルモノ續出セリ目今ニ於テハ主トシテ鮪流網ノ使用及鰯鮪等ノ油漬罐詰試驗ニ主力ヲ注キツ、アリ縣下海面ニ鰯ノ産出多額ナルハ全國稀ニ見ル所タレハ之ヲ利用シテ外國向油漬罐詰ヲ輸出

セント計畫シ昨三十八年度以降製品ヲ神戸、横濱、東京貿易商店及ヒ上海天津紐育等ノ居留邦人ニ依頼シ試賣中タリ此製品ニシテ外人ノ嗜好ニ適シ相當ノ價格ヲ保タハ將來有望ノ事業タルヲ以テ當業者間ニアリテモ大ニ注目シツ、アリ

遠海 漁業

多年内地ニ於テ練習ノ効ヲ積ミタル業態ヲ踏襲シテ大ニ發展ノ餘地ヲ存スル韓海出漁尤モ有利ナルハ漁業者ノ夙ニ認ムル處ニシテ爲メニ明治廿九年度以降ハ年々出漁獎勵費ヲ支出シ當初ニ在リテハ出漁民ノ食費及ヒ漁場ノ探檢費ヲ補給シ三十三年度ヨリハ造船補助ニ改メ昨三十八年度以降ハ個人補助ノ方法ヲ變シテ區々ノ出漁者ヲ一致團結セシメ一村毎ニ出漁組合ナル機關ヲ設ケシメ信用組合五、同盟組合十五ニ及ヒ此團體ニ向ツテ補助金ヲ與ヘ(多キハ二百圓少キハ八十圓ニシテ此金額二千六百圓) 出漁獎勵、資金供給基金蓄積規約貯金、移住獎勵、遭難救恤等ニ努メシメ一面ニ於テハ如上ノ組合ヲ統一シテ出漁者相互ノ福利ヲ増進セン爲メ縣下ヲ通シテ遠海出漁團體ノ聯合會ヲ組織セシメ(此補助金二千四百圓)韓國釜山ニ事務員ヲ派シ漁況其他ノ報告ヲ掌ラシムルト共ニ出漁者ノ指導ノ任ニ當ラシメ又不慮ノ遭難者ニ對シテハ應急ノ策ヲ講シテ救恤ノ資ヲ給シ其他韓清ノ水産組合トハ常ニ聯絡ノ便ヲ計リ時ニ其技術員ヲ聘シテ獎勵講話ヲ爲サシムル等々事業ノ進捗ヲ計リ傍ラ未タ以テ出漁者ヲ出サ、ル方面ニ向ツテ當器ノ實業者ヲ選ンテ實況ヲ視察セシメタル結果愈々有望ナルヲ認メ爾後大ニ鼓舞獎勵ニ努メツ、アリ而シテ是等ノ遠海出漁者ハ本邦ヲ通シテ等六七位ヲ占メ人員二百余名ニ達シ出漁地ノ地區ハ沿海十一郡中七郡ニ分布シ殊ニ其漁場ハ益々擴大シテ韓國沿岸ハ殆ント本縣漁船ノ帆影ヲ見サルナキノ盛況ヲ呈シ關東洲方面ニ出漁スルモノモ亦九十餘隻三百余人ノ多キニ及ヒ全國出漁者ノ第二位ニ在リテ將來大ニ發展ノ兆アリ

海外移住漁業

韓海ニ出漁スルモノ、多クハ壯年血氣ノ輩一乘ノ扁舟ニ身ヲ委ネ波濤ノ間ニ幾多ノ辛酸ヲ嘗メ得タル漁利ノ如キモ徒費シテ願ミサルノミナラス通漁者ニ在リテハ間々一獲千金ノ漁期ヲ逸スルノ遺算アルヲ以テ彼地ニ居ヲトシテ一家團樂眷族和樂ノ間ニ業ニ隨ヒ其漁利ノ少ナキ時ニ於テハ地ヲ耕スノ傍ラ漁場ノ保護經營ヲ行フハ刻下ノ急務タルヲ以テ漁船ヲ有シ家族ト共ニ移住シテ三年以上漁業ニ從事セントスルモノニ對シテハ一戸五十圓ヲ補助シテ移住ヲ獎勵シ既ニ決定シタルモノ十九戸四十五人ニ達シ四十年度ニ於テモ少クモ三十戸ヲ得ヘキ豫定タリ

三、水産業ニ對スル施設

公共團體ノ施設トシテハ前項遠海漁業ノ部ニ述ヘタルモノ、外西宇和郡水産組合ノ設立アルモ特ニ顯著ノ事蹟ノ存スルナク其他ノ各郡モ水産組合ノ設立ニ關シテハ現ニ發起認可ノ手續ヲ了ヘタルモノ又ハ之ヲ爲サントシツ、アリテ未ダ以テ記スヘキモノナシ

營利ヲ目的トスル團體及個人ノ施設中左記ノ者ハ斯界ニ頭角ヲ顯セルモノナリ

北宇和郡宇和島町

罐詰業 宇都宮二郎

同 吉田町

同 朝家萬太郎

以上ハ魚介類及ヒ牛肉等内地需用品ノ傍海外出稼人ノ嗜好品トシテ蒲鉾天麩羅等ノ罐詰ヲ輸出シ逐年盛況ヲ呈シツ、アリ

西宇和郡三崎村

罐詰業 丸一組

右ハ主トシテ鮑、鱒、鱒ノ罐詰業ニ隨ヒ韓國沿岸ニモ分工場ヲ設置シ居村ノ漁民ヲ伴ヒ其業ニ從事ス製品ハ多ク清國輸出トシテ長崎市場ニ搬出シ年毎ニ好況ヲ呈シツ、アリ

西宇和郡三崎村

罐詰業 植田虎一

斯ハ丸一組ノ業態ニ倣ヒ漸次基礎ヲ鞏固ナラシメツ、アリ

温泉郡三津ヶ濱町

北宇和郡宇和島町

同 吉田町

同 吉田町

以上ハ漁獲物ノ販賣中介ヲナシ一定ノ手数料ヲ依托者ヨリ徴スルモノニシテ三津魚市株式會社ハ逐年盛況ヲ呈シ其名全國ニ知ラレタル者ナリ

新居郡多喜濱村

右ハ製鹽業者中風ニ著名ナルモノナリ

南宇和郡内海村

右ハ魚撈及水産製品ノ販賣ヲ爲ス客年ノ創立ニシテ事業着々進歩中ナリ

魚類及鹽生産額調

年次	類別		價額	數量
	別	類		
三十四年	上	鱈	一、五七六、二六八圓	二、五〇、七三九圓
		鯛	二、五〇、七三九圓	三、〇五〇、九六〇圓
三十五年	上	鱈	三、〇五〇、九六〇圓	四、二七、五七八圓
		鯛	四、二七、五七八圓	三、〇五〇、九六〇圓
三十六年	上	鱈	二、二四一、二七〇圓	二、七四一、八八四圓
		鯛	二、七四一、八八四圓	二、二四一、二七〇圓
三十七年	上	鱈	三、〇四三、六三六圓	四、九六六、八四六圓
		鯛	四、九六六、八四六圓	三、〇四三、六三六圓
三十八年	上	鱈	二、四八一、五二二圓	三、〇八一、五二二圓
		鯛	三、〇八一、五二二圓	二、四八一、五二二圓
三十四年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十五年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十六年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十七年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十八年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十四年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十五年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十六年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十七年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十八年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十四年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十五年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十六年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十七年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十八年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十四年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十五年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十六年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十七年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓
三十八年	同	鰻	一、七六六、二四一圓	二、七六六、二四一圓
		鰻	二、七六六、二四一圓	一、七六六、二四一圓

林業

本縣ノ山林面積ハ二十三萬餘町歩ニシテ全國有數ノ地位ニ居ルノミナラス氣候溫暖中庸ヲ占メ林業地トシテ有望ナル處  
 タリ維新前ハ各小藩ニ割封セラレタルヲ以テ從テ各藩ノ山林ニ對スル制度其軌ヲ異ニセリト雖モ就中宇和島、大洲、  
 西條三藩ノ如キハ成贖ノ見ルヘキモノアリ然レトモ置縣後制度弛廢セルト同時ニ濫採暴斫ハ到ル處ニ行ハレ禿瘠ノ峰巒  
 其大部ヲ占ムルニ至リ特ニ荒廢ノ度最モ酷シキハ公有ニシテ最近ノ調査ニ依レハ其面積五萬六千六百三十町歩ヲ有シ全  
 山林ノ二割四分強ニ當ル廣袤ヲ占ムルノミナラス其位置多シハ河川ノ源泉地ニ存在スルニヨリ少量ヲ減シ土砂ヲ流シ間  
 接ニ害毒ヲ加フルコト多キ縣下數多ノ河川モ平素一擲ノ水ヲ見ス河身一定セスシラ其荒廢ニ歸セル田園渺カラス則チ之  
 カ禍根ヲ絶ツニハ勢ヒ公有林ノ整理ヲ急務トセサルヘカラサルナリ公有林ノ整理ハ獨リ國土保全上必要タルノミナラス  
 之ヲ合理的ニ經營シ相當ノ收穫ヲ舉クルニ至ラハ町村ノ經濟ヲシテ鞏固ナラシムル最モ有利ノ事業タリ故ニ三十八年三  
 月公有林整理規則ナルモノヲ發令シ爾來之カ調査ニ着手シ六郡内七ヶ町村面積四千九百九十五町歩ノ整理ヲ完了セリ尚  
 ホ三十九年度ニ於テハ縣下各郡ニ於ケル多大ノ林地ヲ有スル町村ニ就キ之カ整理ノ實ヲ舉ケシメ尙ホ進ンテ之ヲ繼行シ  
 數年間ニ於テ三萬餘町歩ヲ樹林地トナシ町村及ヒ學校ノ基本財産ニ充テシメ完壁ノ望ヲ達セントス  
 補助地以外ニ於ケル造林ノ狀況ハ正確ナル統計ニ乏シク之ヲ徵スヘキモノナシト雖モ一ヶ年ノ植栽面積二千町歩ヲ下ラ  
 ス然レトモ之カ改良ヲ要スルモノ少カラス則チ林種ノ改良樹種ノ選定產物ノ利用ノ如キ其最タルモノニシラ林業技師之  
 カ講話指導ニカメツ、アリ就中木炭ノ製造椎茸ノ栽培ノ如キ改良ノ急務ナルヲ認メ三十九年度ニ於テ更ニ專門ノ林業技  
 師ヲ囑託シ管内三ヶ所ニ於テ之ヲ傳習セシカ其効蹟顯著ナルヲ以テ更ニ之ヲ擴張シ一般ニ普及セシメン爲メ林業講習費  
 ナ置キ着々其獎勵ニ努メツ、アリ  
 保安林ニ關シテハ水源涵養、土砂扞止、魚附等ヲ主トシ調査ヲ要スルモノ頗ル多シト雖モ一時ニ之ヲ遂行センニハ莫大  
 ノ費ヲ要スルヲ以テ從來之レカタメ特ニ專務ノ吏員ヲ置カス民間ヨリ申請セルモノ、外緩急事ニ隨ヒ之ヲ調査スルニ止

メシカ林木ノ需用ハ年ヲ逐フテ著シク増加シ濫伐ノ結果地力ヲ減殺シ樹木ノ發育ヲ害シ往々崩壞ノ箇所ヲ生シ降雨毎ニ  
 土妙ヲ流失シ河底ヲ埋メ洪水ノ氾濫ヲ來シ害毒ノ波及スル所計リ知ル可カラサル物アリ之ヲ以テ本年度ニ於テハ管内災  
 害ノ最モ頻繁ナル越智郡ノ島部及ヒ蒼社川、大明神川、加茂川、中山川、國領川、渦井川等ノ水源及流域地約八千筆面  
 積五千町步ヲ調査スルコトトシ之ニ要スル費用二千二十九圓七十錢ヲ支出シ更ニ調査員四名ヲ増シ専ラ之カ調査ニ磨ラ  
 シメントシ目下其施設中ニ屬セリ

林産物生産力價額 (明治三十六年調)

九	材	一三〇、五五〇
角	材	一一四、五八〇
柱	類	三五、六五八
板	類	一二六、八六六
樽	類	六五〇
竹	類	一一、〇九八
薪	類	三八八、一八一
木	炭	八五、三八六
其	他	六九、九〇二
合	計	九六二、八七一

主 産 物

副 産 物

樟	腦及油	三、〇〇〇
松	煙	三〇〇
椎	茸	五、一二〇
炭	粉	六、〇〇〇
椎	皮	四、〇〇〇
棕	櫚皮	二〇、〇〇〇
竹	皮	六八〇
杉	皮	二、二五〇
檜	皮	三〇〇
松	皮	七、五〇〇
松	繩	一〇、〇五〇
五	倍子	五九、二〇〇
合	計	五九、二〇〇

礦 業

本業ハ宇摩郡別子山村ヲ主要地トシ西宇和郡宮内村、川ノ石村、伊方村其他ニ於テモ多少産出ス而シテ其製産ノ多大ナル  
 ヲ別子鑛山トス同山ハ大阪市住友左衛門ノ經營ニ係リ今ヨリ二百八十年以前即チ元錄三年之ヲ發見シ同四年四月鑛業  
 ヲ創始セリ當時鑛山ノ北背ニ長谷坑ト稱スル一坑アリ寛永年間ヨリ大阪屋某ノ稼業スル所ナリシカ元錄八年ニ至リ別子

長谷ノ兩坑偶然貫通シ始メテ同一ノ鑛床ヲ探掘スルコトヲ知リシヨリ熟議ノ末終ニ長谷坑ヲ住友ニ譲リ受ケ爾後全ク住友一家ノ經營スル所トナリ諸般ノ設備完全シ其整頓觀ルヘキモノアリ今最近五ケ年間ノ產出額ヲ示セハ左ノ如シ

鑛產物產出額

種別	三十四年		三十五年		三十六年		三十七年		三十八年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
銅	九〇三九六六斤	九二一九六二五斤	九二一九六二五斤	一〇〇三七七三三〇斤	九三三七五九二斤	九三三七五九二斤	六三三六三三〇斤	三〇〇八八八八斤	三〇〇八八八八斤	三〇〇八八八八斤
安質母尼	四七八九九八斤	三四三〇二七斤	三四三〇二七斤	四八九〇三五斤	三七七二七八斤	三二五〇一五斤	三二五〇一五斤	三〇七二二八五斤	三〇七二二八五斤	三〇七二二八五斤
合計										

畜産業

本縣ノ畜産業ハ全部ヲ通シテ盛ナラスト雖モ地方ニヨリテハ大ニ見ルヘキモノアリ又農家ハ古來牛馬ヲ飼育シ或ハ耕作ニ又ハ運搬用ニ供スルヨリ個人ニシテ一二頭ヲ飼育スルモノヲ普通トス然レトモ牧場ヲ有シ牧畜業ヲナスモノニ至リテハ僅カニ南宇和郡ニ共同牧場二三アルノミ概シテ宇和郡ハ牛ノ飼育盛ニシテ殊ニ南宇和郡御莊牛ハ其名聲高ク性質溫良ニシテ軀幹肥大ナルヲ以テ大ニ賞揚セラル又本郡ニハ産牛組合ヲ設ケ良種ノ繁殖ヲ圖リツ、アリ馬ハ越智、温泉、伊豫上浮穴ニ産シ甚シク良種ニアラサリシモ近年馬匹改良ニ意ヲ注キ種馬所ヨリ良種ノ貸下ヲ受ケ之レカ種付ヲナシツ、アレハ其改善ヲ見ル近キ將來ニアラン今最近五ケ年間ノ畜產ヲ計上スレハ左ノ如シ

種別	三十四年		三十五年		三十六年		三十七年		三十八年	
	產額	價額	產額	價額	產額	價額	產額	價額	產額	價額
種別	五、二七〇頭	三六、八九〇圓	四、五五五頭	四四、三三三圓	四、五五五頭	四六、三三三圓	四、五五五頭	四六、三三三圓	四、五五五頭	四六、三三三圓
馬	三、五九〇頭	三、三九〇圓	二、七六〇頭	二、七六〇圓	三、四九五頭	三、四九五圓	三、〇〇〇頭	三、〇〇〇圓	四、四四六頭	四、四四六圓
牛	一、六八〇頭	四〇、二八〇圓	一、七九五頭	四七、五七三圓	一、〇六〇頭	四一、八三八圓	一、五五五頭	四九、三三五圓	一、〇〇九頭	八七、六五五圓
合計										

重要工産品

綿織物

六、二〇〇、六五三圓

種別	價額	種別	價額
一、産額 (三十八年)	六、二〇〇、六五三圓	二、種別	綿ネル
二、種別	綿ネル	三、主産地	越智郡今治町
三、主産地	越智郡今治町		周桑郡
			伊豫郡
			松山市
			北宇和郡
			其他綿物物
			絹綿交織
			綿ネル
			木綿緋
			縞木綿
			其他綿物物
			絹綿交織
			綿ネル
			越智郡今治町
			温泉郡
			西宇和郡
			喜多郡
			伊豫郡
			北宇和郡
			松山市
			北宇和郡

四、事業ノ沿革

愛媛縣

(一) 木綿緋

伊豫緋(一名今出緋ト曰フ)ハ今ヲ去ル八十餘年以前即チ文政五年ノ頃現今温泉郡西垣生村字今出ニ健谷清七ナルモノアリテ其女かなト呼フ者偶々讃岐琴比羅社ニ參詣シ同宿者ノ中ニ緋ノ着衣ヲナセル者アルヲ見テ心ニ之ヲ悦ヒ如何ニモシテ之ヲ摸倣セント欲シ歸村ノ後試ニ木綿絲ノ各所ヲ締結シ之ヲ染ムルニ青草ノ搾リ汁ヲ以テシ機ニ卷上ケテ織立テタルニ稍ヤ良好ノ成蹟ヲ得タリ茲ニ於テ之ヲ比隣ニ傳習シ爾來益々改良セラレテ今日ノ發達ヲ見ルニ至レリ

(二) 白木綿

白木綿ハ越智郡今治町故柳瀬義達ノ創業ニ係ル同家ハ世々今治町ニ住シ商ヲ營ミ藩主ノ用達ヲ蒙リ年寄格タリ義達幼ニシテ願悟學ヲ好ミ長シテ百料ノ書ヲ涉獵ス藩ノ子弟之レニ師事スルモノ甚タ多シ其家ヲ承ケルヤ一意専心業ニ從ヒ亦奉公ノ節ヲ盡スヲ以テ巳ノ任トナス義達亦常ニ地方物産ノ未タ振ハス下民ノ婦女子ニシテ日常ノ好職業ナキヲ痛ミ以爲ラク由來地方婦女子ノ機織ニ熟スル者必ス白木綿ノ製織ニ成功ヲ見ルヘント自ラ木綿商舖ヲ開キ試ミニ數名ノ工女ヲシテ其製織ニ從事セシメタルニ始マル

(三) 綿ネル

綿ネルハ越智郡大井村故矢野七三郎ノ創設ニ係レリ同人ハ常ニ殖産興業ノ心厚ク明治十七年金山輸入ノ影響ヲ受ケ同地方特産タル綿替木綿ノ販路壅塞シ著シク其産額ヲ減シ窮身日ニ月ニ多キヲ加ヘタルヲ以テ之ヲ救濟策トシテ綿ネル業ヲ興サンコトヲ計畫シ和歌山縣和歌山市ニ行キ同業ニ關スル精密ナル調査ヲ遂ケ二三ノ有志ト相計リ明治十九年今治町ニ合資會社ヲ設立シ製織ニ從事シタルニ始マレリ

五、製造戸數及職工數 (三十八年)

製造戸數 七四、七六三戸  
職工數 一五二、三〇一人

六、製産狀況

工場作業ハ百四十八戸、原動力(蒸氣)機關ノ使用數三個、馬力二十三ナリ

工場作業ニテ營業ヲ爲ス者百四十八戸其他ハ主トシテ家内工業殊ニ農家ノ副業ニ屬ス縣内到處ニ普及シ製織ノ業ヲ見サルノ地ナシ近時染色其他品質ノ改善セラル、アリ爲メニ市價ヲ高メ産額逐年増加シ益々盛況ヲ呈セリ

七、原料ノ需要供給

原料ハ各地紡績ヲ使用シ居レリ

八、製産費及收益ノ比較

平均壹反ノ製造費ハ	七十五錢
原料代	三十錢
織賃	壹圓五錢
計	

ニシテ約二十錢ノ收益アリト云フ

九、販出額及仕向地

製産額ノ大部ハ大阪、中國、九州ノ各地及滿、韓地方ニ販出ス

十、販賣手續及取引慣習

仲買人ニ賣却シ仲買人ハ會社若クハ主ナル問屋ニ販賣シ次ニ輸出商人ノ手ニ移ツルヲ普通トス

十一、相場

各種織物ニ付キ其平均相場ヲ示セハ左ノ如シ

木綿緋	一反ニ付	一圓三十錢
練ネル	同	五圓七十錢
白木綿	同	四十錢
縞木綿	同	九十錢

十二、輸出状況

價格ノ低廉ナルヲ以テ需要増進シ好況ヲ呈セリ

十三、重ナル製造者

木綿緋	松山市	田内榮三郎
綿ネル	越智郡今治町	柳瀬義明
白木綿	同郡日吉村	阿部合資會社
	同郡今治町	丸今合資會社

十五、事業上ノ施設

各郡ニ同業組合ヲ設ケ品質ノ改良粗製品ノ防止等ニ力ヲ盡シツ、アリ

清酒

一、産額 (三十八年)

數量	九七、九二六石
價額	三、四二七、六八五圓

二、主要産地

温泉郡	西宇和郡	北宇和郡
喜多郡	越智郡	其他各郡

三、製造戸數及職工數

製造戸數	四八八戸
工場	一箇所
職工數	一、七二〇人

四、製産状況

三十四年頃ヨリ三十八年頃ニ至ル商況ハ甚タ不振ニシテ税額ハ嵩ミ當業者ハ非常ノ困危ニ陥リ事業大ニ衰頽シタリシカ三十九年頃ヨリ實行キ好良ニシテ産額モ亦増加セリ

五、原料ノ需要供給

多クハ地方米ヲ使用スレトモ不足ノ場合ハ隣縣ヨリ仰ク

六、製産費及收益比較

清酒一石ニ對スル計算ヲ示セハ大要左ノ如シ

收入

一金三十五圓

賣上金高

愛媛縣



支 出

一金三十二圓五十錢五厘

内 譯

金 十二 圓

原料米買入代金

金三四五十錢五厘

製 造 費

金 十七 圓

稅 金

差 引

金二四四十九錢五厘

利 益

七、販出額及仕向地

大部分ハ縣内ノ需要ナリト雖モ三十八年ニ於ケル海外輸出額四九二、三〇〇圓アリ其他九州、中國ニ販出スル額亦少シトセス

八、販賣手續及取引慣習

仲買人ニ賣渡シ仲買人之ヲ販出シ代金ハ年末計算トセリ地方賣渡ハ年二期ニ計算ス

九、相 場

三十七、三十八兩年ニ於ケル平均相場ハ左ノ如シ

三十七年

一石ニ付

三十二圓

三十八年

同

三十三圓

十、輸出狀況

本縣製産品ハ概シテ良好ナルヲ以テ縣外、縣内共ニ賣行キ宜シト云フ

十一、荷 造 法

多ク樽詰トナシ個詰トナスハ少ナシ

十二、重ナル製造者

松山市本町

岡酒造合名會社

西宇和郡喜須木村

鎌田合名酒造會社

松山市松前町

栗 田 幸 次 郎

十三、事業上ノ施設

當業者協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スル目的ヲ以テ各郡市ニ組合ヲ設置セリ

綿 絲 紡 績

一、産 額 (三十八年)

數 量

五二一、一一五反

價 額

二、三三〇、八九九圓

二、主 要 産 地

溫泉郡朝美村

越智郡今治町

西宇和郡八幡濱町

同郡川ノ石村

三、事業ノ沿革

愛媛縣

本縣ハ各地共綿織物ノ製造盛ナレハ其原料供給ノ目的ニテ明治三十四年以後各地ニ設立シタルモノナリ

四、製造戸數及職工數 (三十八年)

工場數 四箇所  
職工數 六〇六人

五、製産狀況

本縣ノ綿織物ノ逐年盛況ヲ呈スルニ伴ヒ本業モ亦益々盛大ニ向ヘリ

六、原料ノ需要供給

原料ハ總テ輸入棉花ヲ使用ス

七、仕向地

多クハ各其地方ノ需要ヲ充タスニ過キス

八、重ナル製造者

松山紡績會社 西宇和郡川ノ石紡績會社  
越智郡今治紡績會社 西宇和郡八幡濱紡績會社

生 絲

一、産 額 (三十八年)

數 量 二三、四〇四貫  
價 額 一、二九八、七三二圓

二、種 類

器 械 絲 座 繰 絲

三、主要産地

喜多郡 北宇和郡 東宇和郡 西宇和郡

四、事業ノ沿革

座繰ハ往古ヨリセシモ機械力ヲ用ユルハ明治二十三年頃ヨリ始マリタルモノナリト云フ

五、製造戸數 (三十八年)

工場 二九箇所  
家 内 二、四四五戸

六、製産狀況

本縣ハ養蠶盛ナルカ故ニ製糸業モ亦共ニ隆盛ナリ

七、販出額及仕向地

産額ノ中九〇二、三〇〇圓ハ横濱ヲ經テ米國ニ輸出セラレ自餘ハ主トシテ京都ニ販出セラル

八、相 場

最近ノ調査ニヨレハ一貫目ニ付五、六十圓ナリト云フ

九、重ナル製造者

西宇和郡川ノ石村 伊豫製絲株式會社  
北宇和郡宇和島町 宇和島製絲株式會社  
愛媛縣

喜多郡瀧川村 伊豫白瀧製絲株式會社  
 同郡喜多村 大洲製絲株式會社  
 同郡同村 喜多製絲合名會社

和紙

一、産額 (三十八年)

價額 一、二七六、〇九二圓

二、種類

美濃紙 仙貨紙 コツビー紙 半紙  
 半切 雁皮紙 奉書紙 塵紙  
 典具帖紙

三、主要産地

宇摩郡 東宇和郡 喜多郡 温泉郡 周桑郡

四、事業ノ沿革

文久、元治ノ頃ハ只僅ニ山間ニ於テ楮皮ノ産出アリシノミニシテ製紙ノ業未タ興ラス當時新瀨川草上山草ト稱シ現今ノ宇摩郡新立村大字新瀨川及上山村地方ニ産スル楮皮ハ其産額多カラサリシモ品質ノ善良ナルヲ以テ著ハレ附近各村産ノ楮皮ト共ニ毎年四五千貫ヲ隣國ニ輸出シ來リシナリ此等良質ノ原料ト宇摩郡金生川流域ハ後日本縣製紙業ノ勃興ヲ促シタルモノニシテ此等ノ原料ハ悉ク地方製紙ノ原料ニ供セラル、所トナリシノミナラス明治初年ニ至

リテハ尙幾倍量ヲ阿波土佐ヨリ輸入セラル、ニ至リ今ヤ遠ク中國地方ヨリ之ヲ仰クマテニ盛大トナレリ

五、製造戸數及職工數 (三十八年)

製造戸數 四、四九八戸  
 職工數 男 五、〇四一人  
 女 七、四三九人

六、製産狀況

三十九年末ヨリ積雪ノ爲メ三極栽培ノ困難ナリシヲ以テ本年新皮ノ産出饒多ナラス從テ代價ノ暴騰ヲ來シ加フルニ工賃年々騰貴シテ製産上甚タ困難ノ狀況ヲ呈セリ然レトモ宇摩郡ノ如キ客冬來工費輕減ノ目的ニ依リ七ヶ所ノビータ工場起リ勢カラス製造家ニ便益ヲ興ヘタルヲ以テ製産上著シキ變動ナク目下ノ所現狀維持ノ状態ナリ

七、原料ノ需要供給

原料トシテハ三極、楮皮、蕁等ニシテ個人經營ニ係ル原料供給機關アリ原料ハ縣内ニ産スルモノヲ主トシテ需用スレトモ其不足ノ部分ハ徳島、高知、島根、鳥取、山口、岡山、廣島ノ各縣ヨリ輸入ス

八、製産費及收益ノ比較

製造費多額ニシテ收益一割内外ナリトス

九、販出額及仕向地

産額ノ中六七九、四一三圓ハ東京、京都、大阪、北海道、中國、九州、東海道ノ各地及英、米、清、韓ノ各國ニ輸出ス

十、販賣手續及取引慣習

内地取引ハ荷着代金取立六十日拂若クハ三十日拂、懸賣、荷爲替付出荷ノ三種アリ而シテ懸賣込最モ多ク爲替付送

荷ハ最モ少ナシ

十一、相場

小判紙	一 束(二百枚)ニ付	二十錢乃至二十四錢
書院紙	一 束(四百八十枚)ニ付	七十五錢乃至九十五錢
コッピ紙	一 リームニ付	二 四

但内外國向重ナルモノトス

十二、輸出状況

近來製造工費ノ騰貴ニ伴ヒ兎角値安物賣行宜シク清韓國ニ向テ輸出スルモノ又ハ内地向ニテハ九州ノ如キ混合製土佐物ノ爲メニ壓倒セラレ其他一般特種製品ノ他ハ内地製西洋紙ノ爲メ販路ノ幾部ヲ占領セラレツ、アルヤノ感アリ

十三、輸出先ニ於ケル嗜好及其變遷

清韓ニ於ケル需用ハ未タ幼稚ナルヲ以テ品質ノ精良ヲ云フモノ少ク從テ混製品ヲ歡迎スル時代ニアリ其他外國向ニテハ差當リコッピ紙ニシテ是又近來ハ代價ノ點ヨリ兎角乙品ヲ歡迎スルノ傾アリ

十四、荷造法其費用並ニ運賃諸費保險料

普通荷造ハ内部ハ板挾ミトナシ若クハ框挾ミトシ外面ハ苞トス其費用一個ニ付金貳拾錢以上外國行ハ堅固ナル板箱ニ收ム其費用一個ニ付金貳圓總テ神戸迄運賃平均一個ニ付金貳拾錢保險料一個ニ付約三錢ヲ要ス

十五、外國輸出先ニ於ケル代用品及競争品

清韓國ニ於テ我カ改良判紙及半切紙ニ代用シ若クハ競争セントスルモノハ獨逸製機械漉サラ紙及近來内國製機械漉模造紙等ナリ又歐米ニ於ケル我カ「コッピ紙」ニ向テモ機械漉ノ壓迫ヲ蒙ルモノ、如シ

十六、長所欠點並ニ改良スヘキ要點

原質ハ高知其他ニ優リ抄造ハ静岡其他ニ優リテ獨特ノ長所アリト雖モ只工費ヲ低減スルノ方法ニ苦心シ出來得ル限リ機械作業ニ遷スヲ以テ刻下ノ急務ナリト認ム

十七、重ナル製造者

宇摩郡上分村	薦田篤平
同 郡金生村	石村虎市
同 郡川之江町	谷井久太郎
同 郡三島町	住治平
周桑郡中川村	三好直五郎
同 郡石根村	織田孝助
同 郡國安村	越智新平
同 郡同村	近藤豊太郎

十八、事業上ノ施設

當業中心點タル宇摩郡ノ如キハ客年四月初メテ紙業組合ノ組織成ルモ日未タ淺クシテ見ルヘキ施設ナシ只工費低減ノ目的ヲ以テ「ビータ」會社ヲ獎勵補助シタル如キハ多少組織ノ目的ニ適ヘルモノト云フヘキカ

木 蠟

一、産額

(三十八年)

愛媛縣

數量 八二六、七二九貫  
價額 一、二一〇、一六八圓

二、種類

生蠟、晒蠟ノ二種アリ

三、主要産地

生蠟ハ西宇和、北宇和、喜多、伊豫、周桑ノ各郡トス

晒蠟ハ喜多、西宇和、伊豫ノ各郡トス

四、事業ノ沿革

本業ハ最モ古クヨリ行ハレシモノニシテ本縣特有物産タリ往古ニ在リテハ内國ニ於テ蠟燭用及燻付用ニ供スルニ止マリシカ近時海外へ輸出ノ途開ケ之レカ用途ニ於テモ種々ノ工藝品用及織物ノ色付用等ニ供スルニ至リ之カ需要著シク増加シ價格爲ニ騰貴セシモ果樹栽培ノ利益ナルヲ認メ原料減少シ隨テ製造者モ減スルノ傾向ニアリ

五、製造戸數及職工數

(三十八年)

製造戸數	生蠟	三〇五戸
	晒蠟	四六
職工數	生蠟	七三〇人
	晒蠟	一二五

六、製産狀況

明治三十三年ノ頃價格下落シ當時失敗シテ廢業ヲナシタルモノアリ且櫛實ノ不作ニヨリ産額割合ニ増加セス一時

甚タ沈衰ノ有様ナリシカ近時價格ノ騰貴ニ伴ヒ稍々活氣ヲ催シツ、アリ

七、原料ノ需要供給

大部分縣内産ヲ用フルモ其不足ノ部分ハ大分地方ヨリ輸入ス

八、製産費及收益ノ比較

生蠟	收入	一斤ノ賣價
	一金二十八錢	
	支出	
	一金二十六錢	
内譯		
	金二十二錢四厘	原料一貫目代
	金二錢五厘	製造費
	金一錢一厘	諸費
差引		
	金二錢	利益
晒蠟	收入	
	一金三十一錢	一斤ノ賣價
	愛媛縣	

支 出

一金三十錢

内 譯

金二十七錢

原料一斤代

金一錢八厘

製 造 費

金一錢二厘

諸 費

差 引

金壹錢

利 益

九、販出額及仕向地

産額ノ中生蠟ハ六二三、四二三圓晒蠟ハ四二三、二五六圓大阪及神戸ニ販出セラル

十、販賣手續及取引慣習

現金取引延取引中ニハ委託販賣、荷爲替ノ取組等ヲナスモノアリ其歩合左ノ如シ

阪神ニ於ケル委託販賣手数料百圓ニ付 四 圓

同 荷爲替歩合百圓ニ付 三錢五厘

十一、相 場

生蠟百斤ニ付 二十七圓

晒蠟同 三十一圓

十二、輸、出 状 況

外國へハ直輸出ヲナサ、ルヲ以テ詳細ヲ知ル能ハスト雖近時製品ノ精撰ハ著シク其品質ヲ高メ縣外輸出先ニ於テ好  
評ヲ博セリ

十三、荷造法其費用並ニ運賃及保險料

木製石油箱ノ明キ箱ニ入レ繩ヲ以テ縛ル其費用一個ニ付十四錢

運賃ハ大阪神戸マテ一個ニ付二十錢(主産地西宇和郡ヨリ)

保險料大阪神戸共千圓ニ付九十錢

十四、輸出先ニ於ケル代用品及競争品

パラスサン、センション、マチアリン

十五、長所欠點並ニ改良スヘキ要點

奸商ノ不正手段ニテ支那蠶ヲ混合輸出スルモノアリト聞ク大ニ警戒ヲ加ヘ取締ヲ嚴ニスルト俱ニ粗悪ナル製造ヲ爲

サルコトニ勉ムルハ肝要ナリト思考ス

十八、重ナル製造者及取扱商店

製 造 者

西宇和郡八幡濱町

浦 中 要 三 郎

同 郡 同 町

井 上 安 治

北宇和郡丸穂村

河 武 昇

東宇和郡上宇和村

本 多 好 禮

同 郡 横 林 村

井 關 幸 助

愛媛縣

取扱店

- 神戸市 喜多組
- 大阪市中ノ島三丁目 川原儀吉
- 同 市高麗橋 築紫三治郎

西字和木蠟業組合、上浮穴木蠟業組合喜多木蠟業組合等ノ組合アリテ斯業ノ發達ヲ企圖セリ

醬油

一、産額 (三十八年)

數量 二六、一五六石

價額 五二三、二四〇圓

二、主要産地

北字和、西字和、越智、上浮穴、南字和、温泉新居ノ各郡トス

三、製造戸數 (三十八年)

製造戸數 四八八戸

四、製産狀況

三十五六年頃ヨリ原料ノ價格騰貴セシト非常特別税ノ賦課トニヨリ三十九年ニ至リ價格著シク暴騰シ自家用醬油ノ醸造大ニ増加セリ

五、原料ノ需要供給

地方生産ノ麥ヲ使用ス

六、相場

一石ニ付 拾八圓

石灰

一、産額 (三十八年)

數量 一八、八四八、九六九貫

價額 二二八、八七九圓

二、主要産地

東字和、越智、北字和、西字和、喜多、上浮穴ノ各郡トス

三、製造戸數及職工數 (三十八年)

製造戸數 三六四戸

職工數 一、〇五一八

四、製産狀況

毎年産額ニ多大ノ増減アルモ近時販路ノ擴張セル爲メ將來益々盛大トナラント云フ

五、原料ノ需要供給

各其郡ニ於テ産出ス殊ニ東字和郡ニ於テ最モ豊富ナリトス

愛媛縣

- 六、製産費及收益ノ比較  
四貫五百目入一俵ノ製産費約四錢位ニシテ收益微々タリ
- 七、販出額及仕向地  
販出額ハ七千三十萬貫ニシテ土佐、中國九州及韓國ニ輸出ス
- 八、販賣手續及取引慣習  
和船ニ搭載シ各需要地ノ要港ニ回漕シテ販賣ス
- 九、相場場  
壹俵(四貫乃至四貫五百目入)五錢乃至五錢五厘
- 十、荷造法及其費用  
俵入トナス凡ソ壹錢ヲ要ス

瓦

- 一、産額 (三十八年)  
數 量 一八、二七八、五二三枚  
價 額 二〇一、五六九圓
- 二、主要産地  
越智郡菊間村及温泉、北宇和、西宇和、東宇和、喜多ノ各郡トス
- 三、製造戸數及職工數 (三十八年)

製造戸數	四三四戸
職工數	男 一、〇六〇人
	女 五九

- 四、製産狀況  
概シテ家内工業ニシテ普通手工ニ因ル三十七八年戰役ノ當時ハ極メテ不振ナリシカ平和克復後ハ需要頓ニ増加シ商況盛ナルニ至レリ
- 五、原料ノ需要供給  
地方ニ粘土豊富ニシテ無盡藏ナリト云フ
- 六、製産費及收益ノ比較  
原料代ハ賣價ノ三四六分ヲ占メ製産費亦六割ヲ要シ利益ハ僅カニ四歩アルノミ
- 七、販賣手續及取引慣習  
直接販賣ニシテ總テ現金取引ナリ
- 八、相場場  
壹枚ニ付平均壹錢乃至壹錢五厘トス

陶磁器

- 一、産額 (三十八年)  
價 額 一九六、二〇三圓

愛媛縣



二、主要産地

伊豫郡砥部村

三、事業ノ沿革

安永四年時ノ大洲藩主加藤泰候前大村藩ヨリ職工五名ヲ傭聘シ現今ノ砥部村大字五本松字上原ノ特産タル伊豫砥ノ屑ヲ原料トシ砥部焼ト稱スルモノヲ始メテ製出セリ然ルニ當時製品良好ナラサルヲ以テ更ニ職工ヲ筑前ニ派シ製法ヲ研究セシメ漸クニシテ稍々完全ナルモノヲ製出セリ其後現今ノ北山崎大字三秋ニ於テ好原料石ヲ發見シ爾來續々之ヲ得ルニ至リシヨリ藩廳ニ於テモ大ニ斯業ノ獎勵ヲナシ其工場ヲ門田金次ナル者ノ有トナシ更ラニ肥前ヨリ職工ヲ増聘シ益々斯業ノ隆盛ヲ圖レリ然レトモ技術尙ホ未タ進マス時ニ收支相償ハサルニ至リ將ニ廢絶ニ歸セントセシコト屢々ナリシカ金次ノ千辛萬苦ハ以テ是等窮境ヲ脱シ茲ニ初メテ砥部焼ノ基礎ヲ立ツルヲ得タリ爾來世ノ變遷ニ伴ヒ時ニ消長ナキニアラサリシモ漸次進歩シテ今日ニ至レリ  
近來世人ノ賞讃ヲ博シタル淡黄磁器ハ明治二十二年向井和平ノ製造ニ始マリシモノニシテ爾來繼續シテ今日ニ至リ  
同地ノ重要物産トシテ算セラル

四、製造戸數及職工數

(三十一年)

製造戸數

二五戸

職工數

三六七人

五、製産狀況

三十七八年ハ戰爭ノ影響ヲ受ケ不振ナリシモ尙其産額ハ逐年増加ヲ呈セリ殊ニ三十九年ノ如キハ價額前年ニ比シ著シキ増加ヲ示セリ方今ニ於ケル本業ハ甚タ好況ニシテ前途亦益々好望ナリ

六、原料ノ需要供給

原料粘土ハ産地附近ニ於テ多量ニ存在ス

七、製産費及收益ノ比較

一個平均價格壹錢二厘八毛強ニ對スル製産費及收益ノ比較ヲ示セハ左ノ如シ

收 入	平均一個ノ賣價
一金一錢二厘八毛強	
支 出	
內 譯	
金二 厘強	原料石代
金四 厘	工 賃
金三 厘強	薪 料
金一 厘強	雜 費
差 引	
金六 毛強	利 益

八、販出額及仕向地

販出額ハ一九六、二〇三圓ニシテ大坂、神戸、清國、韓國ニ輸出セラル

九、販賣手續及取引慣習

愛媛縣

内國向ハ大阪及松前商人ニ直賣シ海外向ハ神戸ノ商人ニ直賣ス取引ハ總テ現金ニテ行ハル

十、相場  
目下好況ニシテ騰貴シツ、アリ

十一、輸出状況  
内外國向共ニ商況盛ニシテ製品拂底ノ好況ナリ

十二、輸出先ニ於ケル嗜好並ニ其變遷

外國輸出先ニ於ケル需要嗜好共ニ漸次増加シツ、アリ之レ品質ノ堅牢ナルト一般ノ需要ニ適スルノ品ナルヲ以テナリ

十三、輸出先ニ於ケル用途並ニ需要程度及需要者ノ階級

日用品ナルヲ以テ販路廣ク需要者ハ中流以下ニ多シ

十四、荷造法其費用並ニ運賃諸費

内國向ハ菰包トナシ外國向ハ箱詰トス荷造費及運賃等ハ一ケ年平均大阪神戸迄七錢六毛、伊豫郡松前村迄三錢二厘六毛ナリ

十五、長所

品質堅牢安價ニシテ日用品ニ適ス

十六、重ナル製造者及取扱商店

製造者

伊豫郡砥部村

向井和平

同 郡同 村

坂本源 吾

同 郡北山崎村

金岡龜十郎

取扱商店

大 阪 市

貞國商店

同

梅商店

神 戸 市

池田商店

十七、事業上ノ施設

伊豫郡陶器業組合ヲ組織シ本郡内ノ營業者ヲシテ組合員トシ改良發達ヲ企圖セリ

下 駄

一、産 額 (三十八年)

數 量 一、四〇二、四二三

價 額 一七七、〇二六圓

二、主要産地

松山市及温泉、西宇和、北宇和、喜多ノ各郡トス

三、製造戸數及職工數 (三十八年)

製造戸數 一六四戸

職工數 四五二人

愛媛縣

四、製産狀況

著シキ盛況ヲ見スト雖モ漸次順境ニ進ミツ、アリ

五、原料ノ需要供給

地方山林ノ産材ヲ用フ甚タ豊富ナリ

六、製産費及收益ノ比較

收入

一金三十錢

一足ノ賣價

支出

一金二十七錢

内譯

金二十錢

原料代

金五錢

工賃

金二錢

諸費

差引

金三錢

利益

七、販賣手續及取引慣習

小賣ハ現金卸賣ハ延取引トス

八、相場

一足平均三十錢トス

砂 糖

一、産額 (三十八年)

數量 一八二、九五九

價額 一四八、三〇六圓

二、種類 白 下 白 砂 糖 赤 砂 糖 黒 砂 糖

三、主要産地

宇摩、伊豫、新居、温泉ノ各郡トス

四、製造戸數及職工數 (三十八年)

製造戸數 二六一戸

五、製産狀況

洋糖ノ輸入ニ壓倒セラレ加之重税ニ堪ヘス近時衰退ノ悲境ニ陥レリ

六、製産費及收益ノ比較

平均百斤ノ原料代四圓六十錢製造費五圓四十錢ニシテ約四五十錢ノ利益アルニ過キスト云フ

七、相場

百斤ニ付十一圓四十錢位トス

愛媛縣

茶

一、産額 (三十八年)

數 量 九七、一三七貫

價 額 六五、五一六圓

二、種類 玉露 煎茶 紅茶 番茶

三、主要産地 上浮穴、東宇和、北宇和、喜多、周桑ノ各郡トス

四、製造戸數及職工數

製造戸數 二二、一二三戸

職工數 六五、一三六人

五、製産狀況

綠茶ハ原料及工賃ノ漸次昂騰スルニモ拘ハラズ製品價額之ニ伴ハズ收支相償ハサルヲ以テ製造者産額共ニ減少セリ  
將來産業組織ヲ改メテ家内作業トナスカ若クハ原動力ヲ使用スヘキ大工場作業トナスニアラサレハ損失ヲ免カレサ  
ルヘシ

番茶ハ普通茶法ニ依リ農家各自ノ副業的ニ之ヲ製スルモノナレハ毎年其産額ニ大差ナシ

六、原料ノ需要供給

各自ノ茶樹ヨリ採取ス

七、製産費及收益ノ比較

番茶百斤ニ付

原料代 貳 圓

製造費 參圓五拾錢

收益 貳圓五拾錢

八、販出額及仕向地

販出額五萬貳千圓神戸ヲ經由シテ米國ニ輸出ス其他ハ内地各地ニ販出ス

九、販賣手續及取引慣習

組合ハ直接神戸ニ送り他ハ仲買人ニヨリテ神戸ニ送り同市商人ニ委託販賣ス其手数料ハ金高ノ百分ノ十五ニシテ荷  
爲替ハ現今附スルモノナシ

十、相場

釜及日干製ハ最高十八圓、中十二圓最低七圓、爐製ハ三十圓乃至四十圓ナリ

十一、輸出狀況

神戸商人ノ手ニテ輸出サル、ニヨリ詳ナラス概シテ不振ナルカ如シ

十二、荷造法其費用並ニ運賃諸費及保険料

箱ニ入レ細ヲ掛ク箱代及神戸迄ノ運賃諸掛百斤ニ對シ三圓五十錢ヨリ四圓迄トス

十三、重ナル製造者及取扱商店